

まちづくり指標等の進捗分析報告

1. まちづくり指標について

総合計画の目標である40の「めざすまちの姿」を実現するため、目標に対して、どの程度達成できているのか成果を測る“ものさし”であり、目標が達成に近づいているかどうかを客観的に確認することができる。

さらに、達成目標を明確にするために、まちづくり指標の現状値を調査した上で、5年後（R2）・10年後（R7）の「めざそう値」を設定している。

2. めざそう値達成に向けた進捗状況について

まちづくり指標ごとの達成状況については別紙参照

| | ◎ | ○ | ▲ | 達成に向けた進捗率(※) |
|------|----|----|----|--------------|
| 安心 | 5 | 11 | 7 | 69.57% |
| 快適 | 7 | 9 | 5 | 76.19% |
| 健やか | 4 | 5 | 5 | 64.29% |
| つながり | 5 | 10 | 9 | 62.50% |
| 誠実 | 18 | 4 | 1 | 95.65% |
| 元気 | 6 | 7 | 7 | 65.00% |
| 挑戦 | 11 | 13 | 16 | 60.00% |

(※) は◎及び○の割合

表1 理念ごとの達成に向けた進捗率

凡例

◎：現状値が、めざそう値（R2）を達成している

○：現状値が、めざそう値（R2）を達成していないが、達成傾向である

▲：現状値が、めざそう値（R2）を達成していない

3. 中施策事業について

「めざすまちの姿」を実現するために実施する市の取り組み。個々の事業については、毎年度見直しを行う実施計画に記載している。

| 理念 | めざすまちの姿 | まちづくり指標 | 基準値 (H26) | 現状値 (R1) | めざそう値 (R2) | 達成状況 |
|----|---|--|--------------|-------------|---------------|------|
| 安心 | 1 子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVなどがない | 1 虐待やDVなどが起こらないように見守る地域のネットワークができていていると思っている市民の割合(%) | 23.1 | 30.1 | 35.3 | ○ |
| | | 2 虐待・DVの相談件数(件) | 1,685 | 1,640 | 1,780 | ▲ |
| | | 3 虐待・DVの認定件数(件) | 59 | 50 | 42 | ○ |
| | | 4 虐待やDVなどに遭遇したときにためらいなく通報できている市民の割合(%) | 58.3 | 58.3 | 69.0 | ▲ |
| | | 5 まわりに助けを求められることができる人がいる子どもの割合(%) | 85.7 | 85.2 | 90.7 | ▲ |
| | | 6 まわりに助けを求められることができる人がいる高齢者の割合(%) | 59.7 | 62.8 | 68.0 | ○ |
| | | 7 まわりに助けを求められることができる人がいる障がい者の割合(%) | 70.9 | 74.5 | 78.9 | ○ |
| | 2 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を執行しており、市民が安心している | 1 医療や福祉施設、制度の利用者の満足度(%) | 49.6 | 63.9 | 58.9 | ◎ |
| | | 2 利用できる医療施設、福祉施設の数(施設) | 143 | 169 | 153 | ◎ |
| | | 3 医療や福祉分野における連携プロジェクトの数(事業)(具体的な事業数のため運営協議会等は除く) | 2 | 4 | 6 | ○ |
| | 3 まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない | 1 自主防犯ボランティア団体の登録数(団体) | 61 | 66 | 71 | ○ |
| | | 2 犯罪発生件数(件) | 833 | 360 | 712 | ◎ |
| | | 3 この1年で、市内で怖い思いをしたことのある市民の割合(%) | 6.0 | 5.1 | 4.6 | ○ |
| | 4 いじめや自殺、引きこもりがない | 1 学校以外の習い事やグループで友達ができただ子どもの割合(%) | 83.2 | 85.2 | 86.7 | ○ |
| | | 2 不登校の子どもの数(人) | 87 | 81 | 66 | ▲ |
| | | 3 学校でのいじめの件数(件) | 85 | 61 | 63 | ◎ |
| | | 4 市内の自殺者数(人) | 12 | 12 | 8 | ▲ |
| | 5 子どもが良いことと悪いことの区別ができる | 1 よその子どもを褒めたり注意したりできる市民の割合(%) | 53.7 | 49.8 | 63.3 | ▲ |
| | | 2 良いことと悪いことの区別ができていると思う子どもの割合(%) | 79.8 | 83.0 | 84.9 | ○ |
| | | 3 親子のコミュニケーションがとれていると思う親の割合(%) | 91.1 | 92.5 | 94.4 | ○ |
| | | 4 親子のコミュニケーションがとれていると思う子どもの割合(%) | 87.9 | 83.2 | 91.3 | ▲ |
| | | 5 悪いことをしている友達などを見たときに注意できる子どもの割合(%) | 54.6 | 62.3 | 64.3 | ○ |
| | | 6 子どもの補導件数(件) | 742 | 150 | 591 | ◎ |

| 理念 | めざすまちの姿 | まちづくり指標 | 基準値 (H26) | 現状値 (R1) | めざそう値 (R2) | 達成状況 |
|------------------|--|---|--------------|-------------|---------------|------|
| 快 適 | 6 人通りが多い場所でも ごみが落ちておらず、 まちがきれいである | 1 まちがきれいだと感じている市民の割合(%) | 59.3 | 68.7 | 67.1 | ◎ |
| | | 2 アダプトプログラム(公園、道路、河川等の清掃美化ボランティア活動)参加者に配布したごみ袋の枚数/年間(枚) | 1,150 | 1,110 | 1,349 | ▲ |
| | | 3 積極的に清掃活動に参加している市民の割合(%) | 43.6 | 41.2 | 52.7 | ▲ |
| | 7 道路環境がよく、歩行者も 自転車も自動車も安全に 通行することができる | 1 交通マナーが良くなったと思う市民の割合(%) | 39.1 | 47.8 | 49.0 | ○ |
| | | 2 安全に通行するための適切な交通規制や対策があると思う市民の割合(%) | 39.1 | 46.9 | 48.1 | ○ |
| | | 3 道路がスムーズに走れると感じる市民の割合(%) | 40.1 | 43.4 | 50.3 | ○ |
| | | 4 交通事故発生件数(歩行者・自転車・自動車)(件) | 403 | 274 | 329 | ◎ |
| | 8 交通の利便性がよく、市外から 人が移り住んだり、通勤・通学 している | 1 交通アクセスが良くなったと思う市民の割合(%) | 59.3 | 63.8 | 66.7 | ○ |
| | | 2 豊明3駅の年間利用者数(千人) | 11,930 | 13,268 | 12,933 | ◎ |
| | | 3 転入者数(人/年間) | 3,327 | 3,715 | 3,636 | ◎ |
| | | 4 転出者数(人/年間) | 3,281 | 3,485 | 2,996 | ▲ |
| | 9 空気がきれいである | 1 空気がきれいだと感じている市民の割合(%) | 71.8 | 77.2 | 76.6 | ◎ |
| | | 2 市民一人当たりの公園・緑地面積(m ²) | 9.4 | 9.8 | 9.9 | ○ |
| | | 3 大気中の汚染物質の基準値に対する豊明市の数値(二酸化窒素)(ppm) | 0.012 | 0.010 | 0.011 | ◎ |
| | | 4 大気中の汚染物質の基準値に対する豊明市の数値(浮遊粒子状物)(mg/m ³) | 0.020 | 0.017 | 0.017 | ◎ |
| | | 5 大気中の汚染物質の基準値に対する豊明市の数値(光化学オキシダント)(ppm) | 0.030 | 0.034 | 0.026 | ▲ |
| | | 6 再生可能エネルギーを利用したいと思う市民の割合(%) | 65.9 | 64.7 | 72.1 | ▲ |
| | 10 日常生活は自然に親しむことが できると同時に生活に不自由 のないコンパクトシティ となっている | 1 買い物や窓口行政サービスが便利になったと感じている市民の割合(%) | 57.4 | 59.1 | 65.1 | ○ |
| | | 2 市民の移動がしやすくなったと思う市民の割合(%) | 59.3 | 62.1 | 66.5 | ○ |
| | | 3 身近に自然に親しむことができる場所があると思う市民の割合(%) | 62.2 | 67.4 | 68.4 | ○ |
| 4 市街化区域内人口の割合(%) | | 74.7 | 75.3 | 76.8 | ○ | |

| 理念 | めざすまちの姿 | まちづくり指標 | 基準値 (H26) | 現状値 (R1) | めざそう値 (R2) | 達成状況 |
|-------------|--|--|--------------|-------------|---------------|------|
| 健 や か | 11 子どもから高齢者まで 気軽にスポーツを楽し み、健康に暮らしてい る | 1 スポーツをするために必要な情報が得られている市民の割合 (%) | 30.4 | 39.8 | 44.8 | ○ |
| | | 2 スポーツを教えてくれる人がいると思う市民の割合(%) | 24.6 | 31.3 | 35.6 | ○ |
| | | 3 スポーツを楽しむことができている市民の割合(%) | 37.1 | 36.8 | 47.7 | ▲ |
| | | 4 医療機関にかかっていない市民の割合(%) | 15.2 | 14.5 | 21.8 | ▲ |
| | 12 元気なじいちゃん、ば あちゃんの姿を見て、 若い世代が老後の生 き方に夢をもつこと ができている | 1 近所の高齢者がいきいきしていると思っている市民の割合 (%) | 54.9 | 63.5 | 63.7 | ○ |
| | | 2 人生が楽しいと感じている高齢者の割合(65歳以上)(%) | 75.2 | 74.6 | 80.6 | ▲ |
| | | 3 老後の生き方に夢があると思っている若者の割合(50代以下) (%) | 18.4 | 23.1 | 29.1 | ○ |
| | 13 教育や子どもに関する 予算が確保され、子 どもの教育環境がよい | 1 子どもにとって必要な教育環境が整っていると思う市民の割合 (%) | 44.3 | 55.3 | 55.3 | ◎ |
| | | 2 子どもにとって必要なところに予算配分がされていると思う教 育関係者の割合(%) | 13.1 | 36.2 | 25.4 | ◎ |
| | | 3 歳出の内、教育や子どものための予算の割合(%) | 19.5 | 24.3 | 21.0 | ◎ |
| | 14 子どもが、ずっと育っ てきた豊明を大好きで いる | 1 自然が大切にされていると思っている市民の割合(%) | 64.8 | 71.3 | 70.7 | ◎ |
| | | 2 豊明を自慢できる市民の割合(%) | 39.3 | 45.4 | 49.3 | ○ |
| | | 3 ふるさと納税の件数(件) | 2 | 1,383 | 6,000 | ▲ |
| | | 4 ふるさと納税の金額(千円) | 12 | 24,340 | 60,000 | ▲ |

| 理念 | めざすまちの姿 | まちづくり指標 | 基準値 (H26) | 現状値 (R1) | めざそう値 (R2) | 達成状況 |
|---|--|--|--------------|-------------|---------------|------|
| つ な が り | 15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができる | 1 1日1回以上家族以外の人と会話をしている市民の割合(%) | 71.3 | 64.8 | 78.1 | ▲ |
| | | 2 日常の中で困っている人に声掛けできている市民の割合(%) | 44.3 | 38.5 | 53.8 | ▲ |
| | | 3 地域から孤立していないと思っている市民の割合(%) | 75.8 | 79.7 | 81.6 | ○ |
| | 16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困っていない | 1 介護で困ったときに助けを求められることができる友だちや専門機関があると思う家族の割合(%) | 57.0 | 63.6 | 66.1 | ○ |
| | | 2 1週間のうち1回は自分の時間をもっている家族の割合(%) | 69.0 | 79.5 | 76.3 | ◎ |
| | | 3 支援が必要になったときに活用できるサービスを知っている市民の割合(%) | 40.7 | 44.3 | 55.7 | ○ |
| | 17 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している | 1 地域の活動に参加している子どもの割合(%) | 72.1 | 68.4 | 77.7 | ▲ |
| | | 2 地域に愛着をもち、地域の活動に参加している大人の割合(%) | 63.7 | 71.6 | 70.7 | ◎ |
| | | 3 近所で5人以上の大人の名前が言える子どもの割合(%) | 50.4 | 41.4 | 60.7 | ▲ |
| | 18 災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている | 1 1年間に防災訓練に参加した団体の数(団体) | 30 | 47 | 45 | ◎ |
| | | 2 他自治体及び民間との災害に関する協定の数(件) | 48 | 64 | 55 | ◎ |
| | | 3 災害時に備えて行政・民間の情報共有ができていると思う市民の割合(%) | 31.5 | 36.2 | 44.9 | ○ |
| | 19 防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる | 1 家庭で防災対策をしている市民の割合(備蓄・避難場所の確認など)(%) | 57.2 | 60.8 | 67.8 | ○ |
| | | 2 普段から地域で災害時の対応について話し合っている市民の割合(%) | 28.4 | 28.0 | 41.5 | ▲ |
| | | 3 実体験できる講習の回数(応急手当、初期消火など)(回/年間) | 344 | 132 | 362 | ▲ |
| | | 4 火災に備えて住宅用火災警報器が設置してある割合(%) | 71.0 | 72.3 | 80.4 | ○ |
| | 20 行政や地域が発信する情報を市民が積極的に共有し、活用している | 1 必要な情報を得るための手段をわかっている市民の割合(%) | 40.3 | 45.9 | 52.9 | ○ |
| | | 2 この1年間で、地域の人同士で、まちのことについて意見交換した市民の割合(%) | 19.6 | 15.3 | 29.2 | ▲ |
| | | 3 市長への手紙・Eメールの件数(件) | 111 | 194 | 133 | ◎ |
| | | 4 行政や地域の情報を得て、イベントや集まりに参加している市民の割合(%) | 45.8 | 32.1 | 55.1 | ▲ |
| | 21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している | 1 (この1年で)市外の人に豊明の歴史・伝統・文化の展示会やイベント等を伝えたことのある市民の割合(%) | 20.5 | 15.7 | 31.5 | ▲ |
| 2 高校生・大学生が歴史・伝統・文化を通して人とつながっていると思っている市民の割合(%) | | 12.9 | 16.6 | 23.0 | ○ | |
| 3 自発的に文化を創造できるような環境が豊明にあると思っている市民の割合(%) | | 16.5 | 19.5 | 24.7 | ○ | |
| 4 豊明の歴史・伝統・文化に誇りをもっている市民の割合(%) | | 45.7 | 47.7 | 55.0 | ○ | |

| 理念 | めざすまちの姿 | まちづくり指標 | 基準値 (H26) | 現状値 (R1) | めざそう値 (R2) | 達成状況 |
|--------|---|---|--------------|-------------|---------------|------|
| 誠 実 | 22 行政は積極的に市民からの意見を吸い上げる工夫や努力をしている | 1 偏らず、広く市民の声を聞く努力をして、必要に応じて事業に反映していると思う職員の割合(%) | 63.4 | 85.6 | 71.3 | ◎ |
| | | 2 年1回は、行政に関心をもって積極的に働きかけている市民の割合(%) | 3.7 | 4.0 | 12.3 | ○ |
| | | 3 市民からの意見を吸い上げる制度の実施回数(回) | 16 | 25 | 21 | ◎ |
| | | 4 附属機関等の公募委員の応募倍率(倍) | 1.00 | 0.90 | 1.70 | ▲ |
| | 23 世代、性別などで不公平感のない予算配分や施策となっている | 1 世代で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う市民の割合(%) | 17.8 | 32.7 | 26.9 | ◎ |
| | | 2 世代で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う職員の割合(%) | 58.4 | 75.4 | 66.8 | ◎ |
| | | 3 性別で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う市民の割合(%) | 28.9 | 44.0 | 39.2 | ◎ |
| | | 4 性別で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う職員の割合(%) | 79.2 | 90.1 | 84.0 | ◎ |
| | 24 税金が確保され、持続可能な財政運営となっている | 1 行政が税金の使い方について説明責任を果たしていると思う市民の割合(%) | 22.3 | 36.3 | 35.4 | ◎ |
| | | 2 財政力指数 | 0.89 | 0.91 | 0.87 | ◎ |
| | | 3 経常収支比率(%) | 85.60 | 83.10 | 84.58 | ◎ |
| | | 4 実質公債費比率(%) | 2.50 | 0.09 | 2.50 | ◎ |
| | | 5 将来負担比率(%) | -8.1 | -29.6 | -8.4 | ◎ |
| | 25 市職員の顧客サービス向上の意識が高く、市民のほうを見て仕事をしている | 1 市職員の顧客サービスが高いと思う市民の割合(%) | 35.8 | 47.9 | 46.1 | ◎ |
| | | 2 市職員の顧客サービスが高いと思う職員の割合(%) | 74.1 | 80.3 | 79.7 | ◎ |
| | | 3 ワンストップサービスができていると思う市民の割合(%) | 66.3 | 72.9 | 73.8 | ○ |
| | | 4 窓口対応についての市民の苦情件数(件) | 10 | 4 | 7 | ◎ |
| | | 5 市民からの要望・苦情に対して行政が改善を行っていると感じる市民の割合(%) | 35.5 | 48 | 47.5 | ◎ |
| | 26 市民にとって必要な情報が提供され、行政が取り組んでいることが市民に分かりやすい | 1 市のホームページが見やすいと思う市民の割合(%) | 31.5 | 42.3 | 44.5 | ○ |
| | | 2 窓口のレスポンスが的確だと思う市民の割合(%) | 51.0 | 61.0 | 62.1 | ○ |
| | | 3 行政の透明度評価値 | BB | - | BBB | - |
| | | 4 議会の公開度偏差値 | 45.6 | - | 51.2 | - |
| | 27 行政は明確な成果目標を持ち、定期的に達成度を確認し、絶えず改善している | 1 目標の達成度評価を重視して仕事をしている職員の割合(%) | 61.7 | 81.0 | 71.4 | ◎ |
| | | 2 事業改善、新規事業の提案数(件) | 94 | 127 | 124 | ◎ |
| | | 3 成果指標の年度別達成率(%) | 0 | 85.2 | 50 | ◎ |

| 理念 | めざすまちの姿 | まちづくり指標 | 基準値 (H26) | 現状値 (R1) | めざそう値 (R2) | 達成状況 |
|--------|---|--------------------------------------|--------------|-------------|---------------|------|
| 元 気 | 28 子どもを産み育てやすいまちになっており、 子どもの数が増えている | 1 子育てが楽しいと思っている市民の割合(%) | 84.5 | 84.3 | 88.8 | ▲ |
| | | 2 0～14歳の子どもの数(人) | 9,749 | 8,732 | 10,011 | ▲ |
| | | 3 豊明市の出生率(人) | 8.1 | 8.0 | 8.8 | ▲ |
| | | 4 市内にある小児科、産婦人科の数(施設) | 3 | 5 | 5 | ◎ |
| | 29 子どもが元気に外で遊んでいる | 1 自由に楽しく体を動かしていると思う子どもの割合(%) | 56.2 | 55.9 | 65.5 | ▲ |
| | | 2 子どもが外で元気に安全に遊べると感じている保護者の割合(%) | 35.1 | 43.3 | 46.4 | ○ |
| | | 3 子どもが元気に外で遊んでいると思う市民の割合(%) | 39.0 | 46.2 | 49.7 | ○ |
| | 30 子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている | 1 一人ひとりの個性や違いを受け入れていると思う市民の割合(%) | 84.4 | 87.4 | 87.5 | ○ |
| | | 2 子どもが参加できる教室やサークルの数(個) | 33 | 34 | 43 | ○ |
| | | 3 積極的に自分の好きなことを見つけて取り組んでいる子どもの割合(%) | 84.9 | 86.2 | 88.1 | ○ |
| | | 4 子どもの行動に対して親の価値観でコントロールしていない親の割合(%) | 35.4 | 37.6 | 44.3 | ○ |
| | 31 豊明市に魅力があふれ、「通過するまち」から「足を運んでいただけるまち」になっている | 1 市内のイベント、お店、施設がメディアで紹介された件数(件) | 123 | 302 | 148 | ◎ |
| | | 2 市外から人を呼べるような場やイベントなどがあると思う市民の割合(%) | 21.2 | 20.3 | 31.1 | ▲ |
| | | 3 豊明インターを利用した自動車数(台/日) | 33,700 | 35,229 | 35,596 | ○ |
| | 32 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている | 1 市外から豊明市に働きに来ている人の数(人) | 3,593 | 5,307 | 3,949 | ◎ |
| | | 2 法人市民税額(千円) | 687,361 | 589,317 | 699,370 | ▲ |
| | | 3 農業産出量(米)(kg) | 553,770 | 980,440 | 560,375 | ◎ |
| | | 4 農業産出量(麦)(kg) | 14,093 | 106,096 | 17,092 | ◎ |
| | | 5 農業産出量(大豆)(kg) | 11,107 | 14,850 | 11,937 | ◎ |
| | | 6 市外から豊明市に遊びに来ている人が多いと思う市民の割合(%) | 43.0 | 33.8 | 49.4 | ▲ |

| 理念 | めざすまちの姿 | まちづくり指標 | 基準値 (H26) | 現状値 (R1) | めざそう値 (R2) | 達成状況 |
|--------|--|--|--------------|-------------|---------------|------|
| 挑 戦 | 33 高齢者、障がい者など 誰でも居場所と出番が あり、経験や知識を活 かして働き、収入と生 きがいを得ている | 1 自分の働き方に満足している高齢者の割合(%) | 87.7 | 89.1 | 90.2 | ○ |
| | | 2 自分の働き方に満足している障がい者の割合(%) | 64.2 | 74.8 | 69.9 | ◎ |
| | | 3 高齢者、障がい者を雇用している企業・事業所数(力所) | 49 | 47 | 60 | ▲ |
| | | 4 働く意欲をもっている高齢者の割合(%) | 55.4 | 52.3 | 63.0 | ▲ |
| | | 5 働く意欲をもっている障がい者の割合(%) | 70.3 | 65.2 | 76.4 | ▲ |
| | | 6 自分の経験や知識を活かすことができていると思う高齢者の割合(%) | 86.3 | 82.2 | 89.6 | ▲ |
| | | 7 自分の経験や知識を活かすことができていると思う障がい者の割合(%) | 63.5 | 70.9 | 68.5 | ◎ |
| | 34 若い世代も地域で活 動し、地域の自治力が 高まっている | 1 地域の活動に参加している若者の割合(%) | 67.8 | 54.8 | 73.7 | ▲ |
| | | 2 自分たちの考えが地域の活動に取り入れられていると思う若者の割合(%) | 11.1 | 16.1 | 22.2 | ○ |
| | | 3 若い世代の地域での活動を尊重し、応援している65歳以上の人の割合(%) | 57.0 | 60.7 | 65.8 | ○ |
| | | 4 町内会の加入率(%) | 78.0 | 72.5 | 83.0 | ▲ |
| | 35 若い人が豊明市を自 分たちのまちとして愛 着をもち、新しい感性 を活かし、まちづくりが 進められている | 1 豊明が大好きな若者の割合(%) | 74.0 | 66.6 | 79.9 | ▲ |
| | | 2 まちづくりに参加できていると感じている若者の割合(%) | 16.2 | 10.7 | 26.1 | ▲ |
| | | 3 市民提案型まちづくり事業交付金の交付団体数(団体) | 11 | 10 | 16 | ▲ |
| | 36 女性が職場や地域で 活躍し続けている | 1 職場で働きやすいと感じている女性の割合(%) | 35.4 | 50.0 | 45.4 | ◎ |
| | | 2 育児休暇後に継続して働き続けている女性の割合(%) | 70.9 | 72.3 | 76.9 | ○ |
| | | 3 市内企業における女性管理職の割合(%) | 10.2 | 11.9 | 17.3 | ○ |
| | | 4 町内会長・区長に占める女性の割合(%) | 6.0 | 16.1 | 12.7 | ◎ |
| | | 5 男性の育児(介護)休暇取得者数(人) | 1 | 11 | 9 | ◎ |
| | | 6 男性一人あたりの平均1日家事時間(分) | 70.6 | 90.5 | 90.6 | ○ |
| | 37 子どもが夢を持ち、将 来グローバルに活躍で きる人材に育っている | 1 将来に夢をもっている子どもの割合(%) | 68.9 | 62.7 | 75.4 | ▲ |
| | | 2 自分の地域や国のことに誇りを持っている市民の割合(%) | 55.9 | 61.7 | 64.7 | ○ |
| | | 3 いろんな国の人々とコミュニケーションをとりようとしている市民の割合(%) | 30.4 | 35.8 | 40.7 | ○ |
| | | 4 豊明市で育った人が活躍していると思う市民の割合(%) | 22.2 | 27.4 | 31.1 | ○ |

| 理念 | めざすまちの姿 | まちづくり指標 | 基準値 (H26) | 現状値 (R1) | めざそう値 (R2) | 達成状況 |
|--------|---|--|--------------|-------------|---------------|------|
| 挑 戦 | 38 すべての子どもが質の高い学びに参加し、生きるための学力が向上している | 1 学校で学ぶことが楽しいと思う子どもの割合(%) | 66.6 | 72.1 | 74.1 | ○ |
| | | 2 悪いことを正されたり、いいところを褒められたりして自分の行動が変わったと感じる子どもの割合(%) | 76.6 | 82.9 | 81.4 | ◎ |
| | | 3 学習と日常生活につながりを感じている子どもの割合(%) | 77.1 | 77.1 | 81.6 | ▲ |
| | | 4 授業から置いてけぼりになっていない子どもの割合(%) | 57.4 | 63.2 | 66.6 | ○ |
| | | 5 前よりも勉強や運動ができるようになったと思う子どもの割合(%) | 79.7 | 82.9 | 84.2 | ○ |
| | | 6 学校生活に満足している子どもの割合(小学校)(%) | 53.0 | 53.0 | 63.8 | ▲ |
| | | 7 学校生活に満足している子どもの割合(中学校)(%) | 53.0 | 52.0 | 63.8 | ▲ |
| | 39 若い人たちが地元で働ける | 1 有効求人倍率(倍) | 1.16 | 1.68 | 1.34 | ◎ |
| | | 2 市内在住者の市内就業者数(人) | 1,529 | 1,098 | 1,775 | ▲ |
| | | 3 新規企業者数(50代以下)(人) | 80 | 38 | 100 | ▲ |
| | | 4 市内で働くための情報が得やすいと思っている若者の割合(50代以下)(%) | 7.8 | 15.3 | 19.3 | ○ |
| | | 5 市内在住者で市内で働きたいと思っている若者の割合(%) | 48.3 | 46.5 | 55.8 | ▲ |
| | 40 市長や議会、行政は、まちを良くしていくために外からの知識を吸収し、失敗を恐れず果敢にチャレンジしている | 1 先を見据えた仕事ができている市職員の割合(%) | 49.4 | 72.9 | 60.7 | ◎ |
| | | 2 他団体からの視察を受け入れた回数(回) | 28 | 134 | 37 | ◎ |
| | | 3 議員の政策立案能力が高まっていると思う市民の割合(%) | 11.0 | 25.3 | 24.3 | ◎ |
| | | 4 市長・市職員の政策立案能力が高まっていると思う市民の割合(%) | 21.9 | 43.6 | 34.5 | ◎ |

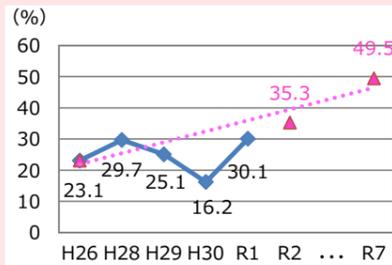
めざすまちの姿

① 安心 / 健康福祉

1. 子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVなどがない

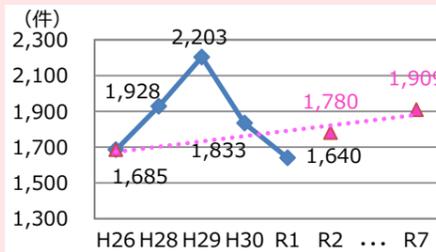
まちづくり指標

1. 虐待やDVなどが起こらないように見守る地域のネットワークができているとと思っている市民の割合



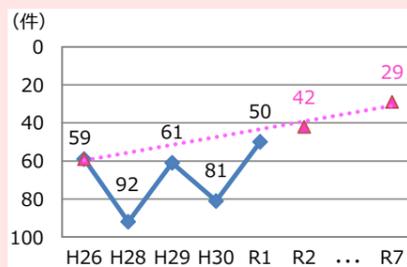
めざそう値
【R2】
35.3%
【R7】
49.5%
指標の達成度
○

2. 虐待・DVの相談件数



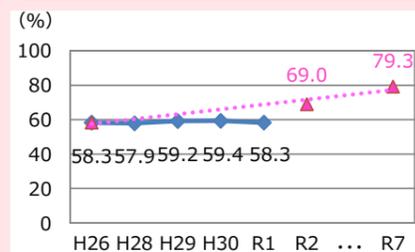
めざそう値
【R2】
1,780件
【R7】
1,909件
指標の達成度
▲

3. 虐待・DVの認定件数



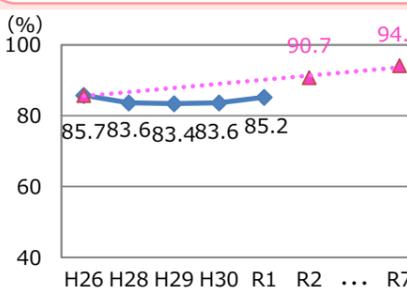
めざそう値
【R2】
42件
【R7】
29件
指標の達成度
○

4. 虐待やDVなどに遭遇したときにためらいなく通報できているとと思っている市民の割合



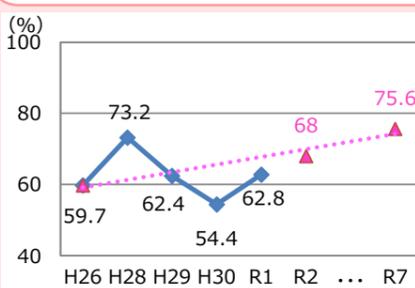
めざそう値
【R2】
69.0%
【R7】
79.3%
指標の達成度
▲

5. まわりに助けを求められることができる人がいる子どもの割合



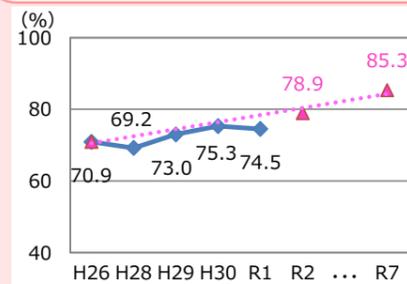
めざそう値
【R2】
90.7%
【R7】
94.1%
指標の達成度
▲

6. まわりに助けを求められることができる人がいる高齢者の割合



めざそう値
【R2】
68.0%
【R7】
75.6%
指標の達成度
○

7. まわりに助けを求められることができる人がいる障がい者の割合



めざそう値
【R2】
78.9%
【R7】
85.3%
指標の達成度
○

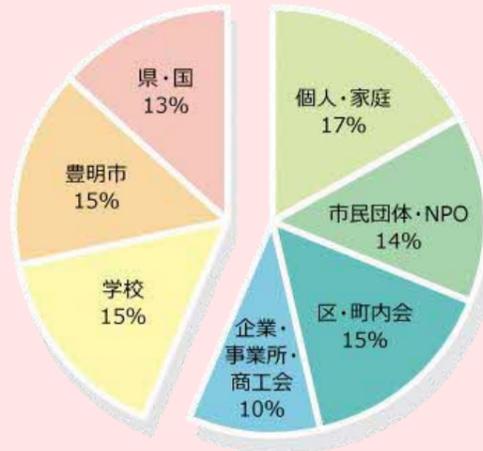
クロス集計結果について

【まちづくり指標1：虐待やDVなどが起こらないように見守る地域のネットワークができているとと思っている市民の割合】
虐待やDVなどが起こらないように見守る地域のネットワークができているとと思っている市民の割合を年齢別に見ると、16～19歳が最も高い結果となっている。
学区別で見ると、双峰地区のみ20%以下となっている。

■ 現状値
● めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)にを達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

虐待・DVの認定件数については、平成26年以降増加と減少を繰り返している。めざそう値の達成はしていないが、件数の多くを占める児童虐待において対策を強化し軽度の虐待を認知・対応している。周りに助けを求められることができる人がいるという割合については、子ども、高齢者、障がい者のいずれも達成していない。
子ども、高齢者、障がい者が安心して暮らしていくため、引き続き地域や関係機関による見守りネットワークづくりを進めていく。
また、通報や相談先の周知を強化し、被害を受けている人が自ら早期に助けを求められることができたり、被害を発見した人が早期に通報・相談できる体制づくりを進める。

大施策

子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVを減らす

中施策

- 家族等、子ども、高齢者、障がい者等を支援する人の日常生活に関する悩みや不安を解消する
- 市民の知識と自覚を高め、早期発見への協力を促進する
- 関係機関と連携して早期発見と素早い対応に努める

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

家族等、子ども、高齢者、障がい者等を支援する人の日常生活に関する悩みや不安を解消するため、家庭児童相談室事業や障害児支援施策事業に取り組んでいる。こういった相談事業や支援事業を行っていく中で、不安や悩みを抱えている人が事業を認知しており、利用しやすいようにすることで早期発見、早期対応へとつながっていく。

また、受理した虐待やDVの通報・相談に関しては、早期に対応し重症化させないことが重要である。被害者側の安全を確保し、安心して生活する権利が保障できるよう、各種相談事業の専門性を高め、適切な相談・支援を行えるような体制づくりを引き続き進めていく。

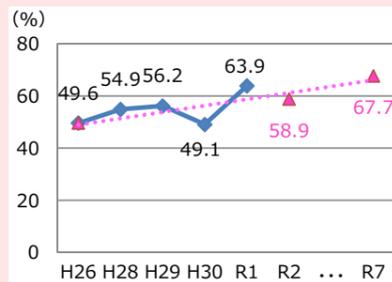
めざすまちの姿

① 安心 / 健康福祉

2. 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心している

まちづくり指標

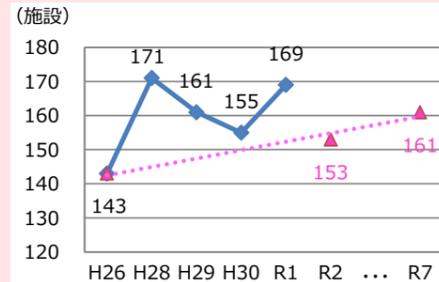
1. 医療や福祉施設、制度の利用者の満足度



めざそう値
【R2】
58.9%
【R7】
67.7%
指標の達成度



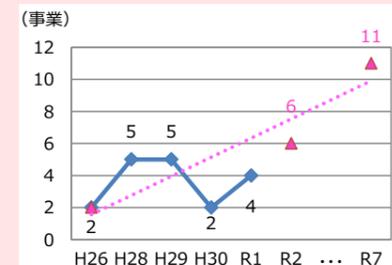
2. 利用できる医療施設、福祉施設の数



めざそう値
【R2】
153 施設
【R7】
161 施設
指標の達成度



3. 医療や福祉分野における連携プロジェクトの数 (具体的な事業数のため運営協議会等は除く)



めざそう値
【R2】
6 事業
【R7】
11 事業
指標の達成度



■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

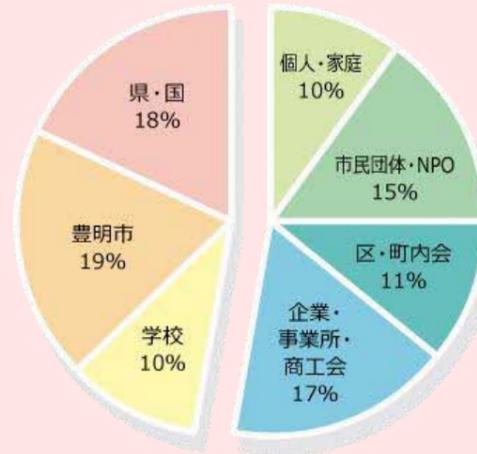
クロス集計結果について

【まちづくり指標1：医療や福祉施設、制度の利用者の満足度】

男女別に見ると、医療や福祉施設、制度に満足している回答した割合は、男性の方が10%以上高い結果となっている。

学区別では、満足している回答した割合は、どの地区においても55%以上となっている。中でも三崎地区は73.4%と最も高くなっており、医療や福祉施設、制度などに関して市民のニーズに合ったものとなっているのではないかと考えられる。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

各指標において、前年度と比較すると改善が見られる。医療や福祉施設、制度の利用者の満足度と利用できる医療施設、福祉施設の数については、めざそう値を達成している。

市民が安心することのできる医療や福祉の環境、制度をつくっていくために、多様な主体が連携して進めていくことが求められる。また、医療や福祉に力を入れる活動や取り組みへ支援をすることも必要である。

大施策

市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する

中施策

- 多様な主体者が共通の目標を持ち、行動できる環境をつくる
- 多様な主体者の情報交換をする機会や場をつくり、連携に努める
- 市民が安心できる地域の医療・福祉をつくる民間の活動を支援する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

多様な主体者が共通の目標を持ち、行動できる環境をつくるために、成人検(健)診事業や社会福祉推進事業が行われている。成人検(健)診事業では、医療機関、健診機関と連携の上で、より多くの健診機会を確保するとともに、健診結果を受けた市民に対して自らの健康維持や医療費状況などへの意識の啓発をさらに進めていく必要がある。社会福祉推進事業においては、第2次地域福祉計画に基づき、多様な主体がつながる体制づくりを進めている。こうした取り組みから、医療や福祉施設、制度の利用者満足度向上につながっていくことが重要である。

医療介護連携推進事業や保健衛生事業に取り組むことで、地域の医療・福祉をつくる民間の活動の支援を行っている。こういった事業をさらに推進していくことで、市民が安心できる医療や福祉の促進へとつながることが必要である。

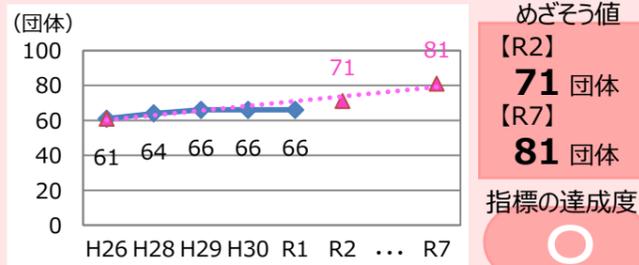
めざすまちの姿

① 安心 / 地域・市民生活

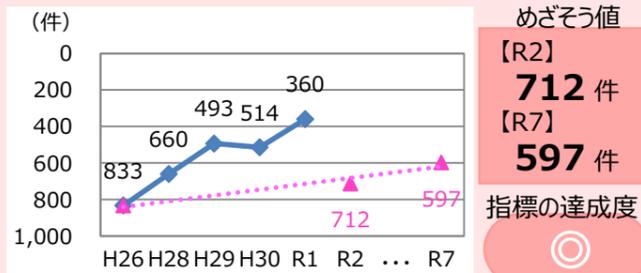
3. まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない

まちづくり指標

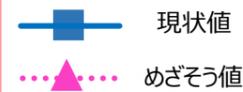
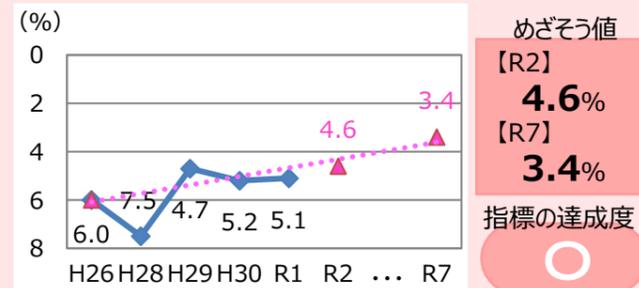
1. 自主防犯ボランティア団体の登録数



2. 犯罪発生件数



3. この1年で、市内で怖い思いをしたことのある市民の割合



◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

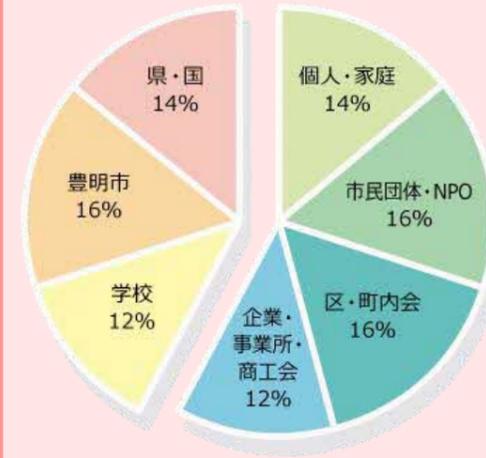
【まちづくり指標3：この1年で、市内で怖い思いをしたことのある市民の割合】

男女別に見ると、この1年で、市内で怖い思いをしたことのある市民の割合は、男性の方が高いという結果となっている。

年齢別の結果では、16～19歳で怖い思いをしたという割合が高いため、子どもや青少年が犯罪などに巻き込まれることのないよう対策を行う必要がある。

地区別においては、双峰地区と唐竹地区で怖い思いをしたという割合が高くなっているため、それぞれの地域に合わせた対策や取り組みについても考える必要がある。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

各指標において、平成26年時点よりもめざそう値に達しているまたは、めざそう値に近づいているという状況である。

今後は、自主犯罪ボランティア団体の登録数などを増やしていくことで、防犯活動が活発に行われ、犯罪が少ないまちをめざしていく必要がある。

犯罪が少ないまちをつくるために、地域での声かけなどを行い、地域の防犯活動が活発に行われることが必要である。

大施策

明るく、地域の防犯活動が活発で犯罪が少ないまちをつくる

中施策

- 明るく死角が少ない街をつくる
- 市民の防犯意識の向上を図る
- 地域の自発的な防犯活動を推進する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

明るく死角が少ない街をつくるための防犯灯設置補助等を進めることで、市民が安心して生活ができ、子どもが外で安全に遊んでいるという状況をつくることが期待できる。

市民の防犯意識の向上を図るための防犯啓発事業において、防犯教室の実施回数が減っているという状況である。市民の防犯意識の向上や地域全体での防犯意識を向上させるため防犯教室の実施や防犯に対して考える機会をつくるのが大切である。

地域の自発的な防犯活動を推進するには、団体がより積極的に防犯活動を行えるように自主防犯活動支援事業に取り組んでいく必要がある。

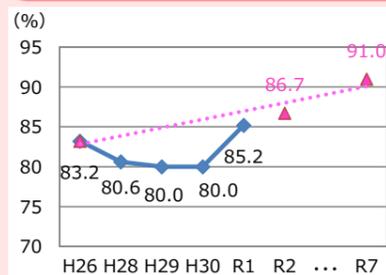
めざすまちの姿

① 安心 / 教育・歴史文化

4. いじめや自殺、引きこもりがない

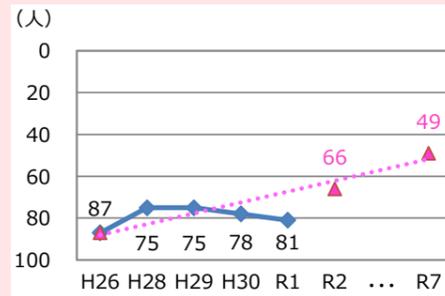
まちづくり指標

1. 学校以外の習い事やグループで友達ができ た子どもの割合



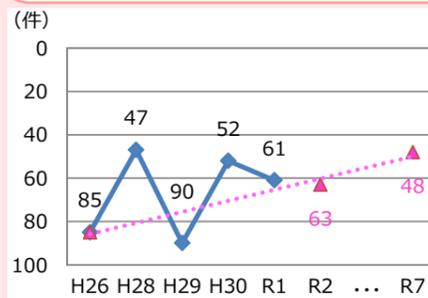
めざそう値
【R2】
86.7%
【R7】
90.1%
指標の達成度
○

2. 不登校の子どもの数



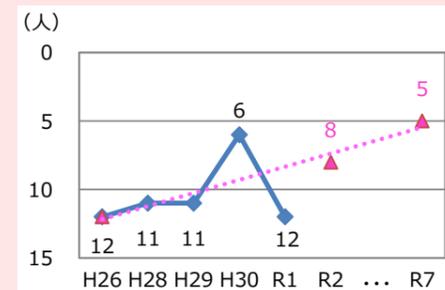
めざそう値
【R2】
66人
【R7】
49人
指標の達成度
▲

3. 学校でのいじめの件数



めざそう値
【R2】
63件
【R7】
48件
指標の達成度
◎

4. 市内の自殺者数



めざそう値
【R2】
8人
【R7】
5人
指標の達成度
▲

■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標1：学校以外の習い事やグループで友達ができ た子どもの割合】

学校以外の習い事やグループで友達ができ
た子どもの割合は、小学校5年生で82.9%、中学校2年生で73.8%となっている。年齢、学年が上がるにつれて、学校以外での友達をつくる機会や交流する機会がなくなる
ことがないよう、親や周りの大人の働きかけなどが必要だと考えられる。

各まちづくりの主体に対する 役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の 分析及び今後の展望

学校以外の習い事やグループで友達ができ
た子どもの割合には、前年と比較すると改善している。学校でのいじめの件数については、めざそう値を達成しているものの、前年と比べて件数が増加している。

子どものいじめや自殺、引きこもり、不登校などについて早期発見・早期対応へつなげるためには、家庭での気づきだけではなく、地域、学校などにおける気づきも必要である。子どもの気になる点だけではなく、地域の悩んでいる人などへの適切な対応へつなげるためにも家庭、地域、関係機関等との連携が重要である。

大施策

子どものいじめや自殺、引きこもりを減らす

中施策

- 児童生徒へのきめ細やかな指導や支援ができる体制をつくる
- 行政・学校が早期発見・早期対応の仕組みを整え、適切な対応をする
- 家庭・地域・関係諸機関からの情報を集約し、早期発見・早期対応を促進する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

児童生徒へのきめ細やかな指導や支援ができる体制、早期発見、早期対応を促進するため、いじめ・不登校対策充実事業を行っており、不登校児童生徒数(30日以上)を減らすことが目標となっている。

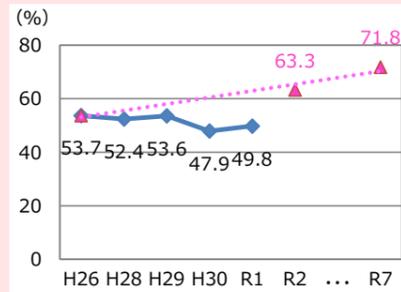
不登校児童の生徒を減らすというだけでなく、そうなる原因を食い止めるための早期発見、早期対応の仕組みを整え、不登校児童生徒を増やさないことが大切である。

また、いじめや自殺、引きこもりなどの問題も深刻化していることから家庭や学校、関係機関の連携に加えて、地域との連携を強めていくことで早期発見につなげていくことが重要である。

5. 子どもが良いことと悪いことの区別ができる

まちづくり指標

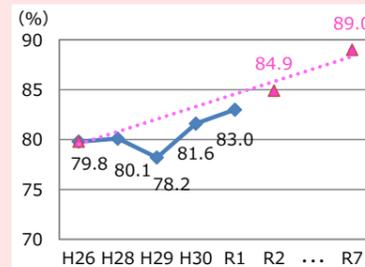
1. よその子どもを褒めたり注意したりできる市民の割合



めざそう値
【R2】
63.3%
【R7】
71.8%
指標の達成度



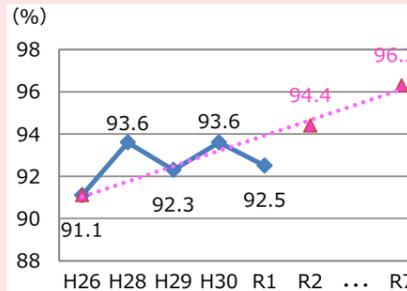
2. 良いことと悪いことの区別ができていると思う子どもの割合



めざそう値
【R2】
84.9%
【R7】
89.0%
指標の達成度



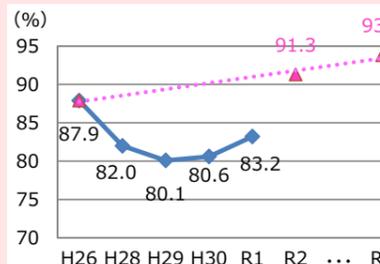
3. 親子のコミュニケーションがとれていると思う親の割合



めざそう値
【R2】
94.4%
【R7】
96.3%
指標の達成度



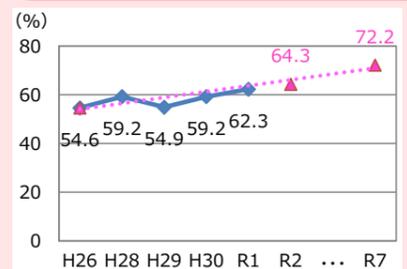
4. 親子のコミュニケーションがとれていると思う子どもの割合



めざそう値
【R2】
91.3%
【R7】
93.8%
指標の達成度



5. 悪いことをしている友達などを見たときに注意できる子どもの割合



めざそう値
【R2】
64.3%
【R7】
72.2%
指標の達成度



6. 子どもの補導件数



めざそう値
【R2】
591 件
【R7】
472 件
指標の達成度



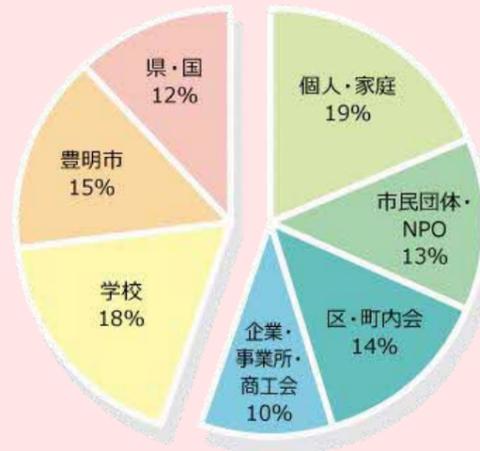
クロス集計結果について

【まちづくり指標1:よその子どもを褒めたり注意したりできる市民の割合】
よその子どもを褒めたり注意したりできる市民の割合を年齢別に見ると、70歳以上が60.2%と最も高く、20~29歳が32.1%と最も低いという結果となっている。

■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

親子のコミュニケーションがとれていると思う割合に関して、親の割合は平成26年時点よりも増加しているのに対し、子どもの割合は平成26年時点よりも減少している。めざそう値を達成している指標は、子どもの補導件数のみである。
日頃から家族での時間を大切に、コミュニケーションを取り、様々なことを共有する必要がある。また、家庭において子どもを育てるというだけでなく、地域全体で子どもを育てる環境、雰囲気づくりが大切である。

大施策

善悪の区別ができる子どもを育てる

中施策

- 家庭・地域全体で子どものしつけができる環境をつくる
- 子どもが学校生活で善悪を理解できるようにする
- 安心安全なメディアの使い方を学ぶ環境をつくる

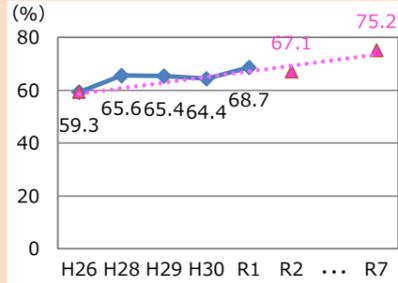
めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

家庭・地域・学校が連携して善悪の判断ができる子どもを育てていく環境をつくるのが大切である。家庭・地域の子育てを支援するために、青少年対策事業、子育て支援センター事業、図書館資料貸出事業が行われており、地域全体で子どもを育てていく意識を高めている。学校では、市内小中学校の教職員を対象に道徳教育の充実を目的とした研修会を行ったり、児童生徒との相談活動に力を入れたりしている。
また、児童生徒を対象にスマホ・ケータイ安全教室を開き、情報モラル教育にも取り組んでいる。今後このような取り組みをより効果的に進めていく。

6. 人通りが多い場所でもごみが落ちておらず、まちがきれいである

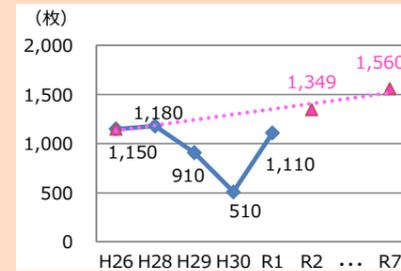
まちづくり指標

1. まちがきれいだと感じている市民の割合



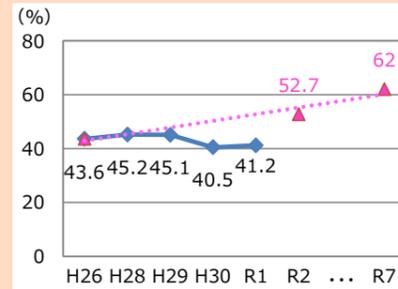
めざそう値
【R2】**67.1%**
【R7】**75.2%**
指標の達成度
◎

2. アダプトプログラム(公園、道路、河川等の清掃美化ボランティア活動)参加者に配布したゴミ袋の枚数/年間

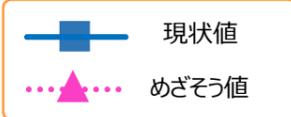


めざそう値
【R2】**1,349**枚
【R7】**1,560**枚
指標の達成度
▲

3. 積極的に清掃活動に参加している市民の割合



めざそう値
【R2】**52.7%**
【R7】**62.0%**
指標の達成度
▲



◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標3：積極的に清掃活動に参加している市民の割合】

積極的に清掃活動に参加している市民の割合について年齢別に見ると、20～29歳が13.2%、16～19歳が20.6%と低くなっている。若い世代において清掃活動への積極的な参加が少ない結果となっているため、若い世代へ向けたまちをきれいにする意識啓発や地域の人との関わり、活動への参加促進が課題となる。

学区別に見ると、栄地区において清掃活動に参加している市民の割合が49.7%と最も高い結果となっている。一方で、最も低い割合の地区は31.1%であり、地区により差が見られる。地域に根ざした美化活動の推進を、今後さらに進めていくことが必要である。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

まちがきれいだと感じている市民の割合は、めざそう値を達成している。しかし、積極的に清掃活動に参加している市民の割合は平成26年時点よりも減少している。

一人ひとりが、まちをきれいにする意識を持ち、清掃活動などへ積極的に参加することが望まれる。また、地域においてもきれいなまちづくり、継続していくための活動などを行っていく必要がある。

大施策

ごみが落ちていないきれいなまちをつくる

中施策

- 人々のマナーの向上を図る
- ごみを捨てにくい環境をつくる
- 地域に根ざした美化活動を推進する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

ごみ分別ルールの徹底を図るため、ごみ減量啓発事業、リサイクル推進事業などを行っている。こういった事業を通して、市民が排出ごみの減量に対する意識やリサイクルに対する意識を持ち、日常生活を送ることが期待できる。

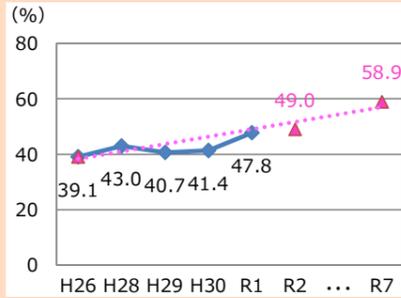
ごみを捨てにくい環境をつくるために、不法投棄対策事業や公園緑地管理事業を行っている。不法投棄がされおらず、施設や樹木が適切に管理されていることで、ごみが落ちていないきれいなまちとなり、ごみを捨てにくい環境をつくり出すことが重要である。市民は、まちがきれいである状態を保つための家庭での取り組みや地域での取り組みを積極的に行うことが必要である。

地域に根ざした美化活動を推進するため、緑化推進事業や市民活動支援事業などを行っている。市民活動支援事業において、市内の各団体に対し、段階に応じた学習機会の提供や活動への支援を進めていくことで、地域社会活動の活性化へつなげていくことが期待できる。

7. 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる

まちづくり指標

1. 交通マナーが良くなったと思う市民の割合

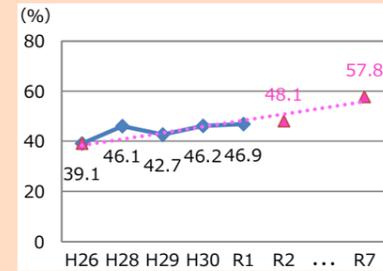


めざそう値
【R2】
49.0%
【R7】
58.9%

指標の達成度



2. 安全に通行するための適切な交通規制や対策があると思う市民の割合

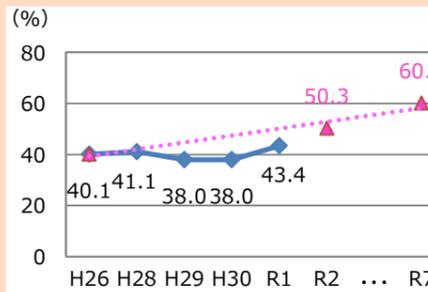


めざそう値
【R2】
48.1%
【R7】
57.8%

指標の達成度



3. 道路がスムーズに走れると感じる市民の割合

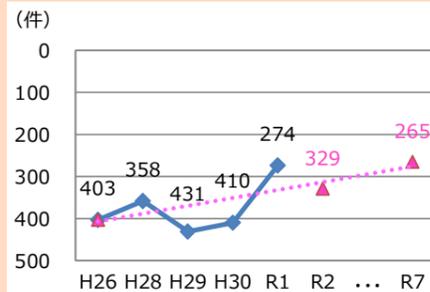


めざそう値
【R2】
50.3%
【R7】
60.1%

指標の達成度



4. 交通事故発生件数(歩行者・自転車・自動車)



めざそう値
【R2】
329 件
【R7】
265 件

指標の達成度



■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 1 : 交通マナーが良くなったと思う市民の割合】

交通マナーが良くなったと思う市民の割合を年齢別に見ると、70歳以上は60.6%と割合が高いが、その他のすべての年代では、50%以下となっている。外出機会の多い年代や自転車、自動車を使う年代では、市内の交通マナーに対して良いとあまり感じてないようである。

また学区別では、唐竹地区のみが40%を下回る結果となっている。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

いずれの指標においても、平成26年時点よりも改善している状況である。また、交通事故発生件数(歩行者・自転車・自動車)については、めざそう値を達成している。

道路環境をよくしていくため、歩行者、自転車、自動車のすべてが、交通ルールやマナーを守ることが大切である。さらに、利用者が安心して通行できる道路環境をつくり、維持していくために市民一人ひとりが交通ルールやマナーを正しく理解することも必要である。

大施策

利用者が安心して通行できる道路環境をつくる

中施策

- 利用者が安全で安心して通行できるように道路を整備・管理する
- 交通ルールの理解と遵守を促進する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

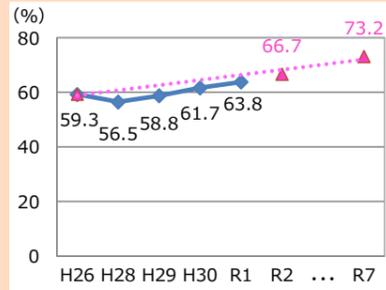
利用者が安全で安心して通行できるように道路を整備・管理するため、自転車対策事業や道路新設改良事業、交通安全施設管理・整備事業を行っている。自転車対策事業では、自転車が放置されていない状態にするためなどの整備・管理を進めるとともに、自転車の放置をしないための周知を行うなど市民へ理解してもらうことも必要である。道路新設改良事業、交通安全施設管理・整備事業においては、進捗状況を踏まえると、安心安全に道路の通行ができるよう整備・管理を進めていく。

交通ルールの理解と遵守を促進するため、交通安全推進事業を行っている。歩行者、自転車、自動車のすべてが正しい交通ルールを理解し、マナーを守っていくよう交通安全教室の開催や交通安全の啓発が進められることが必要であり、とくに信号機のない横断歩道を中心に交通事故防止に向けた取り組みを進めていく。

8. 交通の利便性がよく、市外から人が移り住んだり、通勤・通学している

まちづくり指標

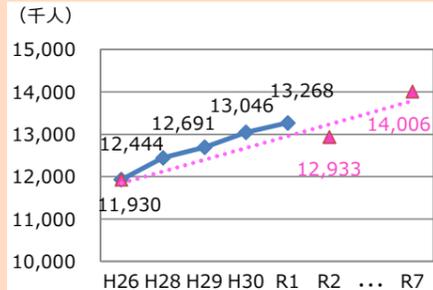
1. 交通アクセスが良くなったと思う市民の割合



めざそう値
【R2】
66.7%
【R7】
73.2%
指標の達成度



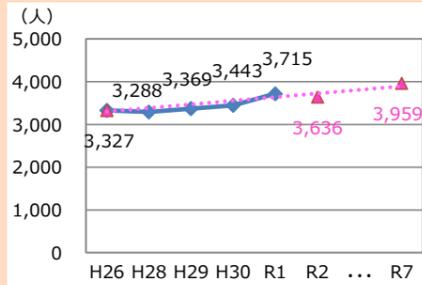
2. 豊明3駅の年間利用者数(千人)



めざそう値
【R2】
12,933千人
【R7】
14,006千人
指標の達成度



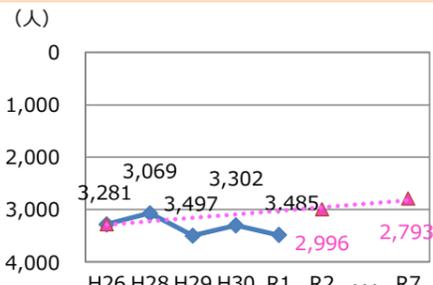
3. 転入者数(年間)



めざそう値
【R2】
3,636人
【R7】
3,959人
指標の達成度



4. 転出者数(年間)



めざそう値
【R2】
2,996人
【R7】
2,793人
指標の達成度



■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 1 : 交通アクセスが良くなったと思う市民の割合】

交通アクセスが良くなったと思う市民の割合について年齢別に見ると、30～39歳において73.1%と最も高い結果となっている。働き盛り世代ということ考えると、通勤時の交通の利便性が良いということなどが挙げられる。その他の年代においても60%前後の結果となっており、交通アクセスが良いと感じている市民は多いようである。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

豊明3駅の年間利用者数と転入者数については、めざそう値を達成している。また、交通アクセスが良くなったと思う市民の割合は、めざそう値は達成していないが平成28年以降増加している。

転入者数は増加しており、めざそう値を達成しているが、転出者数も増加しており、これに関してはめざそう値を達成していない。

交通の利便性を高めた上で、移住をしてもらえるようなPR、呼びかけなどを行うことが必要である。

大施策

交通の利便性を高め、移住を促し、通勤・通学しやすくなるようにする

中施策

- 公共交通の利便性を良くする
- 市内外の移動がしやすくなるように、道路交通網を整備する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

公共交通の利便性を良くするため、地域公共交通活性化事業や市営駐車場管理運営事業、自転車対策事業を行っている。地域公共交通活性化事業では、公共交通を利用した移動がしやすく、利用者数の増加に向けた取り組みを進めていくことが必要である。

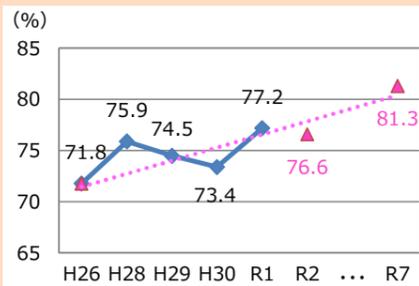
市内外の移動がしやすくなるように、道路交通網を整備するため、都市計画道路整備事業を行っている。市内の幹線道路である都市計画道路が整備され、市内の交通の利便性が向上することを進めていく必要がある。

市民は、公共交通を利用した移動の利便性や誰もが利用しやすい交通体系であることを市外に積極的にアピールし、豊明市の住環境の良さを伝えていくことが大切である。

9. 空気がきれいである

まちづくり指標

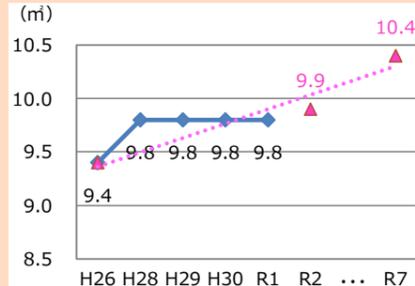
1. 空気がきれいだと感じている市民の割合



めざそう値
【R2】**76.6%**
【R7】**81.3%**
指標の達成度



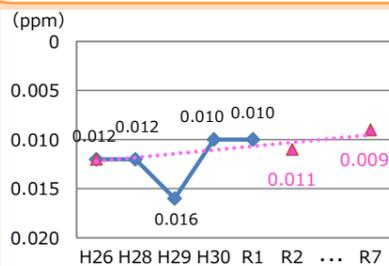
2. 市民一人当たりの公園・緑地面積



めざそう値
【R2】**9.9 m²**
【R7】**10.4 m²**
指標の達成度



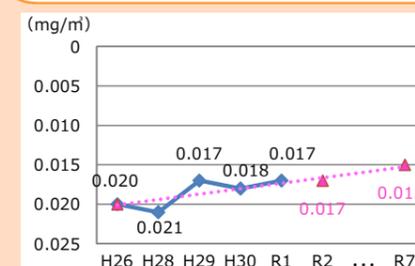
3. 大気中の汚染物質の基準値に対する豊明市の数値(二酸化窒素)



めざそう値
【R2】**0.011 ppm**
【R7】**0.009 ppm**
指標の達成度



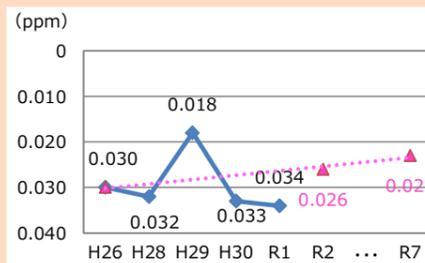
4. 大気中の汚染物質の基準値に対する豊明市の数値(浮遊粒子状物)



めざそう値
【R2】**0.017 mg/m³**
【R7】**0.015 mg/m³**
指標の達成度



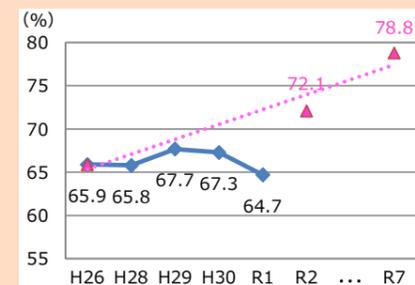
5. 大気中の汚染物質の基準値に対する豊明市の数値(光化学オキシダント)



めざそう値
【R2】**0.026 ppm**
【R7】**0.023 ppm**
指標の達成度



6. 再生可能エネルギーを利用したいと思う市民の割合



めざそう値
【R2】**72.1%**
【R7】**78.8%**
指標の達成度



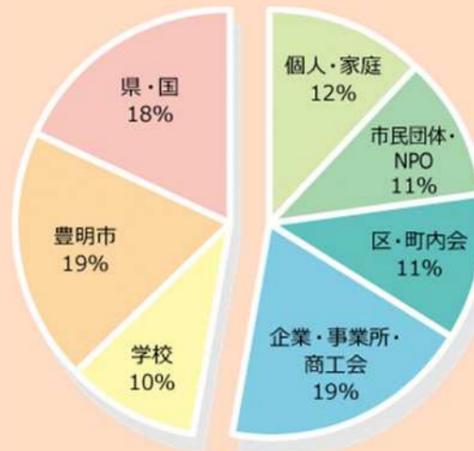
クロス集計結果について

【まちづくり指標6:再生可能エネルギーを利用したいと思う市民の割合】
再生可能エネルギーを利用したいと思う市民の割合を年齢別に見ると、70歳以上のみ60%以下となっている。年代が上がるにつれて、利用への関心が低くなっている傾向が見られる。

■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

空気がきれいだと感じている市民の割合は、平成26年時点よりも増加しており、めざそう値を達成している。

大気中の汚染物質の基準値に対する豊明市の数値については、二酸化窒素はめざそう値を達成しているが、光化学オキシダントについては、平成26年時点よりも数値が増加しており達成していない。

きれいな空気を保全していくために、市全体で取り組んでいくことが必要である。また、市民や企業などは、きれいな空気を保全していくための取り組みや再生可能エネルギーの利用を積極的に行っていくことが大切である。

大施策

きれいな空気を保全する

中施策

- 排気ガスの排出量を抑制する
- 市内の大気汚染や悪臭の問題を少なくする
- エコライフを促進する
- 緑の多い生活環境をつくる

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

排気ガスの排出量を抑制するため、温暖化対策推進事業や市営駐車場管理運営事業を行っている。温室効果ガス削減のための取り組みを進めていくためには、市民一人ひとりが何をできるか考え実行していくことが必要である。

市内の大気汚染や悪臭の問題を少なくするため、合併処理浄化槽設備補助事業や公害対策事業を行っている。空気をきれいに保ち、行動へ移していくことが必要である。市民は、公共交通機関を積極的に利用することで、車の排気ガスを抑制するなどを実践することが期待できる。

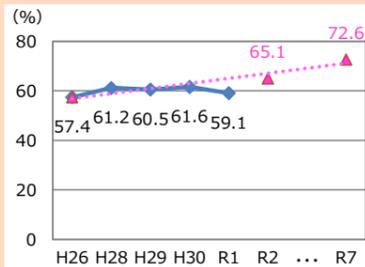
エコライフを促進するため、新エネルギー推進事業を行っている。多くの市民や企業が再生可能エネルギーの設備を導入するなどに向けて再生可能エネルギーに関する理解や知識を持ってもらうための取り組みなども必要である。

緑の多い生活環境をつくるため、街路樹管理事務や緑化推進事業、公園緑地管理事業を行っている。緑の多い生活環境をつくり、維持していくため、市民や地域、企業など様々な主体による取り組みを進めていくことが重要である。

10. 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティとなっている

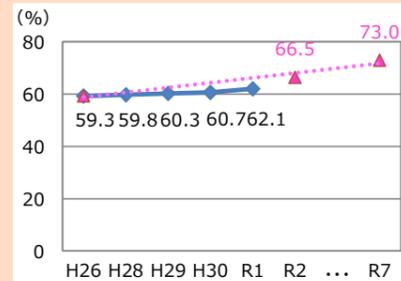
まちづくり指標

1. 買い物や窓口行政サービスが便利になったと感じている市民の割合



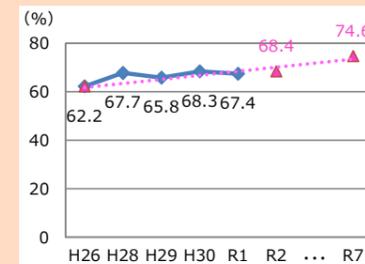
めざそう値
【R2】
65.1%
【R7】
72.6%
指標の達成度

2. 市内の移動がしやすくなったと思う市民の割合



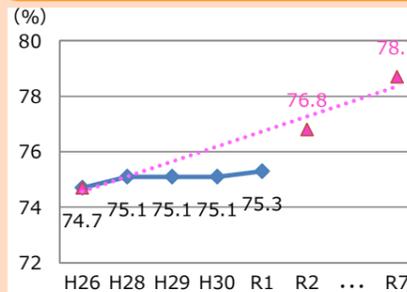
めざそう値
【R2】
66.5%
【R7】
73.0%
指標の達成度

3. 身近に自然に親しむことができる場所があると思う市民の割合



めざそう値
【R2】
68.4%
【R7】
74.6%
指標の達成度

4. 市街化区域内人口の割合



めざそう値
【R2】
76.8%
【R7】
78.7%
指標の達成度

■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 1：買い物や窓口行政サービスが便利になったと感じている市民の割合】

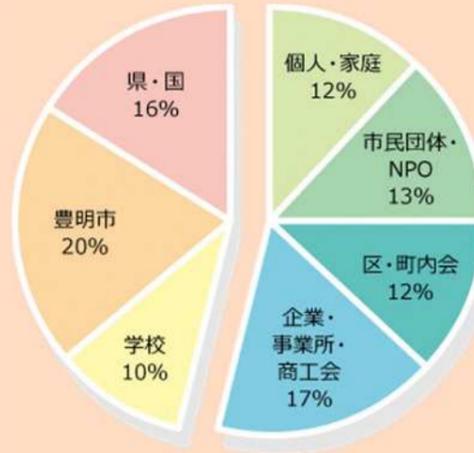
買い物や窓口行政サービスが便利になったと感じている市民の割合を学区別に見ると、沓掛地区、大宮地区で最も低い割合となっている。

【まちづくり指標 2：市民の移動がしやすくなったと思う市民の割合】

市内の移動がしやすくなったと思う市民の割合を学区別に見ると、沓掛地区、大宮地区で最も低い割合となっている。

上記2つの指標において共通している沓掛地区、大宮地区では、生活に不自由さや不便な部分を感じている市民が多いようである。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

いずれの指標においても、増加傾向またはほぼ横ばいの状態となっているが、めざそう値の達成には至っていない。

日常生活で自然を実感できる環境をつくっていくことで、身近に自然に親しむことができる場所があると感じる市民の増加が期待できる。

市内における移動がしやすいなど、生活利便性の高い街を目指していくことで、市民や転入者が住み続けたいと感じるまちになることが期待できる。

大施策

自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる

中施策

- 市民とともに緑が続く環境をつくる
- 日常生活の中で自然を実感できる環境をつくる
- 生活利便性の高い街をつくる

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

市民とともに緑が続く環境をつくるため、緑化推進事業や有機循環推進事業、農業環境保全事業を行っている。進捗状況を踏まえると、有機循環推進事業において、可燃ごみとして排出されている生ごみが各家庭で堆肥化・減量化されるよう取り組みを進めていくことが必要である。また、市民にはそれぞれの家庭で堆肥化・減量化の実践に取り組むことなどを期待する。

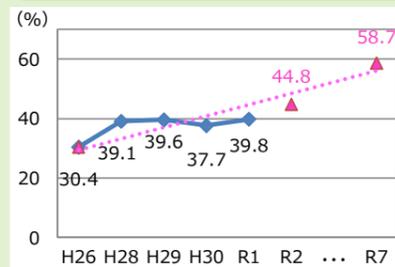
日常生活の中で自然を実感できる環境をつくるため、公園緑地管理事業を行っている。施設や樹木が適切に管理され、市民に安心して安全な潤いのある空間が提供されている状態を保つことが重要である。

生活利便性の高い街をつくるため、都市計画事業や市街地開発事業、墓地管理事業を行っている。進捗状況を踏まえると、都市計画事業では、都市計画に関する現状が整理され、適正な都市計画を進めることが必要となる。また、市街地開発事業においては、市民や転入者が住み続けたいと思えるような市街地が整備されていくよう取り組んでいくことが重要である。

11. 子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている

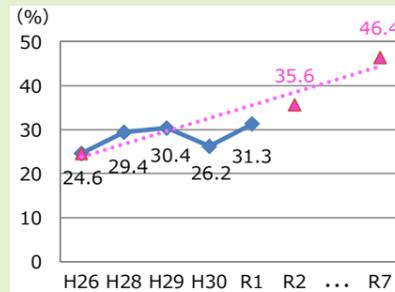
まちづくり指標

1. スポーツするために必要な情報が得られている市民の割合



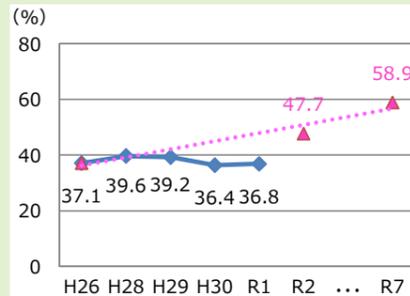
めざそう値
【R2】**44.8%**
【R7】**58.7%**
指標の達成度
○

2. スポーツを教えてくれる人がいると思う市民の割合



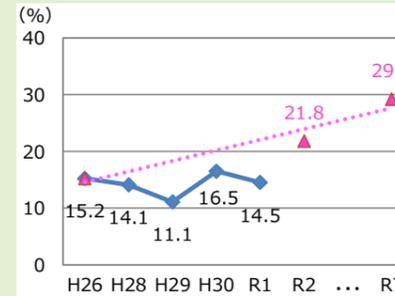
めざそう値
【R2】**35.6%**
【R7】**46.4%**
指標の達成度
○

3. スポーツを楽しむことができる市民の割合



めざそう値
【R2】**47.7%**
【R7】**58.9%**
指標の達成度
▲

4. 医療機関にかかっていない市民の割合



めざそう値
【R2】**21.8%**
【R7】**29.2%**
指標の達成度
▲

■ 現状値
● めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

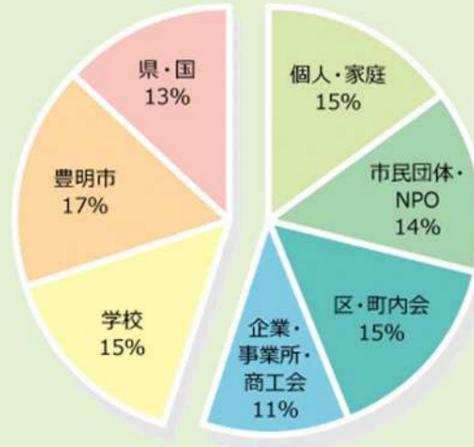
クロス集計結果について

【まちづくり指標3：スポーツを楽しむことができる市民の割合】

日頃からスポーツや運動を楽しむことができる市民の割合を年齢別に見ると、50%以上となっているのは16～19歳のみである。また、最も割合が低かった年代は20～29歳の30.2%であり、16～19歳とは20%以上の差がある状態となっている。

めざすまちの姿である「子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しむ」ことができるよう機会や場をつくり、継続していくことが重要となる。スポーツや運動を楽しむことを通して、健康・体力づくりなどにつながっていくことも期待される。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

スポーツをするために必要な情報が得られている市民の割合、スポーツを教えてくれる人がいると思う市民の割合は、平成26年時点よりも増加しているが、いずれの指標においてもめざそう値を達成していない。スポーツを楽しむことができている市民の割合、医療機関にかかっていない市民の割合においては、平成26年時点よりも減少している状況である。

世代によるスポーツ・運動のとらえ方に差があると思われるが、世代・目的にあったスポーツ浸透への取り組みが必要である。

大施策

誰もが気軽に運動を楽しみ、健康に暮らせるまちをつくる

中施策

- 誰もが運動を楽しめる機会や場をつくる
- 市民の体調や基礎体力を整えるための活動を支援する
- 一緒に運動を楽しむ仲間を増やし、リーダーを育成する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

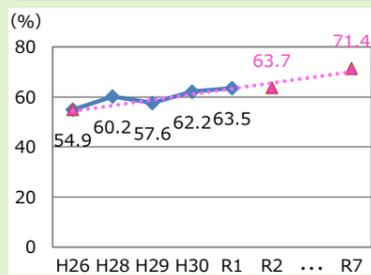
誰もが運動を楽しめる機会や場をつくるために行っているスポーツ振興事業において、子どもから高齢者まで気軽に運動、スポーツを楽しむ中で、健康的な生活を送れるような取り組みを進めていく。また、気軽に運動、スポーツを楽しむために、体育施設維持管理運営事業により、施設の利用者が安心、安全、快適な環境で施設を利用できるように維持管理がなされていることが大切である。快適な環境で運動に親しむことで、運動やスポーツを継続する市民の増加なども考えられる。

市民の体調や基礎体力を整えるための活動を支援するため、健康づくり事業を行っている。健康づくり事業を通して、市民が自ら健康増進や疾病予防、介護予防に関心を持ち、行動へとつながるような事業に取り組んでいく必要がある。また地域やボランティア、活動グループといった協力団体と連携して事業を進めることで、一緒に運動を楽しむ仲間を増やしていくきっかけとなることを期待できる。

12. 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢をもつことができる

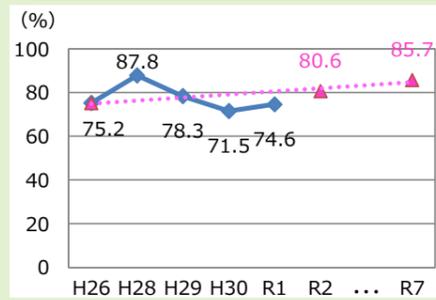
まちづくり指標

1. 近所の高齢者がいきいきしていると思っている市民の割合



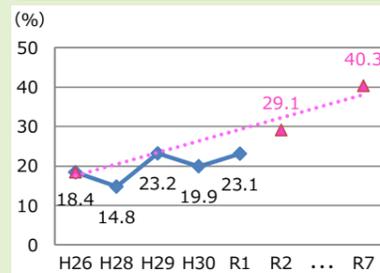
めざそう値
【R2】
63.7%
【R7】
71.4%
指標の達成度

2. 人生が楽しいと感じている高齢者の割合(65歳以上)



めざそう値
【R2】
80.6%
【R7】
85.7%
指標の達成度

3. 老後の生き方に夢があると思っている若者の割合(50代以下)



めざそう値
【R2】
29.1%
【R7】
40.3%
指標の達成度

■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

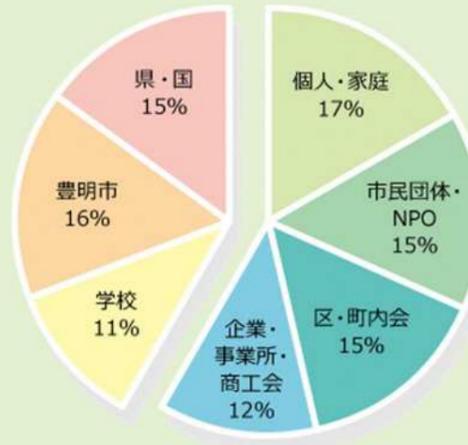
【まちづくり指標1：近所の高齢者がいきいきしていると思っている市民の割合】

近所の高齢者がいきいきしていると思っている市民の割合を年齢別に見ると、16～19歳、20～29歳、30～39歳ではそれぞれ65%以上となっている。若い世代は、比較的高齢者がいきいきしていると感じているのに対し、年齢層が高くなると、いきいきしていると感じていない市民が多いようである。

また、学区別で見ると、双峰地区のみが60%以下となっている。その他の地区では、どれも60%台であり、地区による差はあまりない状態である。

あらゆる世代、すべての地区において、高齢者が楽しく、いきいきしていると感じられるよう取り組みや事業を行っていくことが必要である。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

近所の高齢者がいきいきしていると思っている市民の割合、老後の生き方に夢があると思っている若者の割合(50代以下)は、いずれも平成26年時点よりも増加している。しかし、人生が楽しいと感じている高齢者の割合(65歳以上)は、平成26年時点から減少している。

高齢者が孤立することなく安心して生活ができ、人生を楽しんでいる姿を見て、若い世代や周りの市民が、今後の生活や人生に夢を持つことができる環境づくりが必要である。

大施策

元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる

中施策

- 高齢者が趣味や仕事などさまざまな場面でいきいきと活躍できるよう支援する
- 高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる
- 若い世代が元気な高齢者と身近に交流し、良いところを知る機会や場をつくる

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

高齢者が趣味や仕事などさまざまな場面でいきいきと活躍できるよう支援するため、高齢者生きがいがづくり事業や老人福祉センター運営事業などを行っている。老人クラブへの参加や老人福祉センターなど高齢者が集える場所、交流できる機会を継続していくことが重要である。

高齢者が自立し、安心して生活できる環境をつくるため、介護予防生活支援事業や包括支援事業などを行っている。独居、認知症といった高齢者がおかれがちな様々な状況にあっても、孤立せず安心して生活できることが必要である。家族や関係者、サポートする人だけでなく、周りの地域の人との連携、協力をもとにサポートを受けることが大切である。

若い世代が元気な高齢者と身近に交流し、良いところを知る機会や場をつくるため、包括支援事業、観光活性化事業を行っている。進捗状況を踏まえると、観光活性化事業については、高齢者と若い世代の交流機会の一つとして活用していくことで、めざすまちの姿に近づくことが期待できる。

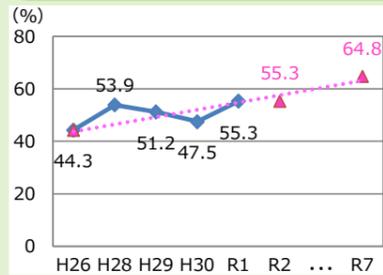
めざすまちの姿

③ 健やか / 教育・歴史文化

13. 教育や子どもに関する予算が確保され、子どもの教育環境がよい

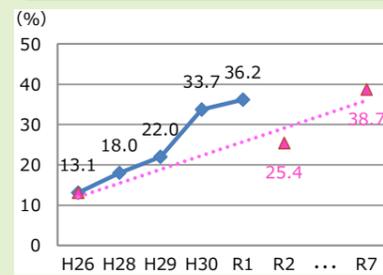
まちづくり指標

1. 子どもにとって必要な教育環境が整っていると思う市民の割合



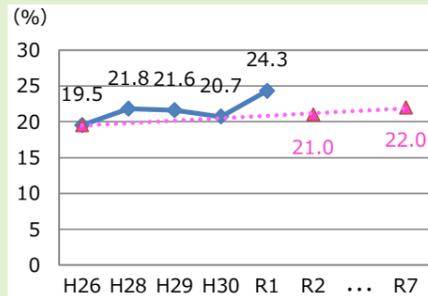
めざそう値
【R2】
55.3%
【R7】
64.8%
指標の達成度
◎

2. 子どもにとって必要なところに予算配分がされていると思う教育関係者の割合



めざそう値
【R2】
25.4%
【R7】
38.7%
指標の達成度
◎

3. 歳出の内、教育や子どものための予算の割合



めざそう値
【R2】
21.0%
【R7】
22.0%
指標の達成度
◎



◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 1：子どもにとって必要な教育環境が整っていると思う市民の割合】

子どもにとって必要な教育環境が整っていると思う市民の割合を年齢別に見ると、60～69歳のみ50%以下となっている。子育て世代、働く世代では、50%以上が必要な教育環境が整っていると回答していることやその他の指標の達成度などから考えると、比較的に子どもの教育環境をよくするための取り組みが進められているようである。今後もこの状態を維持、さらに良くしていくための事業や取り組みを行っていくことが必要である。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

いずれの指標においてもめざそう値を達成している。教育や子どものための予算の割合は増加し、めざそう値を達成していることに加えて、子どもにとって必要な教育環境が整っていると感じている市民や子どもにとって必要なところに予算配分がされていると感じている教育関係者が増加している。

教育や子どもに関する予算が確保されていることで、子どもの教育環境が整っており、それに対して良いと感じている市民や教育関係者がいるという状況である。そのため、今後も継続していくことが大切である。

大施策

教育や子どもに関する予算を確保し、教育環境を整える

中施策

- 学校の施設・設備を充実する
- 学校以外の教育施設・設備を充実する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

学校の施設・設備を維持するための小中学校施設維持管理事業を行い、小中学校施設を維持管理している。なお、多くの学校施設が建築から40年以上経過していることから、今後大規模な改修を行う必要がある。学校以外の教育施設・設備を充実するための図書館施設維持管理事業において、施設の改修や維持管理が適切に実施されることで、快適に利用できる環境が整っており、入館者数の増加へつながらることが期待できる。また、公民館管理運営事業や文化会館管理運営事業などを行っている。公民館管理運営事業では、公民館が市民それぞれの教養を高めながら活発に交流できる場、市民が主体となって活動できる場となるよう事業に取り組んでいく。文化会館管理運営事業においては、施設の利用者が、文化的素養を育み、文化、芸術を発信することができるよう取り組んでいくことが大切である。

こういった事業の中で、地域やNPO、企業など様々な主体が連携し、色々なことを伝えられる機会の提供や子どもが参加できるサークルなどをつくっていくことが必要である。

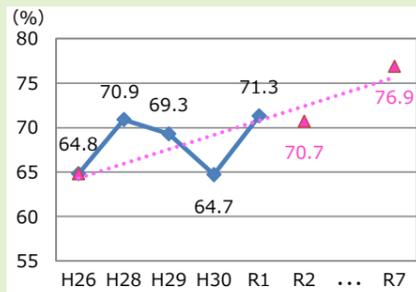
めざすまちの姿

③ 健やか / 教育・歴史文化

14. 子どもが、ずっと育ってきた豊明を大好きでいる

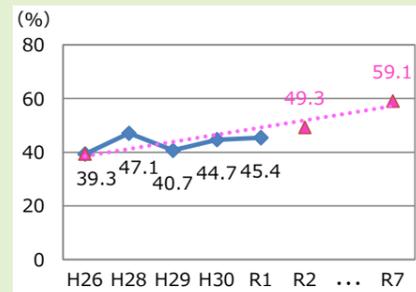
まちづくり指標

1. 自然が大切にされていると思っている市民の割合



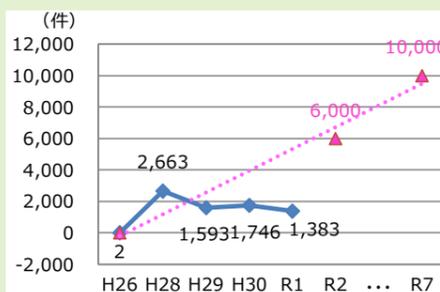
めざそう値
【R2】**70.7%**
【R7】**76.9%**
指標の達成度
◎

2. 豊明を自慢できる市民の割合



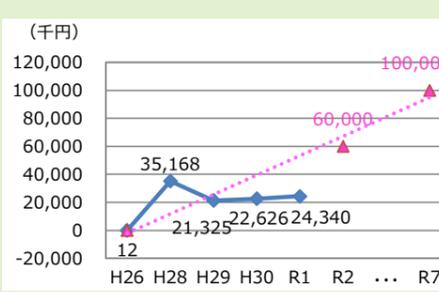
めざそう値
【R2】**49.3%**
【R7】**59.1%**
指標の達成度
○

3. ふるさと納税の件数



めざそう値
【R2】**6,000 件**
【R7】**10,000 件**
指標の達成度
▲

4. ふるさと納税の金額



めざそう値
【R2】**60,000 千円**
【R7】**100,000 千円**
指標の達成度
▲

■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

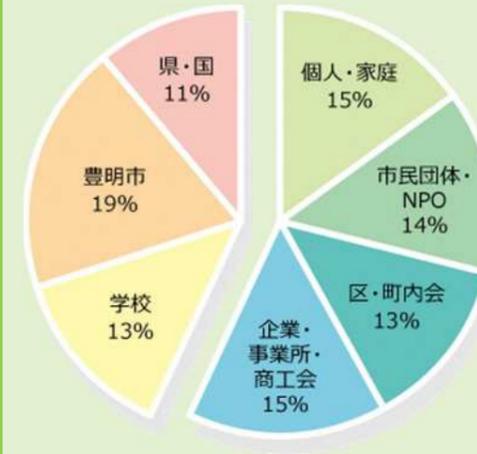
【まちづくり指標 2：豊明を自慢できる市民の割合】

豊明を自慢できる市民の割合を年齢別に見ると、70歳以上のみが55%以上となっている。一方で、その他の年代では50%以下となっており、自慢できると感じている市民の割合は低いようである。

地区別で見ると、沓掛地区、大宮地区において40%以下となっている。

子どもから大人まで自身の暮らす豊明を好きであり、自慢できるような環境をつくっていくことが必要である。豊明の歴史や文化、魅力を理解している高齢者などが若い世代に伝える役割を担い、受け継いだ若い世代が次へつなげていくなど、市民、地域に加えてあらゆる主体が主役となり、活動や仕組みを考えていくことが必要となる。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

自然が大切にされていると思っている市民の割合と豊明を自慢できる市民の割合は、平成26年時点よりも増加をしている。自然が大切にされていると思っている市民の割合については、めざそう値を達成しており、この割合が継続、増加していくことで豊明を自慢できる要素の1つになると考えられる。

子どもが自身の育ってきた豊明を大好きでいるためには、歴史や文化、自然など豊明の良さに触れる機会が必要である。また、そういった機会を通して、家族や地域の大人たちが豊明の良さを伝えていくことが大切である。

大施策

子どもがずっと育ってきたとよあけを大好きになる環境をつくる

中施策

- 子ども同士や大人との出会いの機会や場を増やす
- 子どもの頃から好きな場所や思い出に残る機会を増やす
- 家族や地域の人がとよあけを好きになる風土を醸成する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

子ども同士や大人との出会いの機会や場を増やすため、青少年対策事業や社会教育活動事業などを行っている。小中学生が地域の人たちに支えられ、活発に活動し、生き生きと暮らしていけるよう事業を進めていくことが必要である。

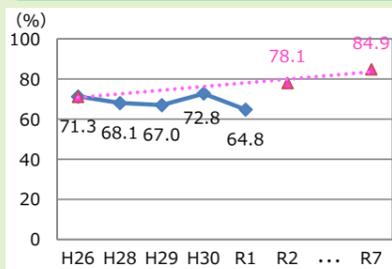
子どもの頃から好きな場所や思い出に残る機会を増やすため、豊明夏・秋まつり支援事業や観光振興事業、市民文化育成事業などを行っている。子どもが豊明の歴史や文化などに触れる機会を設け、まちの良さや魅力を理解してもらうことが大切である。こういった機会を通して、今後の活動や取り組みを担っていく人材育成へとつなげていくことも期待され得る。

家族や地域の人がとよあけを好きになる風土を醸成するため、褒章・表彰事業や郷土資料保存事業を行っている。豊明の歴史、伝統、文化などに関する資料や情報を収集したもの、行事や名所などを記録したものが利用され、継承されていくよう事業を行うことが必要である。

15. 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と 支え合いながら孤立することなく暮らすことができる

まちづくり指標

1. 1日1回以上家族以外の人と会話している 市民の割合



めざそう値
【R2】
78.1%
【R7】
84.9%

指標の達成度

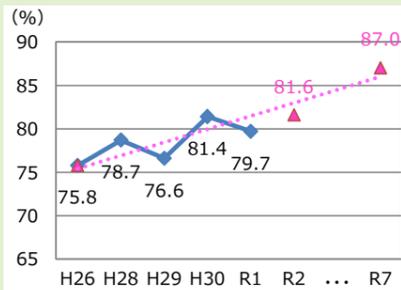
2. 日常の中で困っている人に声掛けができて いる市民の割合



めざそう値
【R2】
53.8%
【R7】
63.4%

指標の達成度

3. 地域から孤立していないと思っ ている市民の割合



めざそう値
【R2】
81.6%
【R7】
87.0%

指標の達成度

■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 2：日常の中で困っている人に声掛けができて いる市民の割合】

日常の中で困っている人に声掛けができていない市民の割合について学区別で見ると、最も割合の唐竹地区では 49.0%となっている。一方で、最も低い割合であるのは沓掛地区の 31.6%となっており、唐竹地区と比較すると約 17%の差がある。

最近では社会全体として、知らない人に声を掛けたり、掛けられたりすることに不安や不信を持つ人も少なくない状況である。そういった中で、地域の人と支え合いながら暮らしていくためにも、人と人が交流を深め、つながりを持ち、声を掛けやすく、掛けられても不安ではない環境をつくっていくことが必要である。

各まちづくりの主体に対する 役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の 分析及び今後の展望

いずれの指標においてもめざそう値を達成しておらず、1日1回以上家族以外の人会話をしている市民の割合、日常の中で困っている人に声掛けができていない市民の割合は、平成26年時点よりも減少している。

地域で支え合いながら、孤立することなく暮らしていくためには、誰でも身近に寄り合える場所や交流ができる機会の充実が大切である。また、場所や機会があるというだけではなく、市民に広く周知されている必要がある。寄り合える場所や交流の機会を通して、さらに地域の人々のつながりを強くしていくことも重要である。

大施策

身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる

中施策

- サービスや支援を充実し、負担を軽減する
- 多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

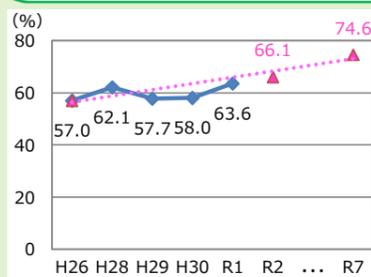
サービスや支援を充実し、負担を軽減するため、市民相談事業や消費者相談事業などを行っている。また、障がいを持つ人やその家族が地域から孤立することなく、必要な支援やサービスを受けられる障がい福祉サービス事業や障がい者相談支援事業なども行っている。多様な交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくるため、区・町内会活動支援事業、社会福祉協議会関連事業、公民館管理運営事業などを行っている。進捗状況を踏まえると、多文化共生推進事業、障がい福祉団体事務、豊明勤労会館事業を進めていくことが必要である。市在住の外国籍住民が地域の人たちとの関わりを深めるための多文化共生推進支援事業や障がいのある人やその家族の活発な交流を促進するための福祉団体の活動支援を今後も進めていく。そうすることで、様々な人が交流する機会を持つことができ、地域でのつながりを深めていくことが期待される。

また、積極的なあいさつを推進し、顔の見える「つながりあえる地域づくり」を進める。

16. 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困っていない

まちづくり指標

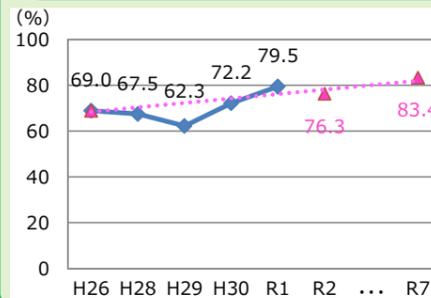
1. 介護で困ったときに助けを求めることができる友だちや専門機関があると思う家族の割合



めざそう値
【R2】**66.1%**
【R7】**74.6%**
指標の達成度



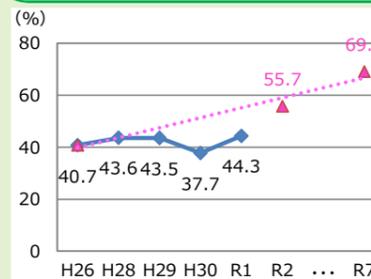
2. 1週間のうち1回は自分の時間をもっている家族の割合



めざそう値
【R2】**76.3%**
【R7】**83.4%**
指標の達成度



3. 支援が必要になったときに活用できるサービスを知っている市民の割合



めざそう値
【R2】**55.7%**
【R7】**69.0%**
指標の達成度



■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 3：支援が必要になったときに活用できるサービスを知っている市民の割合】

支援が必要となったときに利用できるサービスを知っている市民の割合を年齢別に見ると、50歳以上の年代では50%以上が知っているに回答したのに対し、それよりも若い年代においては40%以下となっている。20～29歳に関しては、13.2%と最も低い割合である。

それぞれの年代において必要な支援は違いがあり、それに伴う必要な情報、サービスも様々である。支援を必要とする人が、いつでも情報を受け取ることができ、サービスを受けられるよう取り組みや仕組みづくりを進めていくことが必要である。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

すべての指標において平成26年時点よりも増加がみられ、1週間のうち1回は自分の時間をもっている家族の割合については、めざそう値を達成している。

子育て支援に関することや介護に関することなど支援を必要としている家族が、気軽に相談できる場の拡充や必要なサービスの提供を行っていく必要がある。また、相談できる場やサービスについて知っている市民を増やし、近所同士での情報共有や声を掛け合うことで、孤立することなく暮らしていくことが望まれる。

大施策

支援が必要な家族の負担を軽減する

中施策

- 多様な主体者が連携し、家族を支える環境をつくる
- 家族を支援するサービスを充実させる
- 身近な地域で助け合える環境をつくる

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

多様な主体者が連携し、家族を支える環境をつくるため、包括支援事業やひとり親支援施策事業、障がい者相談支援事業を行っている。高齢者、ひとり親家庭、障がいのある人など本人とその家族が、支援を受けたり、相談したりすることで不安の解消や負担の軽減につなげることが必要である。

さらに、支援を必要とする家族の問題は複雑化する傾向にあり、多様な分野の横断的・複合的対応が必要とされてきており、包括的支援体制づくりを進めている。

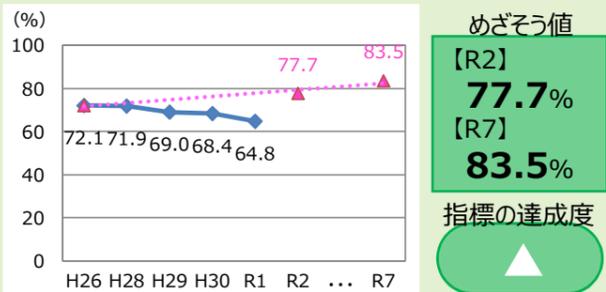
また、経済的な支援となる生活困窮者扶助事業や子ども医療事業などのほか、地域の高齢者への支援サービス基盤整備として生活支援体制整備事業などを進めている。

今後、支援が必要な家族に対して、NPOや地域とともに、支援の場や体制づくりを行い、家族が問題を抱え込むことがないように支えあう仕組みを作っていくことが必要である。

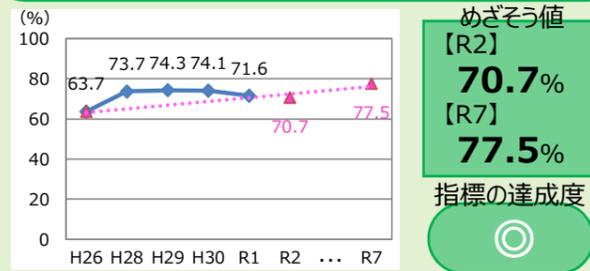
17. 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している

まちづくり指標

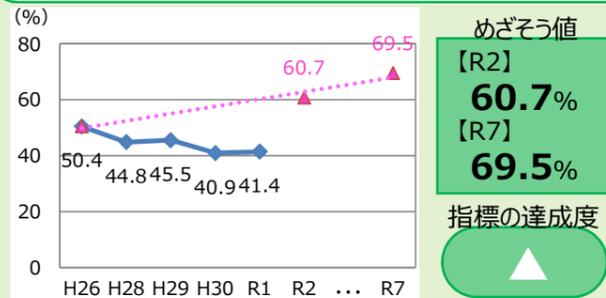
1. 地域の活動に参加している子どもの割合



2. 地域に愛着をもち、地域の活動に参加している大人の割合



3. 近所で5人以上の大人の名前が言える子どもの割合



■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 2 : 地域に愛着をもち、地域の活動に参加している大人の割合】

地域に愛着をもち、地域の活動に参加している大人の割合について学区別に見ると、最も高い割合であるのは三崎地区の81.9%となっている。一方で、最も低い割合の地区は61.1%となっており、2つの地区における割合の差は約20%である。地域の魅力を知り、愛着をもってもらえるような取り組みを行い、さらに活動への参加につなげていくことが望まれる。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

地域の活動に参加している子どもの割合、近所で5人以上の大人の名前が言える子どもの割合は、めざそう値を達成しておらず、平成26年時点よりも減少している。

このことから、地域と子どものつながりが十分ではないと考えられる。将来、地域を担っていく子どもたちが、自身の地域に愛着を持ち、子どもの内から様々な活動していくことが必要である。一方で、地域の活動に参加している大人の割合は増加しているため、親や地域の大人が子どもの地域への活動を理解し、積極的に活動へ巻き込んでいくことが期待できる。

大施策

子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる

中施策

- 地域ぐるみで子どもを育て、見守る環境をつくる
- 子どもが地域に愛着を持てる環境をつくる
- 地域活動を活発にする

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

地域ぐるみで子どもを育て、見守る環境をつくるため、児童館管理運営事業や児童福祉地域活動事業、青少年対策事業を行っている。児童館を拠点とした子育て支援事業や地域が主体となった子育て支援事業、地域との連携した事業を行うことで、地域ぐるみの子育てとなるよう取り組んでいくことが必要とされる。

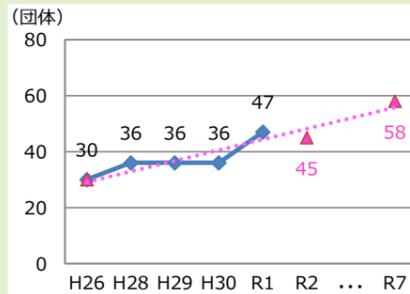
子どもが地域に愛着をもてる環境をつくるために、文化財保護事業を行っている。地域に残る歴史や文化について正しく理解し、愛着をもってもらえるよう取り組みを進めていくことが重要である。また、残されている歴史や文化を継承していく人材を育てていくことなども必要とされる。

地域活動を活発にするために、社会教育活動事業や区・町内会活動支援事業を行っている。社会教育活動事業においては、小中学生たちが活発に活動できるよう、地域の人たちの支えを受けながら活動できる環境を継続していく必要がある。区・町内会活動支援事業では、区・町内会の実情や特性にあった財政支援などを活用し、地域で交流拠点や交流機会の充実を図っていくことで地域の活性化につなぐことなどが期待できる。

18. 災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている

まちづくり指標

1. 1年間に防災訓練に参加した団体の数

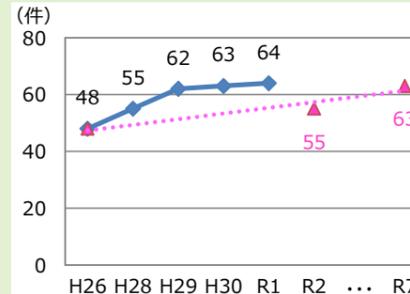


めざそう値
【R2】
45 団体
【R7】
58 団体

指標の達成度



2. 他自治体及び民間との災害に関する協定の数

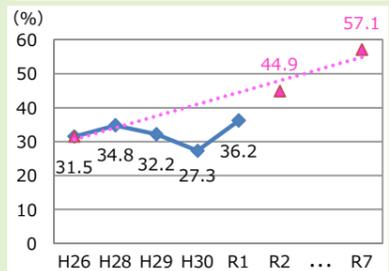


めざそう値
【R2】
55 件
【R7】
63 件

指標の達成度



3. 災害時に備えて行政・民間の情報共有ができていていると思う市民の割合



めざそう値
【R2】
44.9%
【R7】
57.1%

指標の達成度



■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 3 : 災害時に備えて行政・民間の情報共有ができていていると思う市民の割合】

災害時に備えて行政・民間の情報共有ができていていると思う市民の割合を年代別に見ると、最も高い割合となっているのは70歳以上で49.2%である。一方で、最も低い割合となっているのは20～29歳の22.6%であり、2つの年代における割合の差は約25%である。

学区別による割合については、どの地区においても40%前後であり、それほど大きな違いはないようである。

普段から様々な主体と密に連携・協力をし、情報共有を図り、災害時に対応できる体制をつくっておくことが必要である。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

いずれの指標においても、平成26年時点よりも増加しており、1年間に防災訓練に参加した団体の数、他自治体及び民間との災害に関する協定の数は、めざそう値を達成している。

災害時に備えて行政・民間の情報共有ができていていると思う市民は、平成26年時点よりも増加しているものの40%以下にとどまっており、課題と考えられる。

市民一人ひとりが防災への意識を高めるとともに、行政と民間、地域、団体などの連携を図ることが必要である。普段から情報共有、交流などコミュニケーションを取ることが大切である。

大施策

災害時に行政と民間、地域、近隣市町村と連携する

中施策

- 普段から各機関との連絡調整がとれる体制をつくる
- 関係機関と連携について実効性の高い協定を結ぶ
- 行動計画に基づく連携についての訓練を実施する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

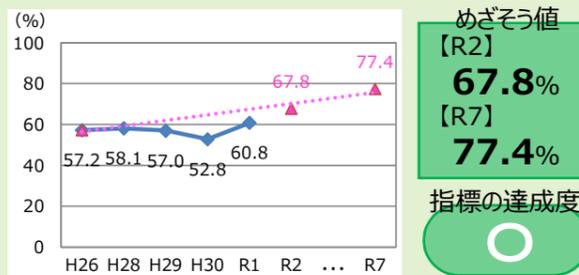
普段から各機関との連絡調整がとれる体制、関係機関と連携について実効性の高い協定を結ぶため、関係機関とのつながりを意識しながら災害対策事業、消防水利設置・維持管理事業、消防団運営事業を行っている。現在の進捗状況を踏まえると、とりわけ災害対策事業、消防団運営事業は、今後より一層多方面で連携していくことが大切である。災害対策事業では、近隣自治体や民間企業などが、普段から情報交換等を行うことにより顔の見える関係を構築することで、災害時に迅速な対応ができる関係となるよう取り組んでいくことが必要である。また、消防団運営事業においては、消防団員・区、町内会・関係団体などが、地域の中心となり、地域住民と連携・協力して活動を行っていくことが必要である。

行動計画に基づく連携についての訓練を実施するための防災啓発事業では、市民が防災訓練の目的等を理解し、積極的に防災訓練へ参加することで、非常時に消火活動や救出活動を適切に行うことができる地域づくりを目指す。

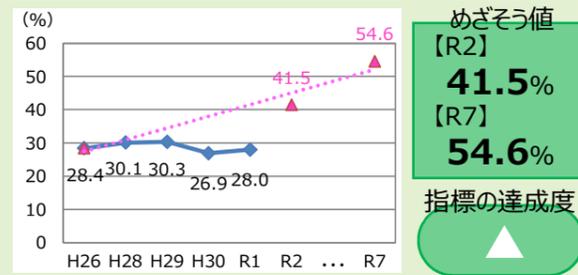
19. 防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる

まちづくり指標

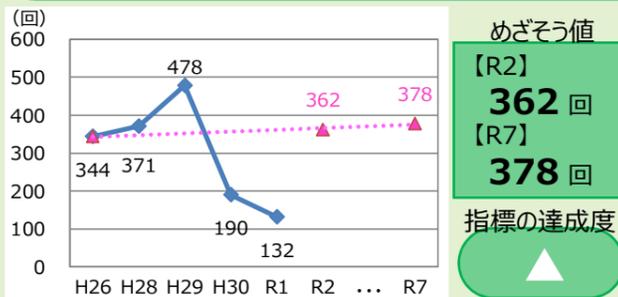
1. 家庭で防災対策をしている市民の割合 (備蓄・避難場所の確認など)



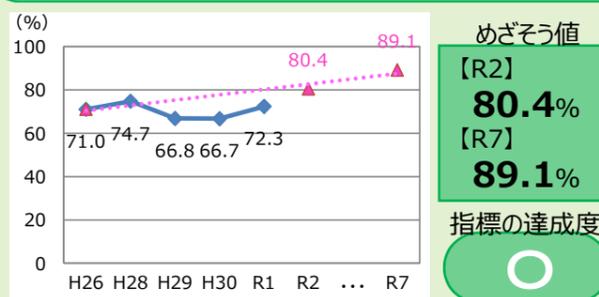
2. 普段から地域で災害時の対応について話し合っている市民の割合



3. 実体験できる講習の回数(応急手当、初期消火など)/年間



4. 火災に備えて住宅用火災警報器が設置してある割合



■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 2 : 普段から地域で災害時の対応について話し合っている市民の割合】

普段から地域で災害時の対応について話し合っている市民の割合を学区別で見ると、沓掛地区、大宮地区の2地区において30%以上となっている。

災害に備えて家庭での準備をしておくだけでなく、地域で準備を進めておくことも重要となる。そのため、日頃から地域全体で災害に対する意識の向上を図り、災害時への対応などについて考え、話し合いを行うことが必要である。今後さらに、地域で災害時への対応などについて考えていく機会や場を確保することが必要であるが、新型コロナウイルス感染症の視点も含めて考えていく必要がある。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

家庭で防災対策をしている市民の割合と火災に備えて住宅用火災警報器が設置してある割合については、平成26年時点よりも増加しているが、めざそう値の達成には至っていない。家庭において防災への意識はあるようだが、地域における災害時への対応についてはあまり意識されていないようである。

災害時に備えて家庭で話し合いや準備をするだけでなく、地域で連携、準備をしておき、いざという時にはお互いで助け合うことができる体制が求められる。

大施策

災害に備え、家庭と地域の準備と連携ができ、災害時には自発的に助け合えるよう支援する

中施策

- 災害に備えて家庭での準備を促す
- 災害に備えて地域での準備を促す
- 災害に備え家庭と地域の連携を促し、災害時の助け合いの意識を向上させる

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

災害に備えて家庭での準備を促すため、住宅・建築物耐震化促進等安全ストック形成事業、女性防火クラブ事務を行っている。進捗状況からは、住宅・建築物耐震化促進等安全ストック形成事業での取り組みについて今後さらに進めていくことが必要である。

災害に備えて地域での準備を促すため、消防団運営事業を行っている。消防団が地域の中心となり、地域住民との連携を図っていくことが求められる。普段から地域、町内会、関係団体との交流などを図ることで、災害時以外の関わりなどを築くことも必要である。

災害に備え家庭と地域の連携を促し、災害時の助け合いの意識を向上させるため、防災訓練啓発事業を行っている。地域での防災訓練などを行うことで、災害時に地域においてスムーズな連絡調整を行えるよう取り組みを進めていくことが大切である。市民一人ひとりが正しい知識を備えることに加えて、消火活動や救出活動を地域住民の力でできるよう備えておく必要がある。

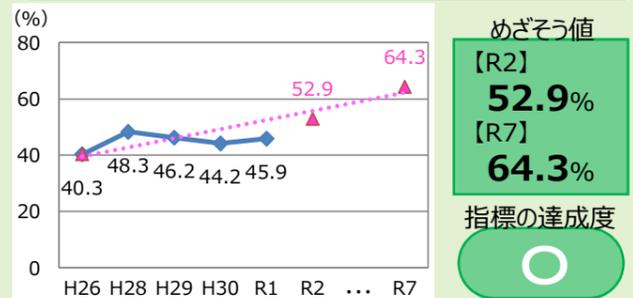
めざすまちの姿

④ つながり / 地域・市民生活

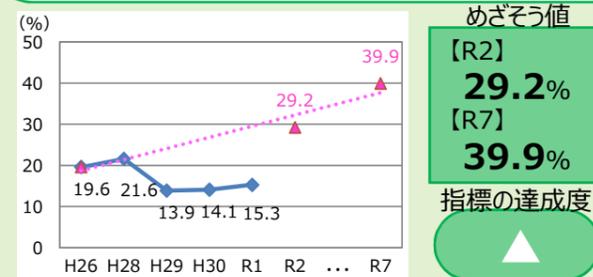
20. 行政や地域が発信する情報を市民が積極的に共有し、活用している

まちづくり指標

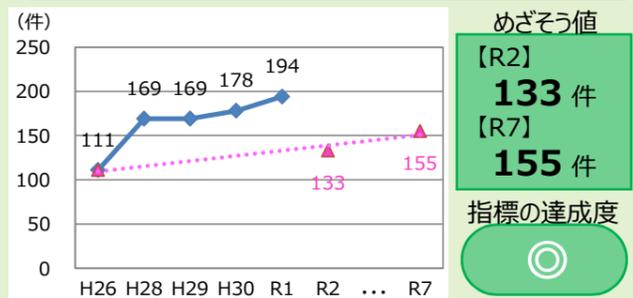
1. 必要な情報を得るための手段をわかっている市民の割合



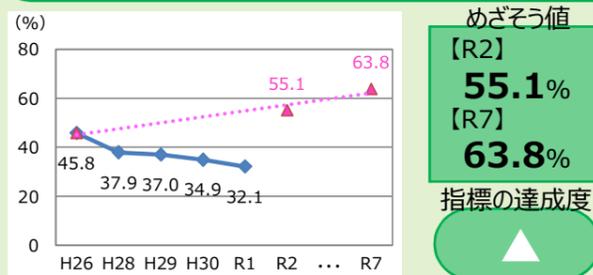
2. この1年間で、地域の人同士で、まちのことについて意見交換した市民の割合



3. 市長への手紙・Eメールの件数



4. 行政や地域の情報を得て、イベントや集まりに参加している市民の割合



■ 現状値
● めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 4 : 行政や地域の情報を得て、イベントや集まりに参加している市民の割合】

この1年で行政や地域の情報を得て、イベントや集まりに参加している市民の割合を年齢別に見ると、30～39歳が45.2%と最も多くなっている。一方20～29歳では18.9%と最も低く、30～39歳と比較すると25%以上の差がある。

必要とする情報や情報を入手する方法について年代で違うことを理解し、それぞれの世代、ニーズに合わせた取り組みを行う必要がある。ここでの課題は、情報発信における方法、内容に加えて、情報発信後にイベントや集まりなど市民の活動、実践にどう結びつけていくかについても考えるべき点である。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

この1年間で、地域の人同士で、まちのことについて意見交換した市民の割合、行政や地域の情報を得て、イベントや集まりに参加している市民の割合は、めざそう値を達成しておらず、平成26年時点よりも減少している。

必要な情報を得るための手段を知っている市民の割合は増加しているため、情報を得ていても市民の間で積極的に活用されていない、うまく活用されていないと考えられる。また、イベントや集まりへの参加に結びついていないようである。

大施策

行政や地域が発信する情報を市民が積極的に共有し、活用できる支援をする

中施策

- 行政が迅速かつ正確に情報を提供する
- 地域の情報発信力が高まるように支援する
- 日ごろから住民同士のコミュニケーションが取れるよう支援し、活用できるような情報共有を促す

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

行政が迅速かつ正確に情報を提供するため、ホームページ管理事業、広報事業が行われている。ホームページと広報とよあけのそれぞれの利用者に、必要な情報を分かりやすく伝えられることが重要である。市は、ホームページ、広報のそれぞれの利点を生かして、情報発信を行うことである。市民は、受け取った情報を周りの人に伝える、広めるなどして豊明市の良さなどを伝えていくことが必要である。

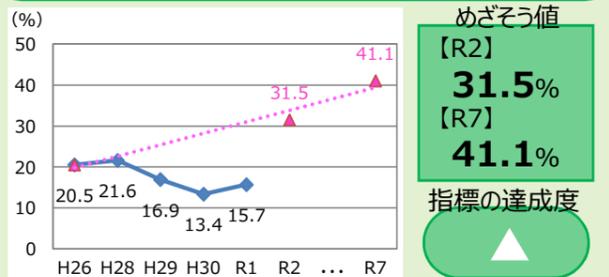
地域の情報発信力が高まるように支援するため、市民活動支援事業を行っている。各団体の状況や段階を把握し、それに応じて学習機会を提供することで、地域社会活動を活性化していくことが望まれる。地域の情報発信力により、地域での活動の輪が広がっていくことでさらなる活性化へとつながる。

日ごろから住民同士のコミュニケーションが取れるよう支援し、活用できるような情報共有を促すため、区・町内会活動支援事業を行っている。区・町内会の実情や特性にあった財政支援などを活用し、地域で交流拠点や交流機会の充実を図っていくことで地域の活性化につながることなどが期待できる。

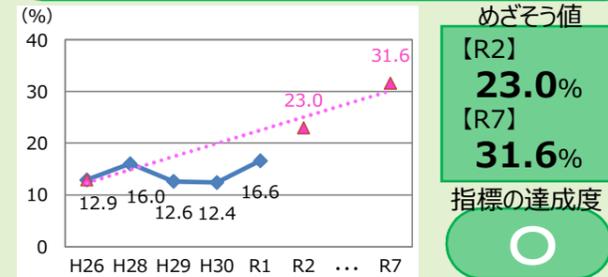
21. 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している

まちづくり指標

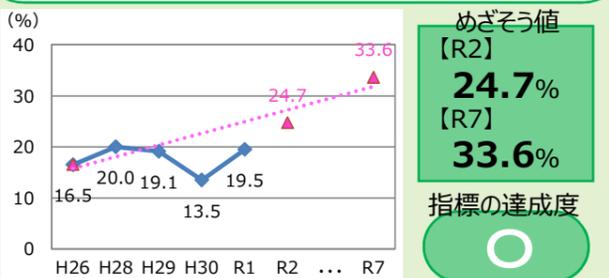
1. (この1年で)市外の人に豊明の歴史・伝統・文化の展示会やイベント等を伝えたことのある市民の割合



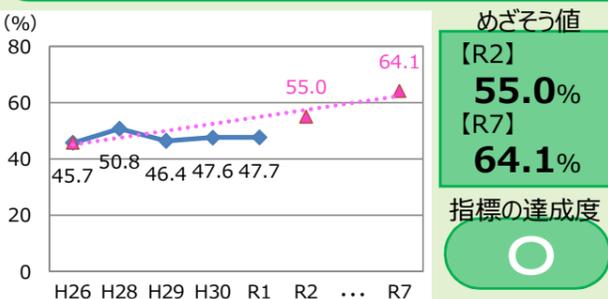
2. 高校生・大学生が歴史・伝統・文化を通して人とつながっていると思っている市民の割合



3. 自発的に文化を創造できるような環境が豊明にあると思っている市民の割合



4. 豊明の歴史・伝統・文化に誇りをもっている市民の割合



■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 4：豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持っている市民の割合】

豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持っている市民の割合について年齢別に見ると、16～19歳で67.6%、70歳以上で58.9%となっている。その他の年代においては50%以下となっており、最も割合の低かった30～39歳では36.6%であった。

歴史・伝統・文化を保護・継承していくためには、豊明の魅力を知り、自身のまちに誇りをもっていることが大切である。そのために、市民が歴史・伝統・文化を学ぶ機会や場づくり、保護・継承をしていくための仕組みづくりや人材の育成などに取り組んでいくことが考えられる。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

いずれの指標においてもめざそう値を達成しておらず、市外の人に豊明の歴史・伝統・文化の展示やイベント等を伝えたことのある市民の割合は、平成26年時点よりも減少している。

豊明の歴史・伝統・文化が保護・継承され、市民が魅力を理解し、楽しめるような環境などをつくっていくことが必要である。市民が豊明の歴史・伝統・文化などに誇りを持つことで、市外の人への魅力発信や今後の保護・継承へとつながっていくことが期待される。

大施策

とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる

中施策

- 歴史・伝統・文化の保護・継承を支援する
- 市内外の人がとよあけの魅力を楽しめる環境をつくる
- 新しい文化を醸成する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

歴史・伝統・文化の保護・継承を支援するため、文化財保護事業や市史編さん事業、郷土資料保存事業を行っている。地域の歴史・伝統・文化について正しく理解し、知識を持ってもらい、それを継承していくことが必要となる。そのためには、豊明市の歴史・文化・伝統に関する資料や情報が収集され、利用しやすい環境を整えておく必要がある。また、市民は自分の住んでいるまちの歴史などに興味を持つことが大切である。

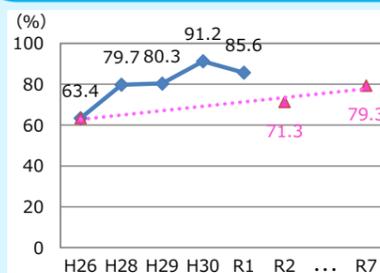
市内外の人がとよあけの魅力を楽しめる環境をつくるため、資料情報管理事業や観光活性化事業を行っている。観光活性化事業においては、史跡観光やイベントへの来場者が増加することで、市全体が賑やかになるような取り組みを進めていくことが必要である。取り組みを進める上で、地域との連携や協力が必要であり、ボランティアとしての活躍などが今後さらに期待できる。

新しい文化を醸成するため、図書館資料貸出事業を行っている。読書推進により、子どもの情操教育が充実し、市民の歴史・伝統・文化に対する関心が高まるよう事業を行っていく必要がある。子どもだけでなく、保護者や周りの大人が興味や関心を持ち、一緒に学び、触れていくことが重要である。

22. 行政は積極的に市民からの意見を吸い上げる工夫や努力をしている

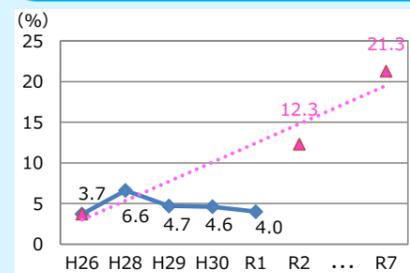
まちづくり指標

1. 偏らず、広く市民の声を聞く努力をして、必要に応じて事業に反映していると思う職員の割合



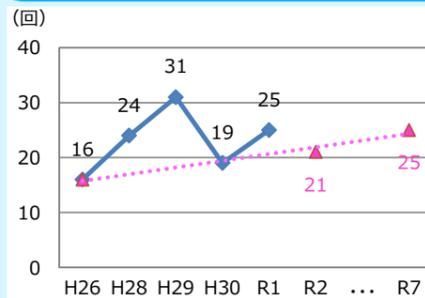
めざそう値
【R2】
71.3%
【R7】
79.3%
指標の達成度

2. 年1回は、行政に関心をもって積極的に働きかけている市民の割合



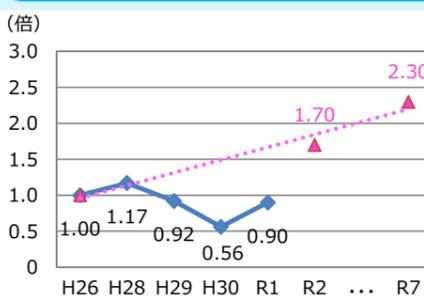
めざそう値
【R2】
12.3%
【R7】
21.3%
指標の達成度

3. 市民からの意見を吸い上げる制度の実施回数



めざそう値
【R2】
21回
【R7】
25回
指標の達成度

4. 附属機関等の公募委員の応募倍率



めざそう値
【R2】
1.7倍
【R7】
2.3倍
指標の達成度

■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標2：年1回は、行政に関心をもって積極的に働きかけている市民の割合】

年1回は、行政に関心をもって積極的に働きかけている市民の割合について性別で見ると、男性6.2%、女性1.7%となっている。

年齢別に見ると、60～69歳が6.5%と最も割合が高く、学区別においては、館地区が8.1%と最も高い割合となっている。

クロス集計の結果からはそれほど大きな違いは見られないが、全体として、行政に関心をもって積極的に働きかけているという市民が少ないことが分かる。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

偏らず、広く市民の声を聞く努力をして、必要に応じて事業に反映していると思う職員の割合、市民からの意見を吸い上げる制度の実施回数については、パブリックコメント、eモニター制度等の実施によりめざそう値を達成している。附属機関等の公募委員の応募倍率については、平成26年時点よりも減少している。

市民が、行政に関心をもって積極的に働きかけ易い仕組みの構築と、市民からの意見を吸い上げる制度を広く周知する必要がある。

大施策

積極的に市民の意見を吸い上げる

中施策

- 市民の声を聴く組織風土を形成する
- 子どもから大人まで意見を述べる仕組みや機会を増やす
- まちを良くするために市民が互いに議論できる環境をつくる

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

市民の声を聴く組織風土を形成するため、CS向上研修等の職員研修事業を行っている。市民ニーズが多様化しているため、これまで以上に市民の声を聴き、敏感に受け止め、市民目線で行政経営を行っていく必要がある。

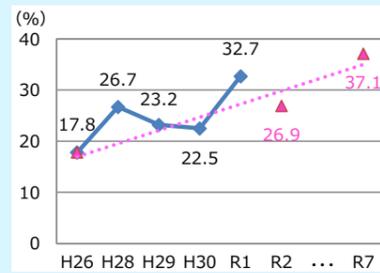
市は、子どもから大人まで意見を述べる仕組みや機会を増やすため、広聴事業、パブリックコメント等を実施し、市民からの意見を伺う方法、機会を設けている。一方、市民は、抱えている問題や課題を伝えると同時に、積極的に参加をすることが必要である。そして、市は市民の意見を政策形成への反映や事業等の改善などに活かしていくことが重要である。

まちを良くするために市民が互いに議論できる環境をつくることをめざし、区・町内会活動支援事業を行っている。区・町内会の実情や特性に合った財政支援が受けられ、地区交流拠点の新設、交流機会の充実を図ることが可能となっている。行政だけではなく、市民、地域が主体となって、まちを良くする意識を持ち、区・町内会の実情を把握し、改善に向けた活動などへつながることが必要である。

23. 世代、性別などで不公平感のない予算配分や施策となっている

まちづくり指標

1. 世代で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う市民の割合

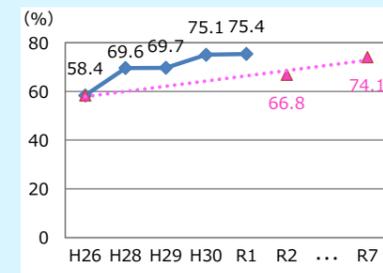


めざそう値
【R2】
26.9%
【R7】
37.1%

指標の達成度



2. 世代で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う職員の割合

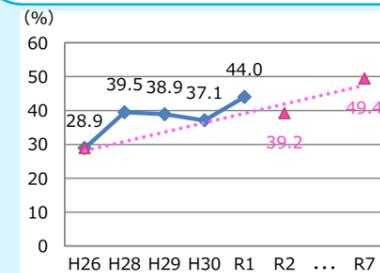


めざそう値
【R2】
66.8%
【R7】
74.1%

指標の達成度



3. 性別で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う市民の割合

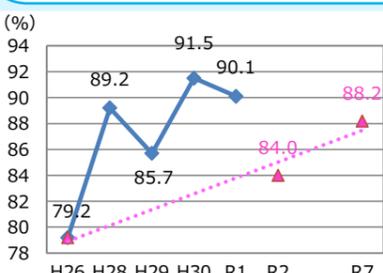


めざそう値
【R2】
39.2%
【R7】
49.4%

指標の達成度



4. 性別で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う職員の割合



めざそう値
【R2】
84.0%
【R7】
88.2%

指標の達成度



■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 4：性別で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う市民の割合】

性別で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う市民の割合について年齢別に見ると、年代が上がるにつれて割合が減少している傾向にある。割合が最も高かった16～19歳では67.6%となっている。一方で、割合が最も低かった70歳以上では35.8%となっており、16～19歳と比較すると30%以上の差がある。年代が上がるにつれて、性別による予算配分や施策に対する不公平感を感じている市民が多いようである。あらゆる人にとって、公平であると感じる予算配分や施策を検討し、実行していくことが重要である。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

世代、性別で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う市民、職員の割合は、すべてにおいてめざそう値を達成している。このことから、不公平感のない予算配分や施策が実施されていると感じている市民、職員は増加していると考えられる。

今後もこの状態を継続し、市民が予算配分について理解できるよう情報公開などを行い、施策を実施していくことが大切である。

大施策

世代、性別などで不公平感のない予算配分や施策を実施する

中施策

- 多くの市民が公平と感じる施策を実施する
- 市民が予算配分を理解できるよう情報を公開し説明する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

総合計画マネジメントのもと、各課の事業の進捗や課題を行政評価にて評価し、この評価結果等に基づき部長が翌年度以降の予算編成に向けた指示事項をまとめた経営方針に基づき、各課が予算要求を行うことでより効果的かつ効率的な予算編成を目指している。その結果か、不公平感のない予算配分や施策と感じている市民の割合は増加傾向でめざそう値は達成しているが、割合としては50%を下回っている。

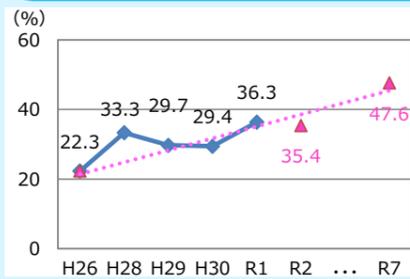
引き続き総合計画マネジメントを推進するとともに、今後は更に市民ニーズやエビデンスに基づいた予算編成を行っていく必要がある。

また、予算編成事務において、市ホームページでの予算編成過程の公表を行っている。今後も引き続き、必要などころに予算配分がされるよう予算編成の質を高めるとともに、市民への情報発信を行っていく必要がある。

24. 税収が確保され、持続可能な財政運営となっている

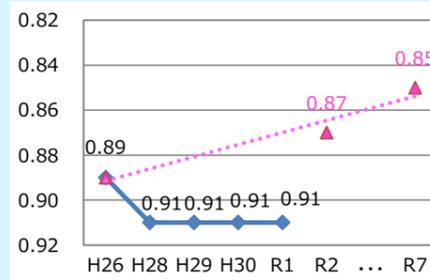
まちづくり指標

1. 行政が税金の使い方について説明責任を果たしていると思う市民の割合



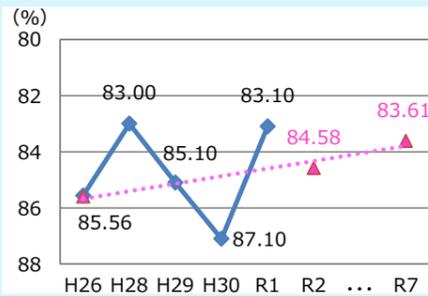
めざそう値
【R2】**35.4%**
【R7】**47.6%**
指標の達成度

2. 財政力指数



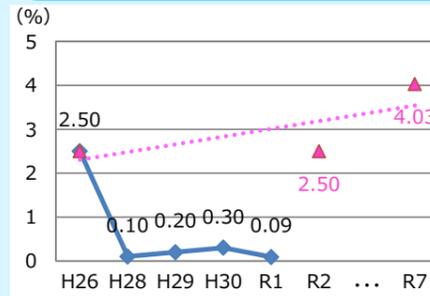
めざそう値
【R2】**0.87**
【R7】**0.85**
指標の達成度

3. 経常収支比率



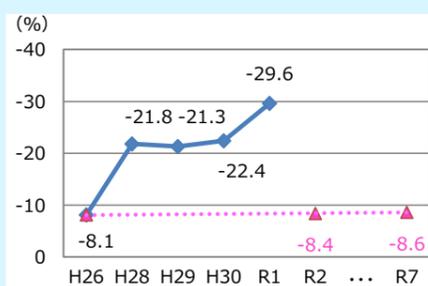
めざそう値
【R2】**84.58%**
【R7】**83.61%**
指標の達成度

4. 実質公債費比率



めざそう値
【R2】**2.50%**
【R7】**4.03%**
指標の達成度

5. 将来負担比率



めざそう値
【R2】**-8.40%**
【R7】**-8.60%**
指標の達成度

■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

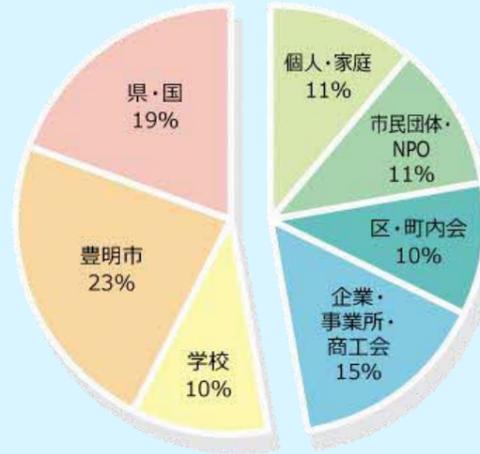
クロス集計結果について

【まちづくり指標 1：行政が税金の使い方について説明責任を果たしていると思う市民の割合】

行政が税金の使い方について説明責任を果たしていると思う市民の割合について学区別で見ると、双峰地区において 23.0%と最も低い割合となっている。

年齢別に見ると、30～39 歳のみ 40%以上であるが、その他の年代は 30%台となっており大きな違いは見られない。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

行政が税金の使い方について説明責任を果たしていると思う市民の割合など、すべての指標においてめざそう値を達成している。財政力指数をはじめとした市財政の状況を示す指標も平成 26 年時点より好転しており、概ね健全な財政運営となっていると言える。

めざすまちの姿である「税収が確保され、持続可能な財政運営となっている」の実現に向けて、迅速な財政の健全化や再生に向けた対応を図ることが必要となる。

大施策

収入を確保し、持続可能な財政運営を行う

中施策

- 税収を増やす等、収入を確保する
- 持続可能な財政計画を立て、評価・改善する
- 税金を効果的、効率的に使う

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

税収をはじめとした市の収入確保のため、ふるさと豊明応援寄附推進事業や、収納管理事務、滞納管理事務を行っている。ふるさと豊明応援寄附推進事業では、お礼の品を通じて豊明の魅力を知ってもらおうといった収入確保に留まらない効果を今後も生んでいくよう取り組んでいく。収納管理事務、滞納管理事務は、収納率向上による市税確保という財政運営上の必要性に加え、市民の義務である納税に対する公平性確保にもつながる市政運営上最も重要な事業の一つであることを踏まえて今後も取り組んでいく。

持続可能な財政運営を行っていくため、財政運営・地方債事務、公共施設マネジメント推進事業を行っている。今後も財政計画を立て、評価・改善を行いながら財政運営に取り組んでいく必要があるが、公共施設マネジメント推進事業においては適正配置計画を基にしつつ、社会の変化に対応しながら効率的な維持管理を行っていく必要がある。

収納された市民からの税金を効果的かつ効率的に使っていくために、行政改革、入札事務をはじめとする事業を行っている。また、持続可能な財政運営の実現には多様な主体によるまちづくりへの参画も必要であることから、納税といったことだけでなく、多様な人々による地域活動や、地元企業への就労など官民挙げた取り組みが必要である。

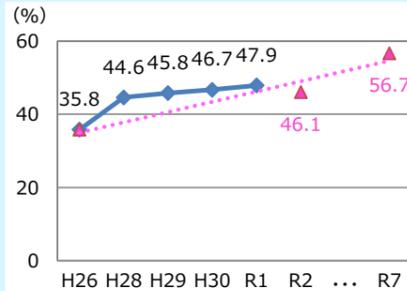
めざすまちの姿

⑤ 誠実 / 行政経営

25. 市職員の顧客サービス向上の意識が高く、市民のほうを見て仕事をしている

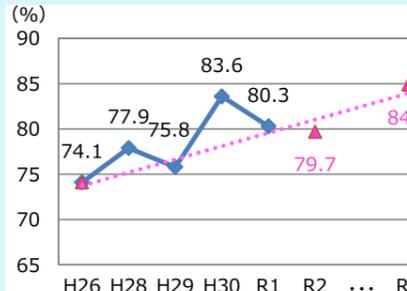
まちづくり指標

1. 市職員の顧客サービスが高いと思う市民の割合



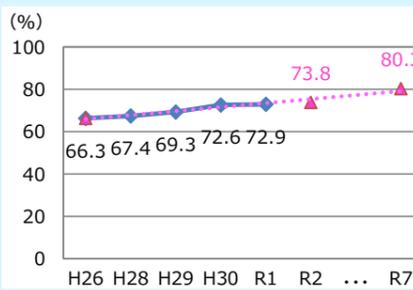
めざそう値
【R2】
46.1%
【R7】
56.7%
指標の達成度
◎

2. 市職員の顧客サービスが高いと思う職員の割合



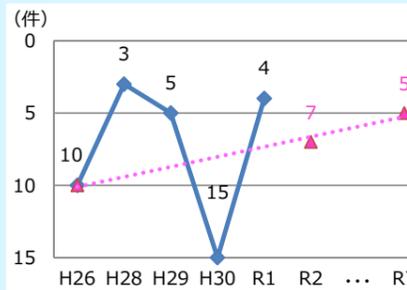
めざそう値
【R2】
79.7%
【R7】
84.9%
指標の達成度
◎

3. ワンストップサービスができていると思う市民の割合



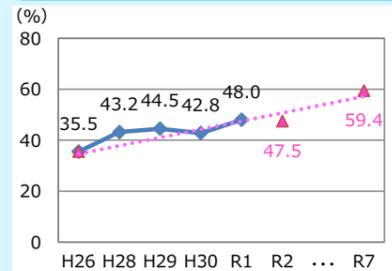
めざそう値
【R2】
73.8%
【R7】
80.3%
指標の達成度
○

4. 窓口対応についての市民の苦情件数



めざそう値
【R2】
7件
【R7】
5件
指標の達成度
◎

5. 市民からの要望・苦情に対して行政が改善を行っていると感じる市民の割合



めざそう値
【R2】
47.5%
【R7】
59.4%
指標の達成度
◎

■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

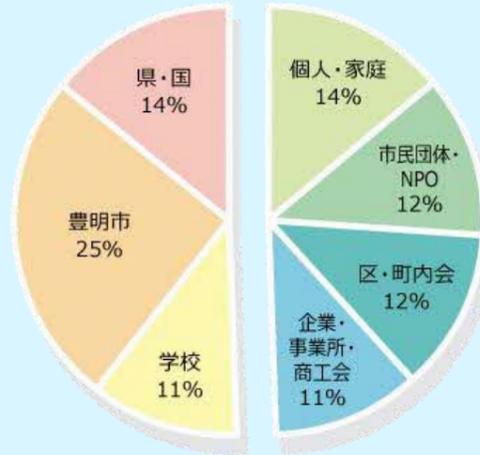
クロス集計結果について

【まちづくり指標 1：市職員の顧客サービスが高いと思う市民の割合】

【まちづくり指標 5：市民からの要望・苦情に対して行政が改善を行っていると感じる市民の割合】

まちづくり指標 1 と 5 の市民の割合を学区別で見ると、いずれの指標においても双峰地区のみが 30% 台となっている。市の顧客サービスや要望・苦情に対する改善について、少し足りないと感じているようである。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

多くの指標において、めざそう値を達成している。市職員の顧客サービスが高いと思う市民の割合については、平成 26 年以降年々増加しているが、職員の割合については、前年と比較すると減少している。また、窓口対応についての市民の苦情件数が減少しており、要望・苦情に対して行政が改善を行っていると感じる市民の割合は増加している。

こういったことから、市職員が市民に満足してもらおうという意識を高く持ち、サービスの向上を図っているためだと考えられる。今後も顧客サービス向上の意識を高く持ち、ワンストップサービスなど必要なサービスをさらに進めていくことが必要である。

大施策

顧客サービス向上の意識を高め、市民本位の仕事を

中施策

- 市民に満足してもらおうという意識を高く持ち、サービスの向上を図る
- 市民に有益な事業を実施する仕組みと組織体制を構築する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

市民に満足してもらおうという意識を高く持ち、サービスの向上を図るため、職員研修事業や電子申請届出システム等の利用、受付サービス事業を行っている。多様化する市民ニーズを的確に把握し、行政サービスへとつなげていくことが必要である。めざそう値の達成状況や事業の進捗状況からは、めざすまちの姿へ向けた事業、取組等が行われている。

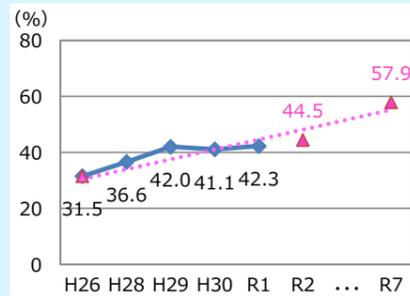
市民に有益な事業を実施する仕組みと組織体制を構築するため、庁内機器及びシステムの高いセキュリティと安定した運用を確保し、マイナンバー法関係事務を的確に行っていく必要がある。市民のニーズに対応し、行政サービスを効率的に安定して提供するための仕組みづくりや制度、組織改革などを今後も進めていく必要がある。

市民は、行政が市民ニーズを把握できるよう地域での意見交換の場に積極的に参加するなど、行政サービスレベルアップのための協力が必要である。

26. 市民にとって必要な情報が提供され、行政が取り組んでいることが市民に分かりやすい

まちづくり指標

1. 市のホームページが見やすいと思う市民の割合

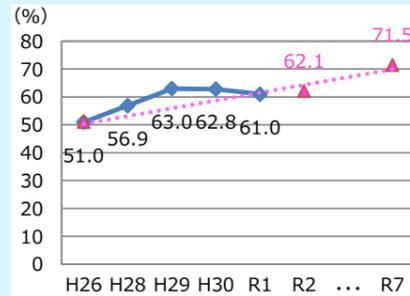


めざそう値
【R2】**44.5%**
【R7】**57.9%**

指標の達成度



2. 窓口のレスポンスが的確だと思う市民の割合

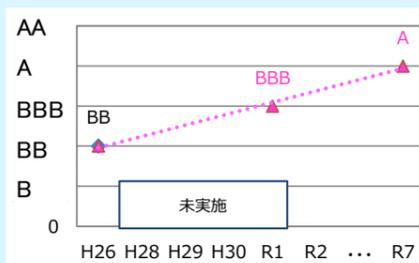


めざそう値
【R2】**62.1%**
【R7】**71.5%**

指標の達成度



3. 行政の透明度評価値

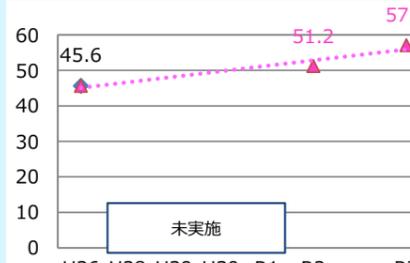


めざそう値
【R2】**BBB**
【R7】**A**

指標の達成度



4. 議会の公開度偏差値



めざそう値
【R2】**51.2%**
【R7】**57.1%**

指標の達成度



■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

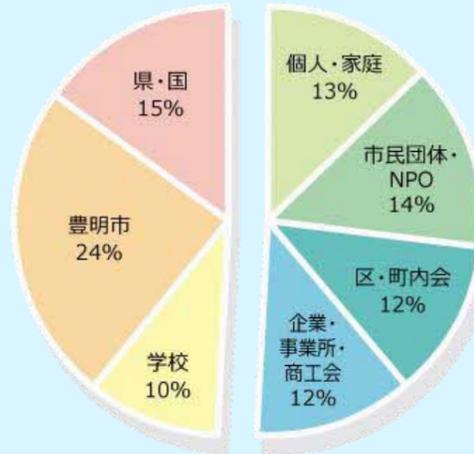
クロス集計結果について

【まちづくり指標 1：市のホームページが見やすいと思う市民の割合】

市のホームページが見やすいと思う市民の割合について年齢別に見ると、16～19歳で55.9%と最も高い割合となっている。その他の年代では40%前後という結果になっており、特にスマートフォンなどの情報機器の扱いに慣れていると考えられる16～19歳の若い世代において、見やすいと回答した人が多かったようである。

ホームページを利用するあらゆる世代が、必要な情報を手軽に収集でき、分かりやすく、見やすい情報提供がされていることが大切である。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

いずれの指標も、平成26年時点より割合が増加しており、めざそう値の達成に近づいている状態となっている。しかし、窓口のレスポンスが的確だと思う市民の割合については、平成29年以降の割合がわずかに減少している。

市民にとって必要な情報が、分かりやすく提供されることが重要である。提供した情報が、より多くの人に伝わるようにするため情報発信の方法についても重要とされる。最近では、スマートフォン、タブレットなどの利用者も多いことから、多様な方法で情報発信を行っていき、時代に合わせた取組を検討する必要がある。

大施策

市民にとって必要な情報や行政の取り組みを市民に分かりやすく提供する

中施策

- 市民にとって必要な情報を分かりやすく提供する
- 市民が必要なときに見やすく手軽に行政の情報を受け取れるようにする

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

市民にとって必要な情報を分かりやすく提供するため、広報事業、公営企業会計移行事業、議会広報広聴事務を行っている。進捗状況を踏まえると、公営企業会計移行事業については、市民に対し説明責任を果たし、下水道事業の透明性を確保するために今後も事業を進めていくことが必要である。議会広報広聴事務については、市民に議会の活動内容などが伝わっている、議会に市民の声が届いているという状況ではないと考えられる。市民が必要な情報を受け取り、意見を述べることができるよう周知の方法等を工夫していくことが求められる。

市民が必要なときに見やすく手軽に行政の情報を受け取れるようにするため、ホームページ管理事業、情報発信推進事業を行っている。スマートフォンやタブレットなどの情報機器の普及が進んでいることも踏まえて、今後の事業を進めていくことが必要である。

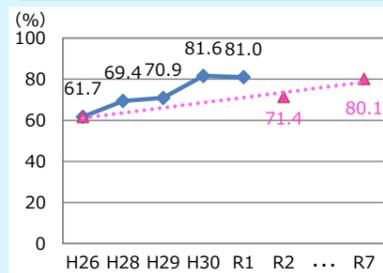
めざすまちの姿

⑤ 誠実 / 行政経営

27. 行政は明確な成果目標を持ち、定期的に達成度を 確認し、絶えず改善している

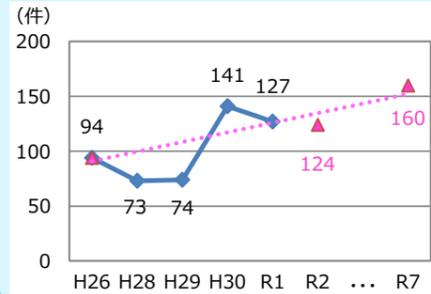
まちづくり指標

1. 目標の達成度評価を重視して仕事をしている 職員の割合



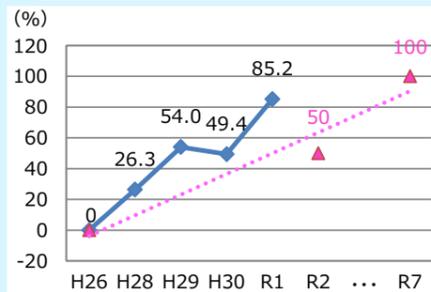
めざそう値
【R2】
71.4%
【R7】
80.1%
指標の達成度
◎

2. 事業改善、新規事業の提案数



めざそう値
【R2】
124 件
【R7】
160 件
指標の達成度
◎

3. 成果指標の年度別達成率

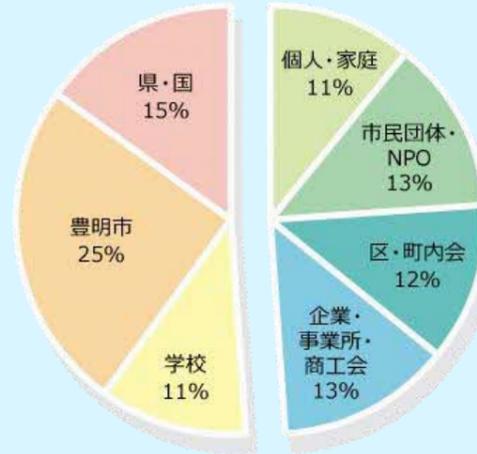


めざそう値
【R2】
50%
【R7】
100%
指標の達成度
◎

■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

各まちづくりの主体に対する 役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の 分析及び今後の展望

目標の達成度評価を重視して仕事をしている職員の割合、事業改善、新規事業の提案数は、めざそう値を達成している。成果指標の年度別達成率についても、達成率は当初より増加しており順調に推移している。

総合計画マネジメントに基づく行政評価で事業の進捗状況を確認・評価し、改善に繋げていくことで、成果指標の達成を目指している。

多様な主体者との連携による事業の効率化を図りながら、今後も目標達成や指標の進捗に繋げることが期待される。

大施策

成果志向型の行政経営を実践する

中施策

- P D C Aサイクルを確立する
- 目標達成のために、職員の自己改革力を高め、連携・協力できる組織を形成する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

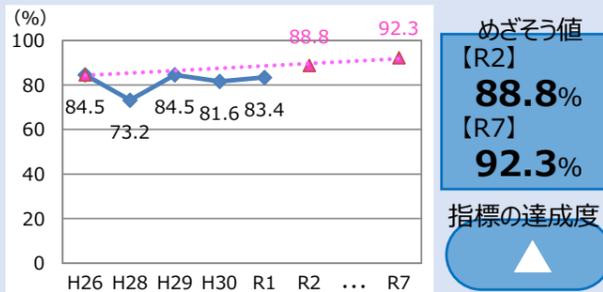
引き続き、総合計画マネジメントにもとづく行政評価と経営方針によるP D C Aサイクルを着実に回していくことが重要である。併せて、限られた職員で持続可能な行政運営を実現するため、社会情勢や市民ニーズに合わなくなった事業については、積極的に見直しや廃止をすることで、業務量の最適化も図っていく必要がある。

また、まちの未来像である「みんなでつなぐ しあわせのめざすまち とよあけ」の実現に向けては、市民との協働だけでなく、他の自治体や民間事業者、大学等の多様な主体者との連携が不可欠となる。引き続き民間事業者や大学等との連携を進め、まちの未来像及び40のめざすまちの姿の実現に向けて、効率的かつ効果的な事業実施を図っていく必要がある。

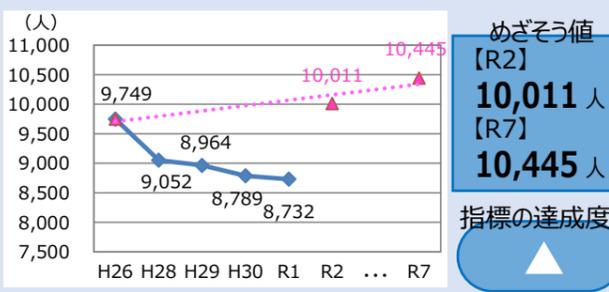
28. 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている

まちづくり指標

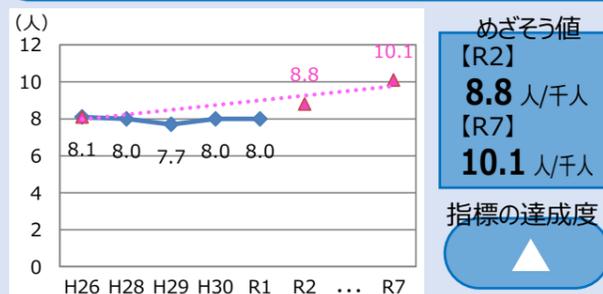
1. 子育てが楽しいと思っている市民の割合



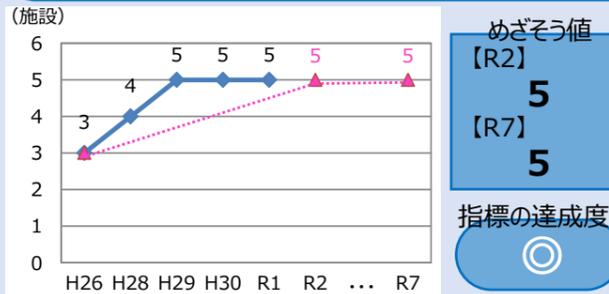
2. 0～14歳の子どもの数



3. 豊明市の出生率



4. 市内にある小児科、産婦人科の数



■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標1：子育てが楽しいと思っている市民の割合】

子育てが楽しいと思っている市民の割合について年齢別に見ると、年代が上がるにつれて、子育てが楽しいと感じている人の割合は減少傾向にある。

子どもの成長度合いや各家庭により悩みなどは様々であり、仕事と子育ての両立という点においても考慮していく必要がある。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

子育てが楽しいと思っている市民の割合は、めざそう値を達成しておらず、平成26年時点よりもわずかではあるが、減少している。平成26年時点よりも、割合が増加した年はないという状況である。また、0～14歳の子どもの数は年々減っているが、生産年齢人口割合の減少により避けられない面もある。国や県全体の傾向と比較し目標値の見直しを検討する必要がある。

子育てへの不安を軽減するための事業の展開や、仕事と子育てを両立しやすい環境づくりを行っていくことで、子育てを楽しんでいる市民の増加、子どもを産み育てたいやすいまちへとつながることが期待できる。さらに、地域全体で子育てに取り組み、見守っていく視点が必要である。

大施策

子どもを安心して産み育てられるまちをつくる

中施策

- 緊急時に対応できる体制を整える
- 家庭や地域が子どもを大切に思い、支え合うことができるまちを醸成する
- ゆとりを持って男女共に子育てを楽しむことができるよう応援する
- 仕事と子育ての両立ができる環境をつくる
- 男女の出会いの機会を創出する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

緊急時に対応できる体制を整えるため、病後児保育事業や妊娠出産子育てワンストップ事業を行っている。病後児保育室の利用や妊娠期の不安や悩みを抱える人の相談事業を継続していく必要がある。また、そういった取り組みや事業があり、活用していくことの周知が必要である。

家庭や地域が子どもを大切に思い、支え合うことができるまちを醸成するため、子育て支援センター事業、妊娠出産子育てワンストップ事業を行っている。

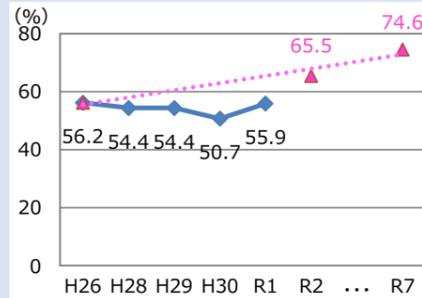
ゆとりを持って男女共に子育てを楽しむことができるよう応援するため、母子保健事業や子ども医療事業などを行っている。妊娠期による不安や心配について解消するための相談事業や中学生以下の子どもを有する世帯の医療費負担を軽減するための事業を進めていく必要がある。

仕事と子育ての両立ができる環境をつくるため、保育所等運営事業や定住促進関連事業を行っている。働き方の多様化などにより保育ニーズも様々であり、保育所等に関する運営についての取り組みが求められる。

29. 子どもが元気に外で遊んでいる

まちづくり指標

1. 自由に楽しく体を動かしていると思う子どもの割合

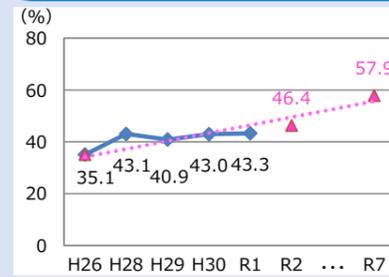


めざそう値
【R2】
65.5%
【R7】
74.6%

指標の達成度



2. 子どもが外で元気に安全に遊べると感じている保護者の割合

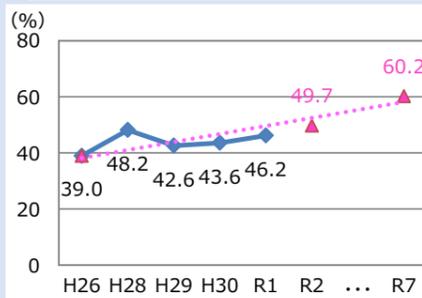


めざそう値
【R2】
46.4%
【R7】
57.9%

指標の達成度

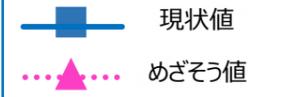


3. 子どもが元気に外で遊んでいると思う市民の割合



めざそう値
【R2】
49.7%
【R7】
60.2%

指標の達成度



◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標3：子どもが元気に外で遊んでいると思う市民の割合】

子どもが元気に外で遊んでいると思う市民の割合について地区別に見ると、最も高い割合となっている中央地区では54.4%、最も低い割合となっている地区では32.6%となっている。2つの地区における割合の差は約20%となっており、地区によっては子どもが元気に外で遊んでいるという姿があまり見られないようである。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

指標の結果からは、めざすまちの姿を達成するための取組や対策などが必要であると考えられる。

自由に楽しく体を動かしていると思う子どもの割合については、平成26年時点よりも減少している。子どもが外で元気に安全に遊べると感じている保護者の割合、子どもが元気に外で遊んでいると思う市民の割合については、増加傾向にあるものめざそう値の達成には至っていない。

子どもが元気に外で遊べるようにするには、遊べる場所の確保、整備に加えて、安全や安心といったことも必要である。子どもも保護者も安心して、安全に外で体を動かすことのできる環境づくり、機会づくりが大切である。

大施策

子どもが元気に外で遊べるまちをつくる

中施策

- 子どもの健康な育みを支援する
- 身近に安心して遊べる場所を整備する
- 身近で共に遊べる仲間づくりを支援する
- 子どもが外で遊ぶことへの理解を広める

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

子どもの健康な育みを支援するため、また、身近で共に遊べる仲間づくりを支援するため、スポーツ振興事業や体育補助金事業を行っている。子どもから高齢者まで誰もが楽しみながら、気軽に運動ができるように取組を進める必要がある。市民が仲間同士で誘い合って運動やスポーツを行うなど、自分たちで楽しみ方を見つけ、健康的な生活へとつなげていくことが必要である。

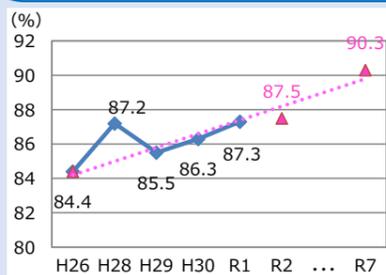
身近に安心して遊べる場所を整備するため、公園施設整備事業や体育施設維持管理運営事業を行っている。安心して安全に遊んだり、運動やスポーツを楽しんだりできるよう、施設の整備や維持管理を行っていくことで、市民の積極的な利用へとつなげていくことが期待できる。

子どもが外で遊ぶことへの理解を広めるため、防犯対策事業を行っている。外で安心して安全に遊ぶためには、子どもだけではなく、親にとっても重要なことである。そのため、誰もが安心して安全に遊ぶことができるよう、地域で防犯対策や安全への意識を高め、子どもが外で遊ぶことに対する理解を広めていくことが必要である。

30. 子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている

まちづくり指標

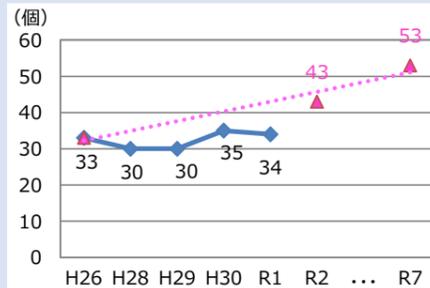
1. 一人ひとりの個性や違いを受け入れていると思う市民の割合



めざそう値
【R2】
87.5%
【R7】
90.3%

指標の達成度

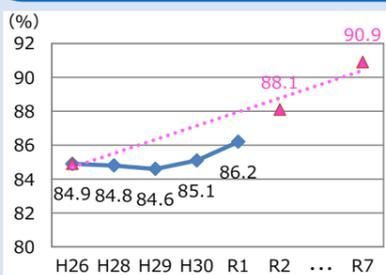
2. 子どもが参加できる教室やサークルの数



めざそう値
【R2】
43
【R7】
53

指標の達成度

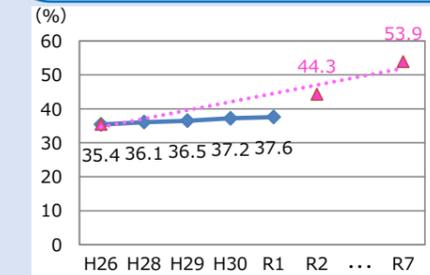
3. 積極的に自分の好きなことを見つけて取り組んでいる子どもの割合



めざそう値
【R2】
88.1%
【R7】
90.9%

指標の達成度

4. 子どもの行動に対して親の価値観でコントロールしていない親の割合



めざそう値
【R2】
44.3%
【R7】
53.9%

指標の達成度

■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 1：一人ひとりの個性や違いを受け入れていると思う市民の割合】

一人ひとりの個性や違いを受け入れていると思う市民の割合について学区別に見ると、すべての地区において80%以上となっている。最も割合が高くなっているのは、三崎地区の94.7%である。

性別、年代別で見ても、それぞれにおいて80%以上となっており、大きな違いは見られない。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

子どもが参加できる教室やサークルの数は減少しており、平成26年時点と比較すると半分ほどになっている。その他の指標については、めざそう値の達成には至っていないものの、割合は増加している。

子どもが好きなことを学び、活動できる機会や場として、子どもが参加できる教室やサークルを充実させ、継続していくことが望まれる。また、子どもが自分の好きなことや得意なことを見つける、探せる機会や場となることも期待できる。

子ども一人ひとりの価値観を家庭、学校、地域で大切にすることが大切である。

大施策

子どもの個性や感性を尊重し、伸ばす環境をつくる

中施策

- 自分を好きでいられるようにする
- 好きなことを学び、活動できる機会や場を増やす
- 好きなことができるように周りの大人の理解を深め、支援できるようにする

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

自分を好きでいられるようにするため、体育補助金事業や青少年対策事業、特別支援教育事業を行っている。小中学生が地域の人々に支えられ、生き生きと暮らしていける取り組みや障がいを持つ児童生徒に対し、それぞれにあった教育が展開され、社会に適応していくことができる取り組みを進めていく必要がある。

好きなことを学び、活動できる機会や場を増やすため、スポーツ振興事業や心身障がい児通園施設管理運営事業などを行っている。スポーツ振興事業では、誰もが楽しみながら運動に親しむことができる環境づくりを行うことが必要である。心身障がい児通園施設管理運営事業では、悩みや不安を解消できるよう、障がいに応じた療育支援の機会や相談ができる場を充実させていくことで、活動へのつないでいくことが期待できる。

好きなことができるように周りの大人の理解を深め、支援できるようにするため、心身障がい児通園施設管理運営事業や児童障がい児サービス給付事業を行っている。障がいに応じた療育支援や居場所があることを知っている上でそれを活用し、個別性に応じた生活が送れるよう取り組みを進めていくことが重要である。

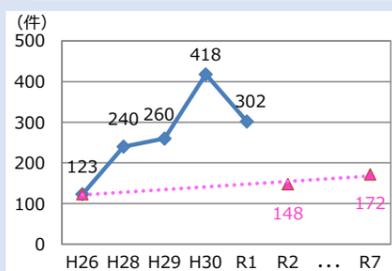
めざすまちの姿

⑥ 元気 / 都市基盤・産業

31. 豊明市に魅力があふれ、「通過するまち」から、「足を運んでいただけるまち」になっている

まちづくり指標

1. 市内のイベント、お店、施設がメディアで紹介された件数

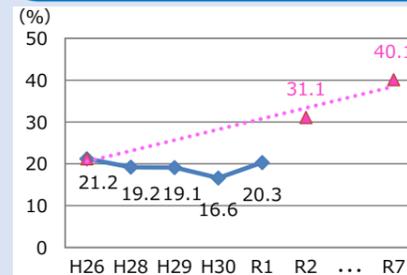


めざそう値
【R2】
148 件
【R7】
172 件

指標の達成度



2. 市外から人を呼べるような場やイベントなどがあると思う市民の割合

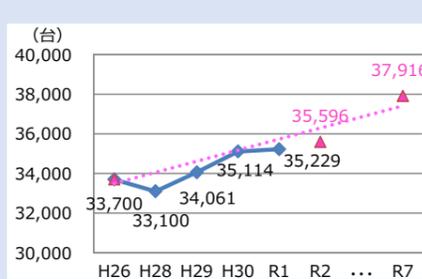


めざそう値
【R2】
31.1%
【R7】
40.1%

指標の達成度

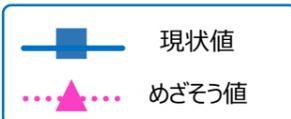


3. 豊明インターを利用した自動車数



めざそう値
【R2】
35,596 台
【R7】
37,916 台

指標の達成度



◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 2：市外から人を呼べるような場やイベントなどがあると思う市民の割合】

市外から人を呼べるような場やイベントなどがあると思う市民の割合について学区別に見ると、館地区において 32.6%と最も高い割合となっている。その他の地区では、多くが 20%前後という割合になっている。豊明市として魅力を高め、多くの人に訪れてもらうために、それぞれの地区の良さを見つけ、高めていくとともに、その魅力を発信していくことが大切である。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

メディアで紹介された市内のイベント、お店、施設の件数については、前年よりは減少しているものの、めざそう値は達成している。しかし、市外から人を呼べるような場やイベントがあると思う市民の割合については、平成 26 年時点よりも増加している年はない。

新たな魅力、資源の発掘に加えて、今ある自然・文化・歴史に関連する観光資源について市民自身が理解を深め、市外の人へ魅力を伝えていくことが必要である。とよあけの魅力を創造、発掘、発信していくためには、行政、市民、事業者などの多くの人々が連携し、取り組んでいくことが求められる。

大施策

とよあけの魅力を高め、訪れる人を増やす

中施策

- 「行きたい」場所をつくる
- とよあけの魅力を発信する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

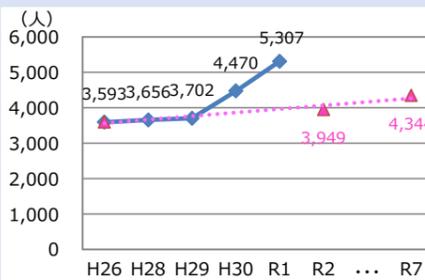
「行きたい」場所をつくるため、観光振興事業や豊明夏・秋まつり支援事業、商工業の育成振興事業を行っている。イベントやお祭りなど市民や市外在住者が行きたいと感じる魅力のある場所をつくる必要がある。市民や地域など、それぞれにおいてまちを盛り上げるために魅力を伝えるためにできることを探し、実行していくことが重要である。しかし今後は、新型コロナウイルス感染症に関することも考慮しながら、取り組みや事業を進めていくことも課題となる。

とよあけの魅力を発信するため、友好自治体交流事業や観光振興事業、ホームページ管理事業、情報発信推進事業を行っている。進捗状況を踏まえると、今後の事業、取り組みについて力を入れていくことが必要である。友好自治体交流事業では、上松町や豊根村に市民や団体が訪れることで交流が生まれ、豊明市の魅力を伝えることなどが期待できる。また、お互いの魅力や文化を伝え、学んでいくことも考えられる。観光協会、とよあけ花マルシェプロジェクト等との連携を図り、豊明の魅力を感じてもらうような取り組みを、市内外へ発信する。発信については、SNSなど含め、幅広く活用していく事が重要である。

32. 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている

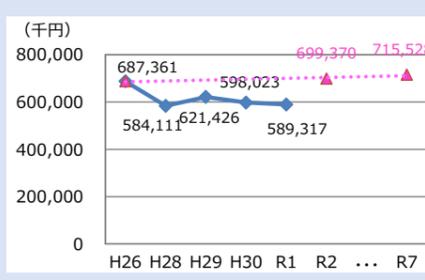
まちづくり指標

1. 市外から豊明市に働きに来ている人の数



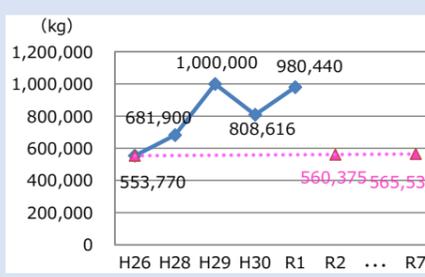
めざそう値
【R2】
3,949人
【R7】
4,344人
指標の達成度
◎

2. 法人市民税額



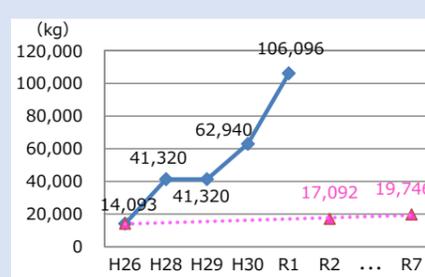
めざそう値
【R2】
699,370千円
【R7】
715,528千円
指標の達成度
▲

3. 農業産出量(米)



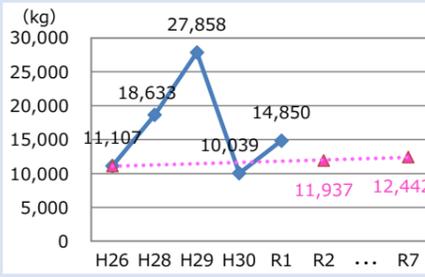
めざそう値
【R2】
560,375 kg
【R7】
565,530 kg
指標の達成度
◎

4. 農業産出量(麦)



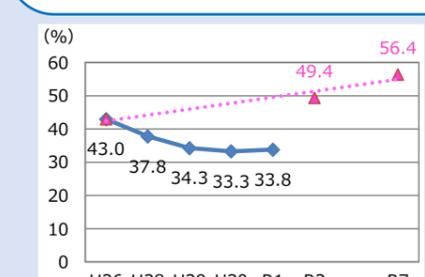
めざそう値
【R2】
17,092 kg
【R7】
19,746 kg
指標の達成度
◎

5. 農業産出量(大豆)



めざそう値
【R2】
11,937 kg
【R7】
12,442 kg
指標の達成度
◎

6. 市外から豊明市に遊びに来ている人が多いと思う市民の割合



めざそう値
【R2】
49.4%
【R7】
56.4%
指標の達成度
▲

クロス集計結果について

【まちづくり指標 6：市外から豊明市に遊びに来ている人が多いと思う市民の割合】

市外から豊明市に遊びに来ている人が多いと思う市民の割合について学区別を見ると、沓掛地区は0%となっている。

■ 現状値
● めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

市外から豊明市に働きに来ている人の数、農業産出量（米、麦、大豆）については、それぞれ増減に違いはあるがめざそう値を達成している。法人市民税、市外から豊明市に遊びに来ている人が多いと思う市民の割合については、平成26年時点よりも減少しており、めざそう値の達成には至っていない。

遊ぶ場所や働く場所を生み出し、産業の活性化を図るため、企業やNPO法人における空き店舗や空間を利用した起業、新たな産業の創出などを考えることが必要である。また、市民や地域において、企業誘致への理解を深め、協力体制をつくっていくことが必要である。

大施策

地域の経済活動が盛んなまちをつくる

中施策

- 魅力ある職場づくりを促進する
- 産業の活性化を図る

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

魅力のある職場づくりを促進するため、企業留置事業（補助金交付事務・企業訪問事務）や企業誘致事業を行っている。企業への訪問を行い、信頼関係を構築することで、引き続き豊明市を拠点に活動を継続してもらうことへつなげていくことが必要である。豊明市を拠点とした活動の継続や企業誘致、工場や研究所などの増築で、働く場所が増え、経済活動が盛んなまちをめざしていくことが期待できる。

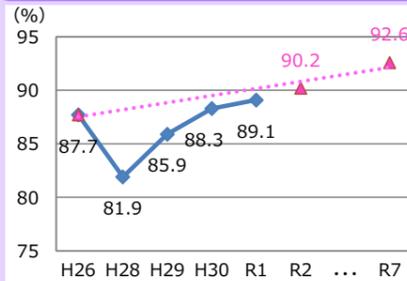
産業の活性化を図るため、商工業の育成振興事業や商工業振興補助事業、農業振興事業、土地改良施設維持管理事業を行っている。商工業振興補助事業では、市の安定した雇用対策や商工会の運営、新規創業する事業者の増加などにより商工業が発展していくよう事業や取り組みが進められることが必要である。

農業振興事業では、安定した農業経営の継続のための農業者への支援が必要である。また、土地改良施設維持管理事業では、施設の長寿命化により安定した農業基盤のもと、農業を営むことができるよう施設の整備、維持・管理などの取り組みを継続していくことが重要である。

33. 高齢者、障がい者など誰でも居場所と出番があり、 経験や知識を活かして働き、収入と生きがいを得ている

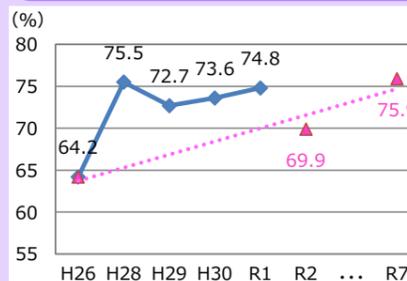
まちづくり指標

1. 自分の働き方に満足している高齢者の割合



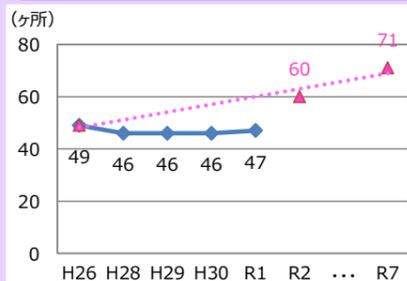
めざそう値
【R2】**90.2%**
【R7】**92.6%**
指標の達成度
○

2. 自分の働き方に満足している障がい者の割合



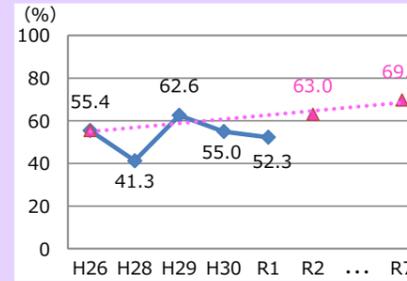
めざそう値
【R2】**69.9%**
【R7】**75.9%**
指標の達成度
◎

3. 高齢者、障がい者を雇用している企業・事業所数



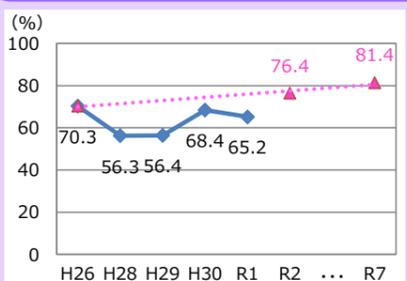
めざそう値
【R2】**60**
【R7】**71**
指標の達成度
▲

4. 働く意欲をもっている高齢者の割合



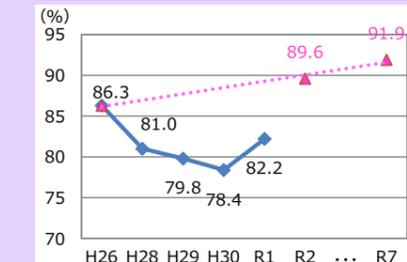
めざそう値
【R2】**63.0%**
【R7】**69.8%**
指標の達成度
▲

5. 働く意欲をもっている障がい者の割合



めざそう値
【R2】**76.4%**
【R7】**81.4%**
指標の達成度
▲

6. 自分の経験や知識を活かすことができていると思う 高齢者の割合



めざそう値
【R2】**89.6%**
【R7】**91.9%**
指標の達成度
▲

7. 自分の経験や知識を活かすことができている と思う障がい者の割合



めざそう値
【R2】**68.5%**
【R7】**73.3%**
指標の達成度
◎

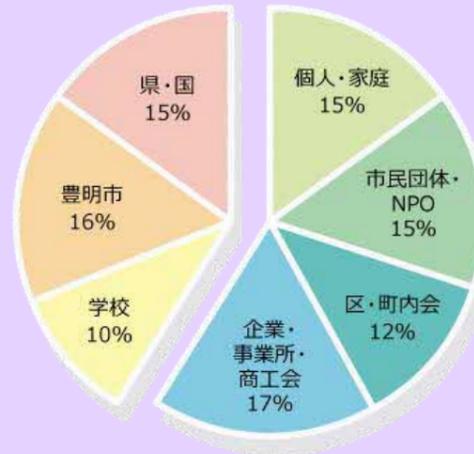
クロス集計結果について

【まちづくり指標1・2: 自分の働き方に満足している高齢者・障がい者の割合】

自分の働き方に満足している高齢者・障がい者の割合について年齢別に見ると、高齢者では年代が上がると割合が増加しているが、障がい者では、年代が上がると割合が減少傾向にある。

高齢者・障がい者それぞれが活躍できる機会や場を増やし、働きやすい環境をつくる必要がある。

各まちづくりの主体に対する 役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の 分析及び今後の展望

めざそう値の達成状況から考えると、高齢者や障がい者などの活躍の場や機会などを増やしていく必要がある。

働く意欲をもっている高齢者の割合は、平成26年時点よりも減少している状況である。自分の働き方に満足している高齢者の割合は80%以上であり、増加傾向となっているが、めざそう値の達成には至っていない。

高齢者、障がい者を雇用している企業・事業所数を見てもほぼ横ばいであるが、障がい者雇用企業の誘致を積極的に行った。

高齢者や多様な障がい者が、一層、働く意欲を持てるような環境づくり、取り組みなどが必要である。

大施策

高齢者、障がい者の活躍の機会や場を増やし、収入と生きがいを得ることができる環境をつくる

中施策

- 高齢者、障がい者の活躍の機会や場をつくる
- 高齢者、障がい者が経験や知識を活かして働きやすい環境をつくる

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

高齢者や障がい者が経験や知識を活かして働きやすい環境をつくるため、シルバー人材センター関係事務や障がい者相談支援事業、障がい福祉推進事業、障がい福祉サービス事業を行っている。高齢者が自身の経験や知識を活かして働く環境が増えることで、生き生きと暮らしている高齢者、働き方に満足している高齢者の割合が増えることが期待できる。障がいのある人やその家族への相談支援を通して、自身の得意なことなどを活かして働ける、活躍できる環境を整えていく必要がある。

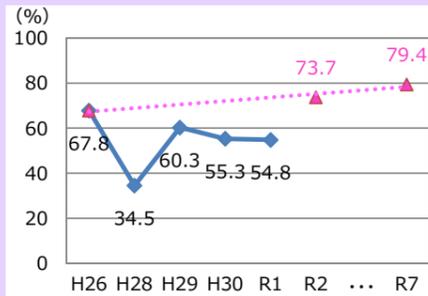
■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

34. 若い世代も地域で活動し、地域の自治力が高まっている

まちづくり指標

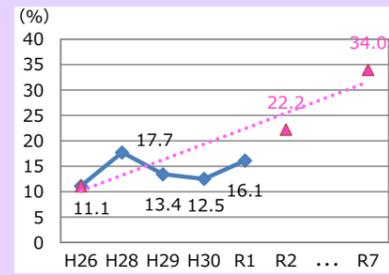
1. 地域の活動に参加している若者の割合



めざそう値
【R2】
73.7%
【R7】
79.4%

指標の達成度

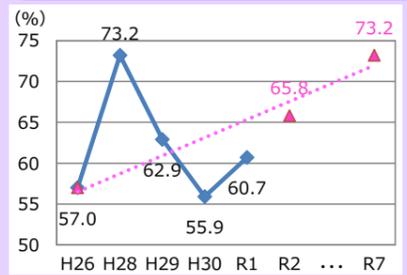
2. 自分たちの考えが地域の活動に取り入れられていると思う若者の割合



めざそう値
【R2】
22.2%
【R7】
34.0%

指標の達成度

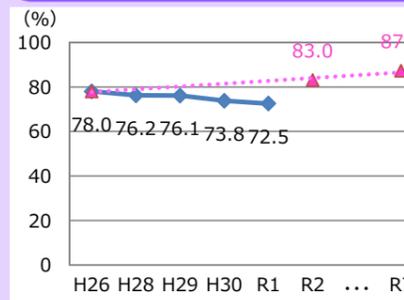
3. 若い世代の地域での活動を尊重し、応援している65歳以上の人の割合



めざそう値
【R2】
65.8%
【R7】
73.2%

指標の達成度

4. 町内会の加入率



めざそう値
【R2】
83.0%
【R7】
87.3%

指標の達成度

■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

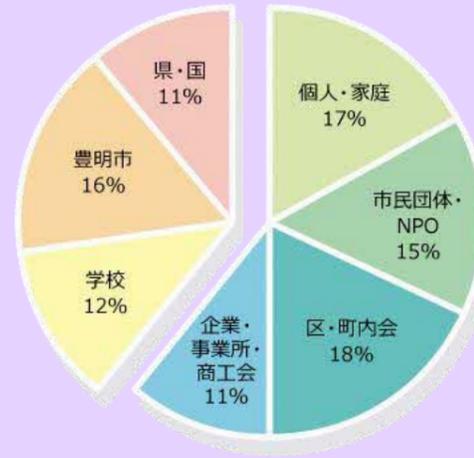
クロス集計結果について

【まちづくり指標1：地域の活動に参加している若者の割合】

地域の活動に参加している若者の割合について年齢別に見ると、20~29歳で3.8%と最も低い割合となっている。

学区別に見ると、豊明地区では39.6%と最も高い割合となっており、最も低い割合の地区と比較すると、30%以上の差がある状態となっている。地域の活動に若者が参加する機会や場を設け、きっかけづくりを行うなどといった取り組みが重要であると考えられる。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

いずれの指標においても、めざそう値の達成はしていない状況である。町内会の加入率については、年々減少している。

指標の達成状況から考えると、若い世代の地域活動への参画がなされていないと考えられる。今後は地域活動の担い手となっていく若い世代にも、地域活動へ積極的に参加をしてもらうために、活動に関わる機会や場の提供、きっかけづくり、活動への支援などを進めていく必要がある。

若い世代は、同年代の仲間や友人たちとの交流の機会だけではなく、地域の異世代との交流についても考え、参加をしていくことが望まれる。

大施策

若い世代が地域活動で活躍し、地域の自治力を高める

中施策

- 若者が地域で活動しやすい環境をつくる
- 若者が活躍できる機会や場をつくり、若者の主体的な活動を支援する
- 若者が地域活動に興味を持つ環境をつくる
- 世代を超えて連携し、地域の問題を自ら解決する環境をつくる

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

若者が地域で活動しやすい環境をつくるため、青少年対策事業を行っている。小中学生が地域の人たちに支えられ、生き生きと暮らしていけるよう取り組みを進めていくことが重要である。支えられるだけではなく、地域の人たちと一緒に活動を行っていくことが必要である。

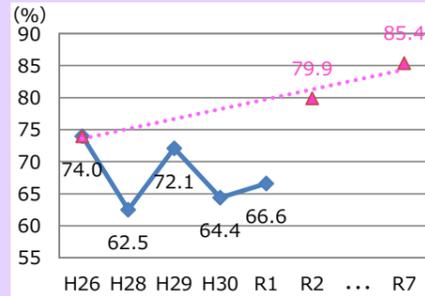
消防団運営事業を実施し、地域住民と相互に連携協力を図り活動を行っている。今後も引き続き、普段から地域、町内会、関係団体との交流を図ることで、災害時以外の関わりなどを築くことも必要である。

若者が地域活動に興味を持つ環境をつくるため、また、世代を超えて連携し、地域の問題を自ら解決する環境をつくるために市民活動支援事業を行っている。各団体の状況や段階を把握し、それに応じて学習機会を提供することで、地域活動を活性化していくことが望まれる。地域活動に興味を持ってもらうきっかけをつくり、あらゆる世代の人たちと連携を図りながら、活動に取り組めるよう支援を行う必要がある。

35. 若い人が豊明市を自分たちのまちとして愛着をもち、新しい感性を活かし、まちづくりが進められている

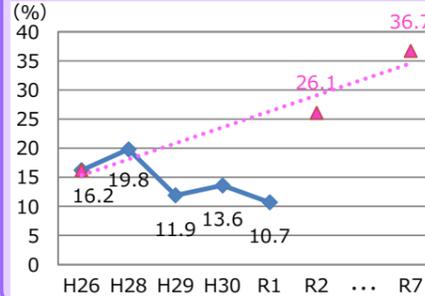
まちづくり指標

1. 豊明が大好きな若者の割合



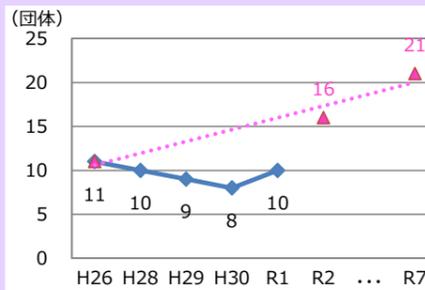
めざそう値
【R2】
79.9%
【R7】
85.4%
指標の達成度

2. まちづくりに参加できていると感じている若者の割合



めざそう値
【R2】
26.1%
【R7】
36.7%
指標の達成度

3. 市民提案型まちづくり事業交付金の交付団体数



めざそう値
【R2】
16
【R7】
21
指標の達成度

■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

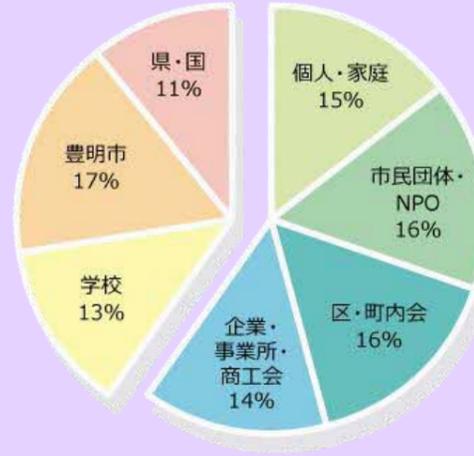
クロス集計結果について

【まちづくり指標 1 : 豊明が大好きな若者の割合】
【まちづくり指標 2 : まちづくりに参加できていると感じている若者の割合】

まちづくり指標 1 と 2 において年齢別に見ると、20～29 歳で割合が最も低くなっている。

めざすまちの姿である「若い人が豊明市を自分たちのまちとして愛着をもち、新しい感性を活かし、まちづくりが進められている」に近づくためにも、20～29 歳を含めた若い世代への働きかけが重要となる。活動への参加というまちづくりの視点だけではなく、まちを良くするための意見を出すことやまちに関する理解を深めるなど、様々な形でのまちづくりを考えていくことも必要である。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

いずれの指標においても、めざそう値を達成しておらず、平成 26 年時点よりも減少しているという状況である。豊明が大好きな若者の割合、まちづくりに参加できていると感じている若者の割合から考えると、若い世代のまちづくりへの参加の機会や場を増やしていく必要がある。

地域での活動や参加を通して、豊明の魅力について理解を深め、愛着を持ってもらうことが期待できる。若い世代を含めた市民一人ひとりが、まちづくりの主役であるという意識を持ち、地域の様々な活動へ参加し、活躍することが重要である。

大施策

若い人の豊明市への愛着を深め、新しい感性を活かしたまちづくりを推進する

中施策

- 若い人の豊明市に対する愛着や関心を深める
- 若い人がまちづくりに関わる機会や場を増やす
- 若い人が新しい感性を活かしてまちづくりに参加できるよう支援する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

若い人の豊明市に対する愛着や関心を深めるため、豊明夏・秋まつり支援事業や観光活性化事業を行っている。豊明市の風物詩である夏まつり、秋まつりにおいて、市民をはじめ、市外の人にも楽しんでもらい、魅力を体験してもらうことが重要である。体験を通して、市民が愛着や関心を持つことで、企画・運営に携わっていく人材の育成や増加などにつなげていくことも期待できる。

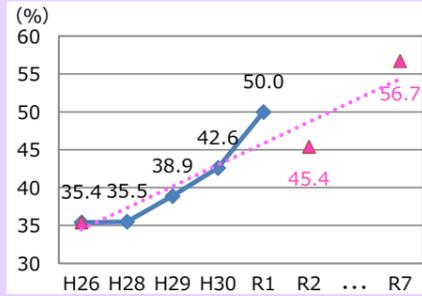
消防団運営事業を実施し、地域住民と相互に連携協力を図り活動を行っている。今後も引き続き、普段から地域、町内会、関係団体との交流を図ることで、災害時以外の関わりなどを築くことも必要である。

若い人が新しい感性を活かしてまちづくりに参加できるよう支援するため、広域・民間連携推進事業を行っている。まちの未来像である「みんなであつなぐ しあわせのまち とよあけ」の実現に向け、他の自治体や大学、企業などと協働で事業を進めていくことが今後も必要となる。

36. 女性が職場や地域で活躍し続けている

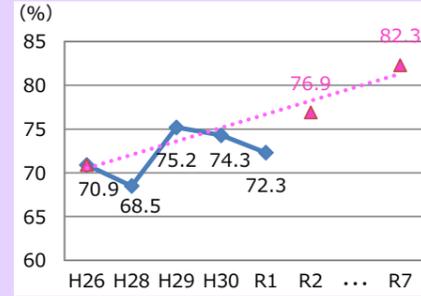
まちづくり指標

1. 職場で働きやすいと感じている女性の割合



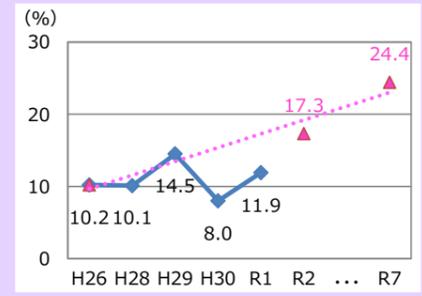
めざそう値
【R2】**45.4%**
【R7】**56.7%**
指標の達成度
◎

2. 育児休暇後に継続して働き続けている女性の割合



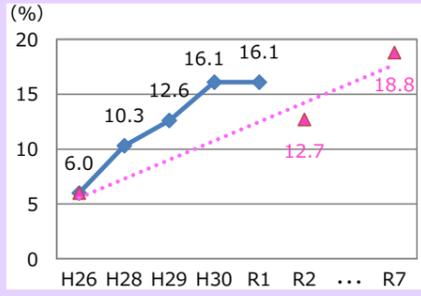
めざそう値
【R2】**76.9%**
【R7】**82.3%**
指標の達成度
○

3. 市内企業における女性管理職の割合



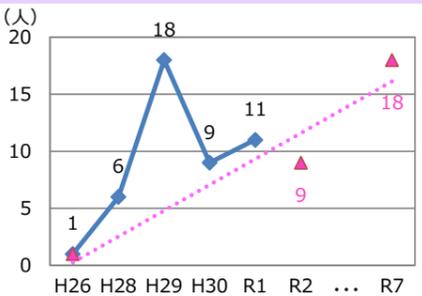
めざそう値
【R2】**17.3%**
【R7】**24.4%**
指標の達成度
○

4. 町内会長・区長に占める女性の割合



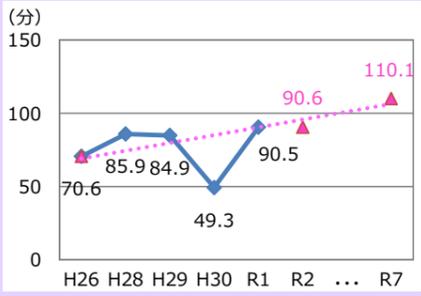
めざそう値
【R2】**12.7%**
【R7】**18.8%**
指標の達成度
◎

5. 男性の育児（介護）休暇取得者数



めざそう値
【R2】**9人**
【R7】**18人**
指標の達成度
◎

6. 男性一人あたりの平均1日家事時間



めざそう値
【R2】**90.6分**
【R7】**110.1分**
指標の達成度
○

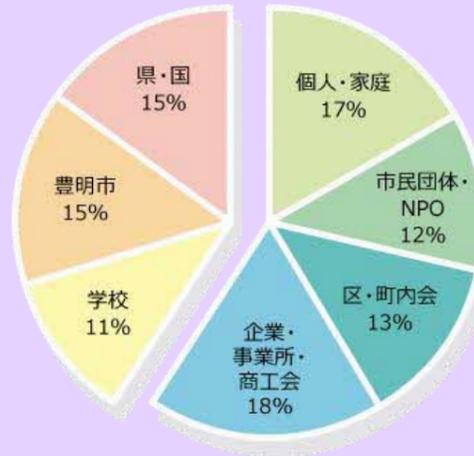
クロス集計結果について

【まちづくり指標1：職場で働きやすいと感じている女性の割合】
職場で働きやすいと感じている女性の割合について年齢別に見ると、働き盛り世代では50%以上の割合となっている。最も割合の高かった40～49歳においては、79.4%であった。

■ 現状値
▲ めざそう値

◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

めざそう値の達成状況などから考えると、女性が職場や地域において活躍できる環境づくりを進めている。男性の育児(介護)休暇取得者数については、めざそう値を達成しており、男性一人あたりの平均1日家事時間については、めざそう値との差異はほとんどない。めざそう値は達成しているが、さらに向上させていくことで、めざすまちの姿へ近づくことが期待できる。

今後、女性が職場や地域で活躍し続けるためには、女性が活躍できる機会や場を充実させることだけではなく、周りの理解や取組も重要であると考えられる。

大施策

女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくる

中施策

- 職場や地域において女性の活躍の場を増やす
- 女性が社会で活躍する意識を向上させる
- ワーク・ライフ・バランスのための環境・制度を充実させる

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

職場や地域において女性の活躍の場を増やすため、女性の復職支援プログラム事業を行っている。女性が育児休暇後のブランクや育児において、復職することを諦めずに済むよう取り組みが進められることが必要である。そのため、企業など周りの人たちが理解を深め、女性の活躍の場をつくっていくことが重要である。

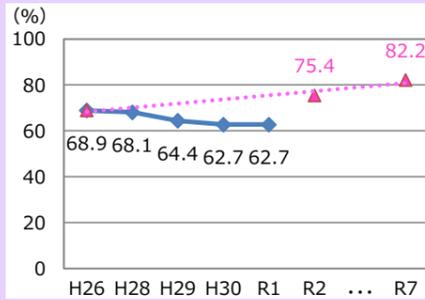
女性が社会で活躍する意識を向上させるため、男女共同参画推進事業を行っている。女性の社会生活活動への参加のきっかけづくりなど女性が活躍するための取り組みに加えて、周りの人への女性が社会で活躍することへの理解や意識の向上を図ることも必要である。

ワーク・ライフ・バランスのための環境・制度を充実させるため、保育所等運営事業や定住促進関連事業、妊娠出産子育てワンストップ事業、高齢者サービス事業などを行っている。仕事、家庭、子育てなどに加えて自身の時間を持ち、充実した生活を送れるよう事業や取り組みを進めていく。

37. 子どもが夢を持ち、将来グローバルに活躍できる人材に育っている

まちづくり指標

1. 将来に夢をもっている子どもの割合

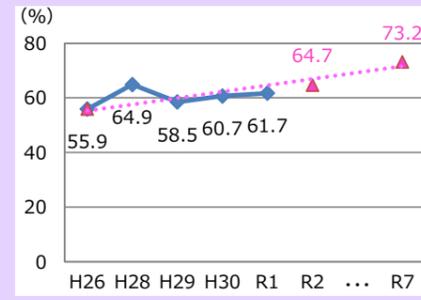


めざそう値
【R2】
75.4%
【R7】
82.2%

指標の達成度



2. 自分の地域や国のことに誇りを持っている市民の割合

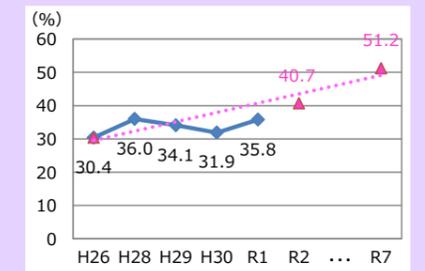


めざそう値
【R2】
64.7%
【R7】
73.2%

指標の達成度



3. いろんな国の人々とコミュニケーションをとろうとしている市民の割合

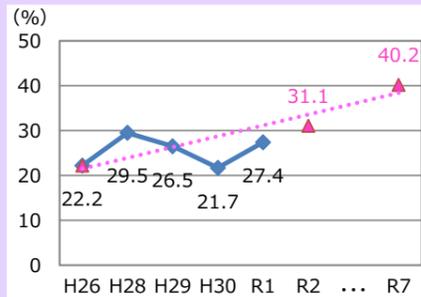


めざそう値
【R2】
40.7%
【R7】
51.2%

指標の達成度



4. 豊明市で育った人が活躍していると思う市民の割合



めざそう値
【R2】
31.1%
【R7】
40.2%

指標の達成度



■ 現状値
● めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 1 : 将来に夢をもっている子どもの割合】

将来に夢をもっている子どもの割合について性別で見ると、男性が60.1%、女性が66.6%となっている。学年別で見ると、小学校5年生は70.1%、中学校2年生が56.7%となっている。中学校2年生は小学校5年生と比較すると、約13%低いという状態である。進級や進学をしても興味のあること、好きなことに挑戦し、夢を持ち続けることができる環境であることが重要である。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

平成26年時点よりも割合が増加し、改善されている指標はあるものの、めざそう値の達成には至っていない。将来に夢を持っている子どもの割合については、年々減少している状況であり、改善に向けた取り組みが必要である。

子どもが夢を持ち、グローバルに活躍できる人材へと育ていくためには、子どもが夢を見つけるための機会や環境、異文化に触れるための機会を大人がつくっていく必要がある。夢を見つける機会や異文化に触れるきっかけを通して、興味のあることや好きなことに挑戦し、大人がそれを応援することができる環境であることが大切である。

大施策

将来グローバルに活躍できる子どもを育てる

中施策

- 異文化を理解し、言葉の壁を越えて主張できるようにする
- 夢を実現するための支援をする
- 夢を見つけるための環境をつくる

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

異文化を理解し、言葉の壁を越えて主張できるようにするため、多文化共生推進事業や学力向上対策事業を行っている。市在住の外国籍住民が地域の人たちと関われるよう支援を行ったり、小中学校ではネイティブな英語に触れる機会や学習の場を設け、学力向上に向けた環境をつくったりすることが今後も必要である。市民も異文化への理解、交流に対して興味を持ち、積極的に関わっていく姿勢が必要である。

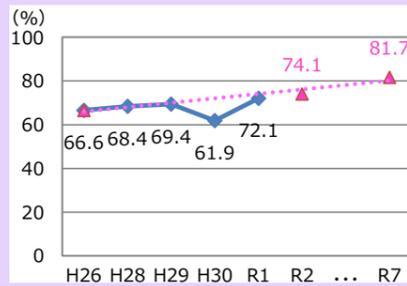
夢を実現するための支援に向けて、大学等入学支援事業や青少年対策事業を行っている。経済的な理由で進学をあきらめずに済むよう、大学等の入学時に必要な費用を支援するなど、子どもが夢を持ち続け、実現のために頑張ることができる環境づくり、支援を継続していくことが必要である。

夢を見つけるための環境をつくるため、学校と地域の連携事業を行っている。市内事業所での職場体験を通して、自分の生き方や夢について考える機会などを設けることが今後も必要となる。学校や行政だけでなく、地域、企業などが連携、協力し、子どもが夢を見つけることや実現のために頑張る姿を応援できる環境をつくっていくことが重要である。

38. すべての子どもが質の高い学びに参加し、生きるための学力が向上している

まちづくり指標

1. 学校で学ぶことが楽しいと思う子どもの割合

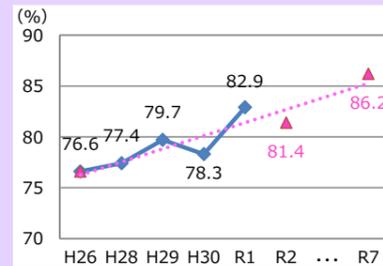


めざそう値
【R2】**74.1%**
【R7】**81.7%**

指標の達成度



2. 悪いことを正されたり、いいところを褒められたりして自分の行動が変わったと感じる子どもの割合

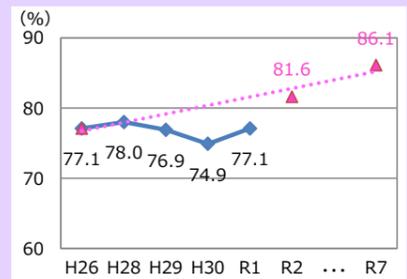


めざそう値
【R2】**81.4%**
【R7】**86.2%**

指標の達成度



3. 学習と日常生活につながりを感じている子どもの割合

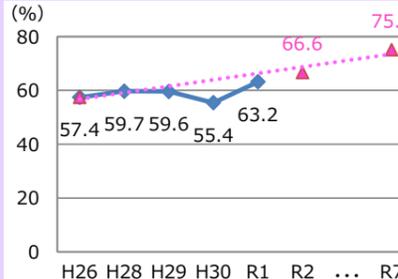


めざそう値
【R2】**81.6%**
【R7】**86.1%**

指標の達成度



4. 授業から置いてけぼりになっていない子どもの割合

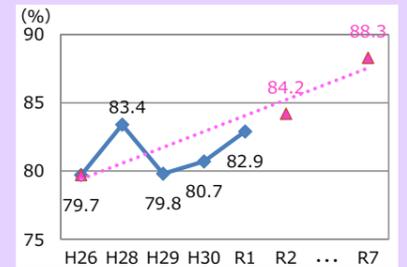


めざそう値
【R2】**66.6%**
【R7】**75.1%**

指標の達成度



5. 前よりも勉強や運動ができるようになったと思う子どもの割合

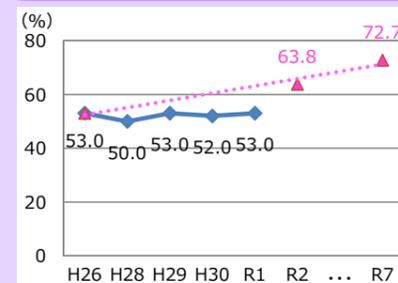


めざそう値
【R2】**84.2%**
【R7】**88.3%**

指標の達成度



6. 学校生活に満足している子どもの割合(小学校)

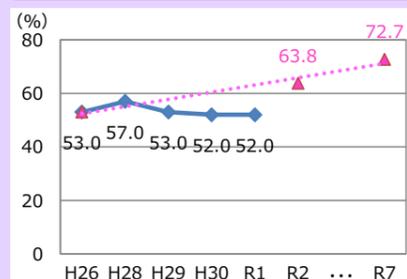


めざそう値
【R2】**63.8%**
【R7】**72.7%**

指標の達成度



7. 学校生活に満足している子どもの割合(中学校)



めざそう値
【R2】**63.8%**
【R7】**72.7%**

指標の達成度

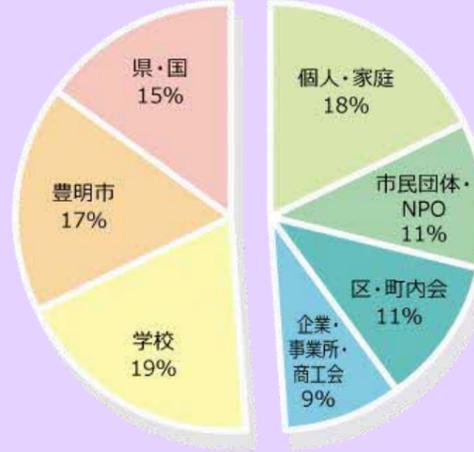


クロス集計結果について

【まちづくり指標 1: 学校で学ぶことが楽しいと思う子どもの割合】
【まちづくり指標 4: 授業から置いてけぼりになっていない子どもの割合】

まちづくり指標 1 と 4 において学年別で見ると、中学校 2 年生は小学校 5 年生よりも約 10% 低い割合となっている。進級、進学による授業内容の理解ができないということで、学校へ行きたくない、楽しくないなどということがないよう、質の高い教育へ向けた取り組みが必要である。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

多くの指標において、めざそう値を達成、または、平成 26 年時点よりも改善されている、横ばいという状況である。学校生活に満足している子どもの割合については、小学校、中学校ともにめざそう値を達成していない。

学力を充実させるためには、授業が分かる、学習に前向きに取り組む、学校が楽しいという正の連鎖が大切であるとされる。学力充実のためには、指導法や授業の改善といった「授業研究」だけではなく、「学習環境」「人的環境」も重要である。これらを進めていくため、学校現場に加えて、家庭、地域とのが必要である。

大施策

子どもが質の高い学びに参加し、生きるための学力が向上する環境をつくる

中施策

- 自ら学ぶ意欲を高める
- 学校で質の高い教育を受けられる環境を充実させる
- 学力だけでなく社会性や行動力のある子どもを育成する
- 親への支援を充実する

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

自ら学ぶ意欲を高めるため、小中学校補助教員配置事業を行っている。授業等で補助の教員を配置することにより、1人の教員ではカバーしきれなかった部分を補い、より細かな指導の実施が期待できる。

学校で質の高い教育を受けられる環境を充実させるため、小中学校運営事業や学校給食事業などを行っている。学校で質の高い教育を行うためには、指導する側である教員の働き方や負担についても考慮する必要がある。教員の負担が軽減され、児童生徒と向き合う時間や授業への準備時間などの確保により質の高い教育にもつながると考えられる。

学力だけでなく社会性や行動力のある子どもを育成するため、総合教育会議事務や教育委員会事務事業、学校と地域の連携事業を行っている。今後、社会に適応して生きていくために必要な教育や今後の課題などについて議論され、教育現場において実践していくことが必要である。

親への支援を充実するため、就学支援事業を行っている。教科書等の無料配布や授業料の一部を負担することで、保護者、家庭の経済的負担の緩和が期待できる。

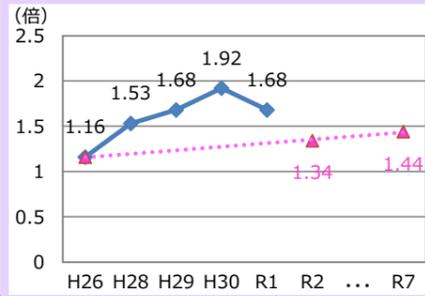
■ 現状値
▲ めざそう値

◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

39. 若い人たちが地元で働ける

まちづくり指標

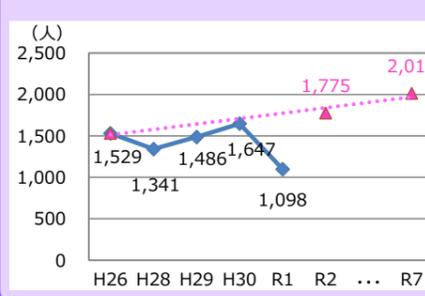
1. 有効求人倍率



めざそう値
【R2】
1.34倍
【R7】
1.44倍

指標の達成度
◎

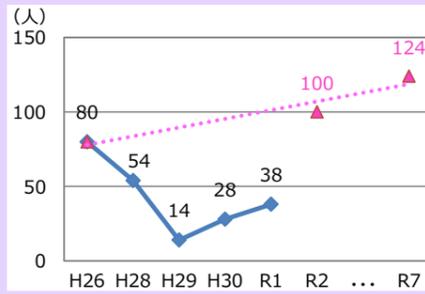
2. 市内在住者の市内就業者数



めざそう値
【R2】
1,775人
【R7】
2,014人

指標の達成度
▲

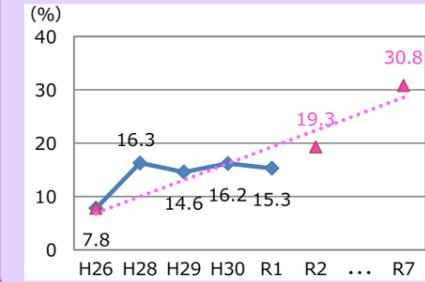
3. 新規起業者数(50代以下)



めざそう値
【R2】
100件
【R7】
124件

指標の達成度
▲

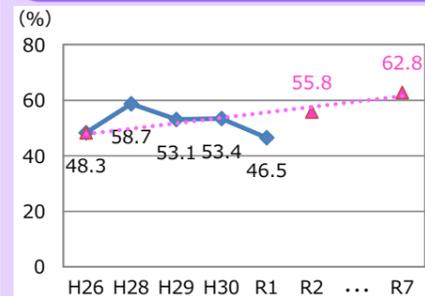
4. 市内で働くための情報が得やすいと思っている若者の割合(50代以下)



めざそう値
【R2】
19.3%
【R7】
30.8%

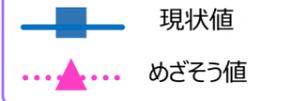
指標の達成度
◎

5. 市内在住者で市内で働きたいと思っている若者の割合



めざそう値
【R2】
55.8%
【R7】
62.8%

指標の達成度
▲



◎：現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○：現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲：現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

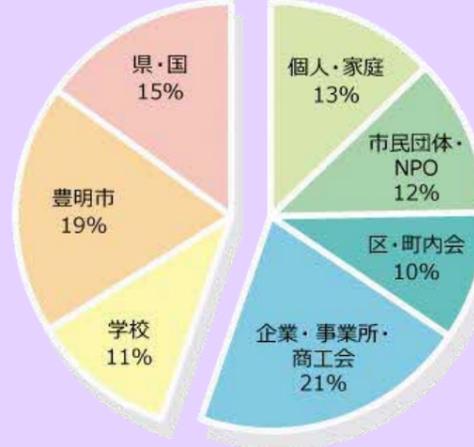
【まちづくり指標 4：市内で働くための情報が得やすいと思っている若者の割合(50代以下)】

市内で働くための情報が得やすいと思っている若者の割合について学区別に見ると、最も高い割合となっている豊明地区の29.2%に対し、最も低い割合となっている沓名地区は3.7%である。

【まちづくり指標 5：市内在住者で市内で働きたいと思っている若者の割合】

市内在住者で市内で働きたいと思っている若者の割合について年齢別に見ると、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

有効求人倍率はめざそう値を達成しているものの、平成30年までは年々増加していたが、令和元年では減少している。新規起業者数、市内在住者で市内で働きたいと思っている若者の割合については、めざそう値の達成には至っておらず、平成26年時点よりも減少している。

市内在住者で市内で働きたいと思っている若者の割合から考えると、若い人たちが地元で働きたいと感じる魅力が弱いことや環境が整っていないことが考えられる。若い人たちが、地元企業で就職したいと感じる魅力を伝えていく方法を工夫するとともに、自身にあった職場を見つけることができるよう企業や学校が連携し地元での就職の促進を行うことが必要である。

大施策

若い人たちの地元での就労を促進する

中施策

- 若い人たちの働く意欲・能力を高める
- 若い人たちが働きやすい労働環境づくりを支援する
- 若い人たちと企業をつなぐ仕組みをつくる

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

若い人たちの働く意欲・能力を高めるため、商工業振興補助事業や学校と地域の連携事業、創業支援事業を行っている。商工業振興補助事業では、市の安定した雇用対策や商工会の運営、新規創業する事業者が増加するための取り組みを進めていくことが重要である。創業支援事業では、創業実践セミナーなどの開催が行うことに加え、学校と地域の連携事業と組み合わせることで学生などに興味を持ってもらえるような取り組みを考えることも必要である。

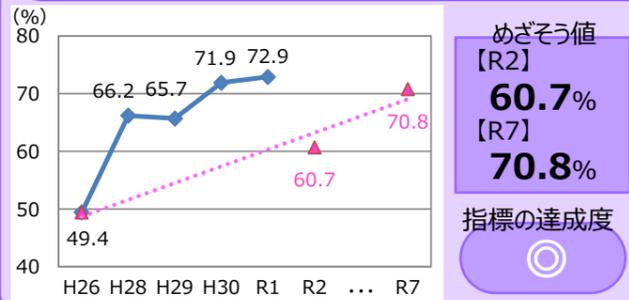
若い人たちが働きやすい労働環境づくりを支援するため、雇用就労対策事業や人材定着支援事業、農業振興事業を行っている。地元の企業で働きたいと感じる労働条件、環境などを今後検討し、企業としての魅力を発信していくことが必要である。

若い人たちと企業をつなぐ仕組みをつくるため、雇用就労対策事業や学校と地域の連携事業を行っている。地元企業の認知度向上や魅力発信のための取り組みが必要である。企業と学校において、就職に関するだけでなく、日頃から連携を図り若い人たちと企業をつなぐきっかけを構築しておくことが重要である。

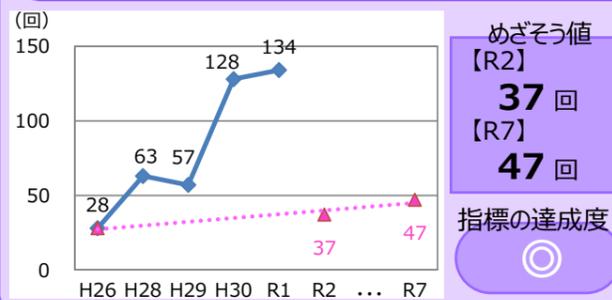
40. 市長や議会、行政は、まちを良くしていくために外からの知識を吸収し、失敗を恐れず果敢にチャレンジしている

まちづくり指標

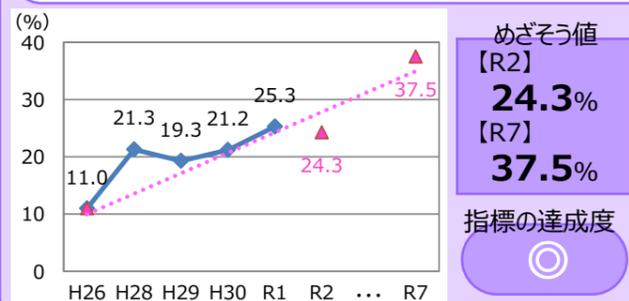
1. 先を見据えた仕事ができている市職員の割合



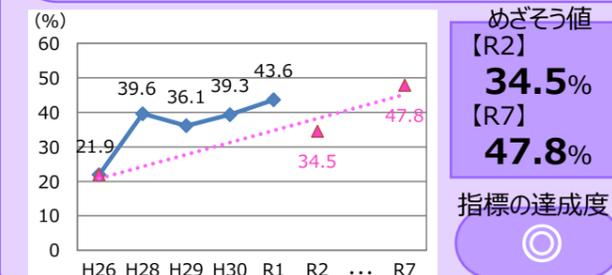
2. 他団体からの視察を受け入れた回数



3. 議員の政策立案能力が高まっていると思う市民の割合



4. 市長・市職員の政策立案能力が高まっていると思う市民の割合



◎ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成している。
○ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していないが、達成傾向である。
▲ : 現状値が、めざそう値(R2)を達成していない。

クロス集計結果について

【まちづくり指標 4 : 市長・市職員の政策立案能力が高まっていると思う市民の割合】

市長・市職員の政策立案能力が高まっていると思う市民の割合について学区別で見ると、ほとんどの地区で割合が40%以上となっている。双峰地区、唐竹地区の2地区においては、割合が30%台となっている。

地区によって、市長・市職員の政策立案能力への満足度に大きな違いはないようである。めざそう値を達成していることから、これまでの取り組みや事業を継続していくとともに、めざすまちの姿の実現に向けてさらに力を入れて取り組んでいくことが期待できる。

各まちづくりの主体に対する役割期待値



本めざすまちの姿に関するまちづくり指標全体の分析及び今後の展望

全ての指標において、めざそう値を達成している。めざそう値の達成状況から考えると、めざすまちの姿である「市長や議会、行政は、まちを良くしていくために外からの知識を吸収し、失敗を恐れず果敢にチャレンジしている」に近づいているようである。

まちを良くしていくためには、今後さらに外からの知識を吸収し、まちづくりへとつなげていくことが求められる。また、失敗を恐れずにチャレンジできる環境をつくっていくことで、チャレンジできる人材を育てていくことにつなげることも期待できる。

大施策

まちを良くしていくために情報を収集し、失敗を恐れずチャレンジする

中施策

- 常に情報を収集し、学ぶ環境をつくる
- 失敗を恐れずチャレンジできる人材を増やす
- チャレンジしやすい環境をつくる

めざすまちの姿に関連する中施策事業等の分析及び今後の展望

常に情報を収集し、学ぶ環境をつくる、また、失敗を恐れずチャレンジできる人材を増やすため、行政視察・政務活動事業や職員研修事業を行っている。行政視察・政務活動事業では、議員が先進事例などを調査研究したことをまちづくりのため、施策や条例提案に活かしていくことが期待される。職員研修事業においては、多様な市民ニーズを受け止め、市民の立場になり、施策への転換、実施に向けた取り組みを目的とした研修がなされている。対象である市議会議員や市職員がまちを良くしていくために取り組んでいくことに加えて、市民をどう巻き込んで、まちづくりへの参画を促すのが重要となる。

チャレンジしやすい環境をつくるため、市長及び副市長が地域の会合など外部の行事に出席するなど渉外事業(活動)を行っている。外部の行事などに出席することで、多くの情報や知識を収集している。まちを良くしていくために、得られた情報や習得した知識を生かしチャレンジしていくことが重要である。